
遊戯王 5 D's もどき ~ 機械竜を従えし少年 ~
帝

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王5D'sもどき ～機械竜を従えし少年～

【Nコード】

N7233U

【作者名】

帝

【あらすじ】

クリスマスに何の予定もなく寂しく家路に着こうとしたら意識が一瞬途切れて・・・！！

《パワー・ツール・ドラゴン》の効果アニメ版に変更

2 パソコンの調子が悪いため更新が遅くなります。

ぶらぶらーぐ(前書き)

z どのレンタル店にもGXの1年生〜2年生中盤の巻がない or

ぶるるーぐ

2007年12月24日、例年通りに何の用事も無く、バイトで来年のための貯蓄を稼いだ。

9月にPSP - 2000とTF2を纏め買いVジャン10月号を3冊購入、前日に行なった友人達との『イヴにいちゃつくカップルを呪う会』でかなり散財したなどの理由から、今俺のサイフはかなりの財政難に陥っていた。

正月は実家に帰省するからいいが、それ以降の大学生活を満足に過ごすのは難しいため、こうして10月から連日せつせとバイトをこなし、財布の中身もそれなりの余裕ができて安心して年越しをすることが出来る。

まあ充実した懐事情とは別に、クリスマスにやることが精々録り溜めたアニメやドラマを見ながら酒飲みながらモンハンかTFやる位しかない上、近年は就職難やら年金問題やら騒がれるてるし大学の成績はヤバ目だし将来に希望が殆ど持てないし、あゝ、遊戯王とかの様にカードが強ければ何とかなる世界に行きたい、無理だけど。

しかもこの時期は雪がチロチロ降って無駄に寒いわ、カップルがアツチコツチに出没してウザいわと一般的成人男性には精神的に実によくはない。さっさと家に帰ってビールでも飲みつつバイト先の残り物のケーキでも食おうと交差点の信号が青なのを確認しつつ足を速めた。

速めてしまった

その瞬間俺の意識は途切れ、自身の身に何が起こったのかすら理解する事が出来なかった。

ぶろろーぐ（後書き）

どこにも見たいGXの巻が無くてカッとなって書いた。
反省はしているが後悔はしていない。

マジですみません。GXのほうも牛歩進行で作成はしております。

いちわ

『現実には小説よりも奇なり』という有名な諺があるが、実際に生きている内に小説よりも奇と言える出来事に遭遇する確率はそれなりに低いだろうし自分は大丈夫、もしくは酷い目には合わないと思いつつ無意識ながら常々思っているだろう、俺もそうだった。

だがしかし、実際に経験してみるとそれが砂糖の蜂蜜漬け並みに甘い考えだと実感できる。

家に帰る途中に一瞬意識が途切れたと思ったら、隣にまだ1歳ぐらいの赤ん坊と一緒に寝ていて自分も同じぐらいの赤ん坊になつてるなんて普通誰も思わねえよ!!!

歩いてたら雷に当たるとか、家の下に不発弾が見つかるとか、飛行機が墜落して無人島に流れ着くとか、見知らぬ妹がダースで押しかけてくるとかなら分るがさすがにコレはない。そういう性癖なんてないし、恥ずかしくて悶死しそうになつたわ。

ああ、ちなみに赤ん坊になつてからもう1週間経ってます。せめてもの救いなのは父親と母親が結構な美形だったことで将来の自分に多少の期待が持てること、何かここ遊戯王の世界っぽいことだな。

……いや、マジで遊戯王の世界っぽい。親が見てるテレビでKCのCMとか遊戯王の試合が普通に放送されてる上にデュエルディスク使ってるしな。

何で『ぽい』と微妙な表現なのは一部の用語の違いとある召喚方

法が理由なんだよ。生贄をリリース、生贄召喚をアドバンス召喚だとか融合デッキがエクストラデッキ、極めつけが『チューナー』とかいう種類のカードとそれ以外のカードのレベルの足算で特殊召喚する『シンクロ召喚』てのがあるんだよ。ナニコレ、剣闘獣か？コンタクト融合か？十代のコンタクト融合もあんなに便利じゃねえよ、むしろ難しいよコンタクト融合。

後、ネオ童実野シティとか遊戯とかが住んでた童実野町の発展型みたいな名前の街があるんだよ、てか今住んでるここがネオ童実野シティらしい。親の話やチャンネル権の無いテレビしか情報源ないし、新聞とか雑誌は赤ん坊である俺の手が届く範囲に一切置かれてないから録に情報が集まらねえからイマイチ詳しいことが分らないんだよな。

とりあえずは多少デカくなるまでは色々とお預け状態だな、カードも触れんし情報も無いし。大人しくして親の心象を良くしとくわ。

ああつと、忘れてたが最後にここでの俺の名前を言つとこう、現代日本人の感性では結構変な名前だがな。

龍^{ルア}亞、それが俺の新しい名前なんだ

にわ(前書き)

次から日常パート予定

にわ

光陰流水の四字熟語の通りに赤ん坊になってから数年、色々なことがあった。ここで初めてデッキを作った妹の龍可とデュエルをして圧勝しちゃって泣かれたり、親に無理行ってここでは結構なレアカードだったけど、前世に使ってたデッキを再現・改良したり、龍可が3歳でデュエル大会に出場して謎の昏睡状態になって大騒ぎになったり、デュエルアカデミア童実野校小等部に入学したりとか。

それとここはやっぱり遊戯や十代とかの世界と同じらしい。数十年前の伝説のデュエリストとして武藤遊戯の名前もあったし。だけど、数十年が経ったとはいえ童実野町がまさかこんな街にあるとはアニメを見てたときには想像もなかったよ。

だけど、流石は遊戯王の世界だと言うべきか、元の世界には無かったカードがかなりある。そのお陰でデッキがかなり強化が出来たわ。正直、揃うとは思わなかったんだけどな、特に融合モンスター。親がトップスで本当に良かった。

まあその親は最近の仕事で家を空けっ放しで俺等兄妹2人だけで暮らしてるが、前世で一人暮らししていたから俺の家事スキルは主婦並みに高い。コナン君状態とはいえ十分に家事をこなすことが可能であり、龍可も手伝ってくれるし、きちんと生活費も振り込まれてるから殆ど問題はない。

それにしてもデュエルを日常的に行ない、可愛い妹を愛でつつ守る使命と前世と比べると比較にならない位に充実した日々を過ごしている。

出来ればこのまま遊戯王お得意の超展開に巻き込まれたりせず、
デュエルアカデミアでお山の大将を気取りつつ、ゆる〜くこの日常
を謳歌したい。

にわ（後書き）

この龍亞にDを使わせるか、それとも別のデッキを使わせるか…
一応、両方のデッキレシピは考えてはいますがどうしましょう？
何か意見があればお願いします。

さんわ(前書き)

龍亞龍可がアカデミアに入ったのはダグナー編の後だと友人に指摘
されましたがそのまま続行

さんわ

『お、おい龍亞、今時間ある!?!』

「ん〜今日は無理だけど明日なら暇になるかもねえ」

ある日の平和な昼?、突然に天さん（本名：早野天兵）が血相を変えて電話を掛けてきた。

「まあとりあえず、落ち着いて要件だけでも言っでご覧よ」

『ああ、うん。今カードショップを大変な事があつたんだ・・・』

~~~~天さん説明中~~~~

「カードハンターねえ。アンティールでのデュエルを強要してレアカードを奪うと、それって俺に言うよりセキュリティに言って取り締まってもらったほうがいいんじゃないの?」

『ただど確實じゃないし時間もかかるよ。そもそも形だけで見れば合意の上でのデュエルだしセキュリティが動いてくれるかも分からないよ』

確かにカードハンターとやらは無理矢理でなく面倒な手順を踏んでわざわざ相手の合意を取り付けてアンティを仕掛けてるらしい。それはセキュリティに対する保険も兼ねてるんだろ?。

「まあ他ならぬ天さんの頼みだし俺がデュエルしてもいいけど、アンティ用のカードは流石に負担できないよ」

『分かってる。ちゃんとコツチで用意してあるよ。残ってるレアカードを皆でかき集めたんだ』

「んんん？何か急に責任が重くなった気がするんだけど・・・」

『それよりも龍亞、さっきから気になってたんだけどその格好は何？』

「何がって只のエプロンですが何か？」

青を基調としたフリフリなエプロンを付け青のバンダナで髪を覆っているだけだ。

「ちなみにコーディネートしたのは龍可ちゃんだけだね」

『あゝ、なるほど。だけどエプロン着けてるってことは何か作ってたのか？』

「いやゝ、昨日ついつい龍可ちゃんのケーキを食べちゃって怒らしちゃってね。お詫びにケーキ作ってたんだよ」

普段仲が良い分、可愛い妹から口をきいて貰えないのはかなり辛い。

「龍可ちゃんの希望を叶えて4段重ねの特別仕様の豪華なケーキだ！」

『4段重なって、龍可ちゃんそんなに食べるの?』

「いや、龍可ちゃんは小食だし経験から言つと多分残った分は俺が食わされると思う。」

いくら俺が甘いモノ好きと謂えど予測される残りのケーキ（ほぼ9割と予想）を全部食べるのはキツイ。だが、コレをこなさなければ龍可ちゃんの機嫌は直らない。

「行きども地獄、されど引いたら更なる地獄。なら俺は前進して未来を掴むぜっ!!--」

『龍亞、お前・・・!!--』

結果として上下座して一度に全部食べるのは許して貰えました。

さんわ(後書き)

多分次当りにデュエルができるはず。それと、今回のエプロン龍  
亞はアニメの龍可ちゃんに青エプロンにバンダナ装備のイメージ。

龍可ちゃんが何度書いてもアニメの様な性格にならない、何故だ…

…  
o r z

よんわ(前書き)

遊戯 WZEXALのアストラルさんがどうしても《N・ティン  
クル・モス》の進化系にしが見えない不具合

よんわ

「天さん、ちわー」

カードショップの前にいた天さんを見つけ、声を掛けた。相変わらず転生？する前に持ってたお金持ちの子供のイメージそのままな格好だね。いや、性格はとっても良い奴なただけ。

「待ってたよ龍亞！あつ龍可ちゃんも来たんだ」

「……………ええ、龍亞が行くって言うから……………」

龍可ちゃんが抱き締めているクリボンのぬいぐるみ（MADE IN N 俺）に顔を埋める様にして天さんに返事をする。うん、凄いと和む。

だけど龍可ちゃん、出来ればもう少し元気に挨拶して欲しいな。あの忌々しいデュエルキッズ大会以降、龍可ちゃんが色々と大変な事になってからは引きこもりがちになって他人とあまり関わろうとしなくなっちゃたし、俺もそんな龍可ちゃんを過保護にし過ぎたせいか俺への依存が激しいし…

一応コレでも天さんや他の友達に関わらせてマシになったんだけどね。

「でカードハンター（笑）とかいうのは何処にいるの？ショップの中？」

「いや、アイツはいつも2時頃にショップに来るんだ」

「……………じゃあ、別に龍亞が今来る必要は無かったじゃない……………」

龍可ちゃんが天さんの話を聞いて呆れた様に愚痴る。

因みに今の時刻は午前10時10分、まだ4時間ぐらい余裕があるし、インドアかつダウンナーな龍可ちゃんが文句を言うのも当然か。

「まあまあ龍可ちゃん、天さんにも考えがあつてこの時間帯に待ち合わせしたんだから、取り敢えずは話を聞こう、ね」

「……………うん……………」

ああ、素直に小さく頷く龍可ちゃんがスゴく可愛らしい。

……………いやね、別にロリコンって訳でなく兄として可愛い妹のちよつとした仕草を可愛いと思っただけでロリコンではない。決してない。

「うん、店長がカードハンターのデュエルを撮影したのがあるから参考になればと思つてね」

ふむ、確かにデッキの中身は手に入れたカードで調整してるかもしれないけど、どんなプレイングをするのか分ければ手の内も読みやすくなるし、流石は天さん気が利くねえ。

「店長ー！連れてきたよー！」

ショップに入ってすぐのレジに座っているオッサンに天さんが声を掛けるが…

「デカっ!!」

座っているのにまるで立っているかの大きさに、ズッシリとした体格、髭もじゃらだが何処か愛嬌がある顔。

「……………クマ?……………」

龍可ちゃんが俺の後ろに隠れるように回ってボソリと呟く。店長の姿は確かに擬人化した熊という容貌であり他人と接するのに慣れてない龍可ちゃんが怖がるのもしょうがない。

「ん?おお、天兵来たか」

見た目に反せず野太い声だが同時に優しさも感じられ、店長の人柄を伺わせる。見た目は熊だけどきっと良い人なんだろう。

「おつ、ガハハハハツ!!なんだ天兵、お前も隅に置けんな。そんな可愛い娘を2人も侍らすとは。見たところ双子の様だが赤色の娘と青色の娘、どっちが本命だ?」

……………前言撤回。

「帰るわ」

「MA TTE!!龍亞、店長も悪気があって言ったんじゃないし、只でさえ龍可ちゃんとそっくりでその格好じゃあしょうがないよ!」

今日の服装はフードにネコミミの様な飾りのついた青色のパーカーにジーンズ、龍可ちゃんは色違いの赤いパーカーにスカートで、龍可ちゃんの要望で買ったお揃いの服だ。

まあ確かに俺と龍可ちゃんは良く似ていて二人揃って同じ服を着ていたらかなりの確率で色々勘違いされるのが目下の悩み事だが、だからといってそうですかと流せる事じゃあない。

「勘違いだろうが何だろうが、俺の心が抉られた事には変わりはないんだよ天さん」

「ちゃんと説明すれば分かってくれるって！ちゃんと謝らせるからお願いだよ、龍亞！」

「ん？どうした天兵、痴話喧嘩か？駄目だぞ、女の子は大切に扱わんな」

.....

「.....もういい、あの熊デュエルでボコるわ」

「龍亞！..！」

「ふむ、俺にデュエルを挑むとは嬢ちゃん、威勢はいいが手加減はしないぞ？」

「いいからデッキを用意しろ」

「ガハハハッ！いいだろう、だが店内だからデュエルディスクは無しだ。デュエルテーブルにつきな」

「嗚呼、なんでこんなことに...！」

「デュエル」

「先攻は嬢ちゃんに譲ってやろう」

「……………ドロー、デュフォーマー《D・フィールド》と《つまずき》を発動しデュフォーマー《D・ラジカッセン》を召喚、《つまずき》の効果で守備表示に変更」

《D・フィールド》      カウンター0      1

「2枚伏せてターンエンド」

龍亞      LP4000      H1      伏せ2

モンスター      《ラジカッセン》

魔法      《つまずき》

F      《D・フィールド》

デュフォーマー「Dとは中々面白いカードを使うな嬢ちゃん。俺のターン！《おろかな埋葬》を発動しデッキから《ネクロ・ガードナー》を墓地に送り《巨大ネズミ》を守備表示で召喚。2枚伏せてターンエンドだ」

「エンドフェイズ時に永続トラップ《悪夢の迷宮》を発動、ターンプレイヤーのフィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの表示形式を変更するよ」

《D・フィールド》      カウンター1    2

「ぬう（除去がない。このままDを調子づかせると数ターン後には押しきられるかもしれん）」

店長      LP4000      H2      伏せ2

モンスター    《巨大ネズミ》

「俺のターン、《ドリーム・ピエロ》を召喚。《つまずき》の効果で守備表示に変更され《D・フィールド》にカウンターが乗り、表側攻撃表示から守備表示に変更された《ドリーム・ピエロ》の効果で《巨大ネズミ》を破壊」

《D・フィールド》      カウンター2    3

「ぬう…」

「更に《ラジカッセン》も攻撃表示に変更」

《D・フィールド》      カウンター3    4

「《D・フィールド》の効果でDの攻撃力はカウンターの数×300、よって《ラジカッセン》の攻撃力は2400。」

《D・ラジカッセン》    ATK1200    2400

「そして攻撃表示の《ラジカッセン》は2回攻撃できる。《ラジカッセン》あの熊にダイレクアタック」

「させん！トランプ《威嚇する咆哮》を《ラジカッセン》の攻撃宣

言前に発動する。このカードが発動した時、このターン譲ちゃんは攻撃宣言はできんよ」

「チェインで《トラップ・スタン》を発動。このターンのエンドフェイズまでこのカード以外のトラップの効果は無効にするため《威嚇する咆哮》の効果は無効」

「くっ、《ネクロ・ガードナー》の効果が発動！このカードを除外し1回のみ相手モンスターの攻撃を無効にする！」

「2回目の《ラジカッセン》の攻撃、ダメージ計算時に速攻魔法《リミッター解除》を発動し《ラジカッセン》の攻撃力は倍となる」

《D・ラジカッセン》 ATK2400 4800

「ぐわあああああああつー!!」

店長 LP4000 0

「ガハハハハッ！そうか譲ちゃんじゃなく坊主だったか。コレは悪いことを言ったな、許してくれ」

「うんまあ、もう言わないだったら別に構わないよオッサン」

デュエルが終わり天さんが事情を店長に教え和解が成立した。いや  
はや、誤解も解けたしちよつと頭に血が上って無駄にデュエルをし  
たせいで龍可ちゃんに

「……………龍亞、デュエル中無表情で少し恐かつ  
た……………」

と少し離れたところから言われた以外は概ね問題なかったね。

「そつだ坊主、龍亞とかいったか、お詫びにこれ等をやるつ。ディフォーマー Dに  
はちよつどいいだろう」

渡されたのは1枚の 7シンクロモンスターと3枚の装備カード

「ん〜、種族的にも丁度いいし、確かにいい効果ではあるけど俺の  
デッキじゃあまり効果は扱い難いかもしれないけど、EXデッキに  
は空きがあるし有り難く貰つとくよ」

この後、やつと早めの昼食をとりながらカードハンターとやらのデ  
ュエルの記録を見ることができた。

## よんわ（後書き）

はい、特に面白みも無いデュエルですみませんでした。

今回の龍亞君のデュエル中の台詞が平坦な感じなのは中身が違うのもありますが、血が頭に上ってるからです。

初回の噛ませとなった店長のデッキは【リクル特攻】でしたが、まあ特に意味も無いので大幅にカットとなりました。

さてココからが本題ですが、この話を書いている途中に友人にふと龍可ちゃんのデッキは何にしようかと話題を振ってしまいました。LP4000でゲームとかのような【キュアバーン】は鬼畜過ぎなので別のを使わせようと思い、TF5で龍可ちゃんを入れ替わった龍亞がエレキを使ってたしコレにしようかと言ったら、何故か【ユベル】なんぞの書きにくいデッキを押し捲ってきやがいました。一応黙らせましたが、龍可ちゃんの使用デッキについてアンケートをとりたいと思います。

- 1・【キュアバーン】
- 2・【エレキ】
- 3・【ユベル】
- 4・そのほかのおススメデッキ

4は使って欲しいカードやデッキを書いて下さい。グーグル先生と共に何とか頑張ってみますので、どうかご協力お願いします。

ちなみに期限はいつになるか分からない龍可ちゃんのデュエルの話までとさせていただきます。

115 (前巻)

暑い

## 116

件のカードハンターのデュエルの記録を一通り見終わって思ったこと

「天さん、何か聞いてたのと違うくない？明らかにカードハンターとやらよりも対戦相手の方がガラが悪いんだけど？」

「うーん、確かに聞いてたのと話が違うな」

天さんが首をかしげつつ呟いたけど今、聞き流せないことを言ったね。

「もしかして天さん、実際にカードハンターとデュエってカードを獲られたりその現場を目撃したりしたわけではないの？」

「いや、ここのカードショップの常連の人達がそう騒いでいたんだよ。今回のアンティ用のカードを準備してくれたのもその人達だし」

……………ソレ絶対に騙されてるって！アンティデュエル挑んだら返り討ちにあった馬鹿達が騒いでただけだよ！クソ、そういう噂は前もって裏付けをとってから関わるかスルーするかを決めるのが定石なのに何無関係なのにこんな事に関わってたんだよ！

「あゝ、何か一気にやる気が無くなったわ。店長は何かこの噂について知らんの？」

「ふん、そういえば結構前にこの馬鹿共が何かはしゃいでいたことぐらいだな。まあアイツが進んでアンティなんてせんだらうが」

「ちよ、ちよつと待って、店長カードハンターのデュエルについて聞いた時すぐコレを見せてくれるって約束したじゃない！ソレって店長もあの人がカードハンターって呼ばれてることを知ってたんだよね！」

「ああ、アイツはシティのカードショップではデュエルとは別に結構名が通っていてな。どんなパックからでもレアカードが入ってるのを的確に見抜くレア抜きの人、通称カードハンターと俺等経営者の間で恐れられていやがるのさ。アイツが買って行ったあとはレア入りがほとんど残ってらないから知っている奴はパックを買おうとしなくなっって売り上げに響くからな」

つまり、ガラが悪い連中がレア目的でアンティ挑んで返り討ち。勘違いした天さんを焚き付けて助っ人、つまり俺にデュエルさせようとした訳か。その助っ人がまさか小学生だとは思ってなかっただろうしね。

「そうなると天さんが預かっているレアカードも本当にそいつ等の物が怪しいもんだね、関係ないけど」

ふう、遊戯王お得意の些細な事から超展開フラグかと憂鬱感がありながらも少し期待してたけど、龍可ちゃんみたいな特殊スキル持ちじゃない俺の様な一般人モブにはやはり関係無い事っぽいね。

「じゃあ、一件落着ということとで解散かな。天さんが預かっているカードは店長から連中に返却して貰えばいいし、龍可ちゃんも飽きてるみたいだし」

クリボンのぬいぐるみから伸びるヘッドホンから流れる音楽の方に

意識を向けてる様子から完全にこの話題から興味を失ってるのが見  
てとれる。

「天さん、安請け合いするにしてもコレからはきちんと本当かどう  
か調べてからにしてね」

「うっっ、うっ、ごめん……」

「待て待て、後少しでアイツも来るだろうし、せつかく来たんだか  
らデュエルしていけ。アイツの実力は此処等だとピカイチだしな。  
きつと楽しいデュエルが出来るだろうさ」

「あゝ、だけどなあ。何かモチベーションが上がらないというか根  
こそぎやる気がなくなちゃってどうでもいい気分だわ」

朝から頑張つてケーキの残りを処分して駆けつけたと思ったらコレ  
だし、正直早く家に帰って寝たい。

「……………龍亞……………」

「ん？何、龍可ちゃん？」

「……………私……………龍亞がデュエルで勝つと  
ころを見たいな……………」

「任せて龍可ちゃん！カードハンターだろうがキングだろうが誰で  
も倒してあげるよ！」

うん、俄然とテンション上がってきたわ。なんか天さんと店長が変  
な顔してるけどどうでもいい位テンションが上がりまくりだね

「よし、そうと決まれば店長！この店のカードカタログを見せて！折角だし店長からもらったカードをきちんと回せるように調整するか」

「あ、ああ。少し待ってる、持ってくるから」

さて、店長から貰ったシンクロを生かすなら【装備ビート】が一番手っ取り早い。そうなるとうヴァイロン系で固めるのが個人的には楽だけど、それだとあの装備魔法が生かし切れんし俺の愛しい可変口ボ共の活躍が無くなるしな。

「コンボパーツも変えないといけないね。結構大幅にデッキを調整することになるね。本番前に2、3回回してみないといけないし……」

「それよりも龍亞よ、お前ちゃんとカードを買う金を持ってるのか。何枚もカードをやる余裕なぞ俺の店にはないぞ」

店長がカタログを持ってきながら愚問を投げつけてくる。

「大丈夫、大丈夫。カードで一括払いするよ」

限度額無しのカレジットカードを掲げて見せると先ほどよりも変な顔になる天さんと店長。

「トップスとはいえ最近のガキはカードで買い物をするのか……」

「いや、龍亞達が例外なだけだと思っけど……」

さて、どんな構築にするかな

## しつわ(後書き)

兄と同じ名前のユーザーネームの方を発見してびっくりした

## ろくわ(前書き)

来週にレポートの~~レ~~切二本、期末試験三つが控えているので次回の更新は最低一週間自重します。

ろくわ

「店長、来た途端にデュエルしろって言われても意味が分からないんだけど」

オツチャン、俺もショップに入っただけで理由の説明も無いいきなりデュエルしろは流石に無いと思うわ。

「ガハハハッ、この坊主がお前とデュエルしたいと言っていてな。相手をしてやってくれ」

「その子が私とデュエルしたがつてるのは分かったから取り敢えず名前ぐらい教えなさいよ」

「そうだな、まずデュエルしたがつてるのが龍亞、こんなナリでも男だ。そして龍亞にそっくりなのが龍亞の妹の龍可、最後のメガネが天兵だ。そしてコイツがお前らの目的のカードハンターの紫だ！」

「こんちわ〜」

「こんにちは」

「……………」

「ちょっと待って、何その『カードハンター』って！何で私の紹介にそんな変な単語が出てくるのよー！」

「気にするなっ！…デュエリストなら挑まれたデュエルは受けるの

が道義！さあさあ、2人ともデュエルテーブルにつけ！」

「無理矢理過ぎる！」

「それと、コイツ等にお前のこの前のデュエル記録を見せたからデ  
ッキ内容は大体把握されてるからな」

「しかも情報アドのハンデ付き!？」

「でわよろしくお願いします、紫さん」

「はあ、まあいいわ。えつと龍亞君だっけ？デュエルアカデミア中  
等部首席の実力を見せてあげるわ」

「デュエル！」

「俺からいくよ、ドロー!《D・モバホン》を召喚して効果発動!  
1から6の出た数字の数だけデッキをめくりその中にDがあれば1  
体特殊召喚でき、残りはデッキに戻してシャフルする!さてさて、  
出た数字は、3!3枚めくるよ」

《オーバー・ロード・フュージョン》

《D・スコープン》

《ネクロ・フェイス》

「《D・スコープン》がいたから攻撃表示で特殊召喚して残りはシ  
ヤフル!そして《D・スコープン》の効果で手札から4以下のD

を1体特殊召喚できる！いでよ《D・ラジカッセン》！」

「1ターンでモンスターが3体、しかもチューナー付ということは……」

「ここからが本番だよ！ 4の《ラジカッセン》に 3の《スコープン》をチューニング！」

4 + 3 = 7

「魂が宿りし玩具の竜よ、その鋼の一撃で全ての敵を打ち砕け！シンクロ召喚！起動せよ《パワー・ツール・ドラゴン》！」

「《パワー・ツール・ドラゴン》！？」

「《パワー・ツール・ドラゴン》の効果、1ターンに一度デッキからランダムに装備魔法を1枚手札に加えられる！」

サーチされたのは店長から貰った装備カード、なかなか良いカードがきたね。

「加えた《ダブルツール D&C》を《パワー・ツール・ドラゴン》に装備！更に《二重召喚》を発動して《トライデント・ウォリアー》を召喚！このカードは召喚に成功した時に 3のモンスターを特殊召喚できる！《ヴァイロン・キューブ》を特殊召喚！」

「またチューナーと素材を……」

「4の《トライデント・ウォリアー》に 3の《ヴァイロン・キューブ》をチューニング！」

4 + 3 = 7

「創られし光の使者よ、争いを静める神器を地上に降ろせ！シンク  
口召喚、輝け《ヴァイロン・デルタ》！」

「最後にカードを1枚伏せてターンエンド、エンドフェイズに《ヴ  
アイロン・デルタ》の効果でデッキから装備魔法を1枚手札に加え  
られる。《D・リペアユニット》を加えるよ」

龍亞 LP4000 H1

モンスター3

《D・モバホン》

《パワー・ツール・ドラゴン》

《ヴァイロン・デルタ》

魔法・罫2

伏せ1

《ダブルツール D&C》

「私のターン、ドロ！。《E・エマーゲンシーコール》で《E・  
HERO エアーマン》をサーチし守備表示で召喚、《E・HER  
O スパークマン》をサーチ。2枚伏せて《デンジャラスマシン  
TYPE - 6》を2枚発動。そしてエンドよ」

紫 LP4000 H2

モンスター1

《E・HERO エアーマン》

魔法・罫4

伏せ2

《デンジャラスマシン TYPE - 6》

《デンジャラスマシン》 TYPE - 6》

「俺のターン、ドロー！《モバホン》の効果発動！出た数字は、よしっ5！5枚めくるよ」

《D・バインド》

《D・リモコン》

《ヴァイロン・キューブ》

《霊滅独鈷杵》

《リポーンリボン》

「《D・リモコン》を特殊召喚！《リモコン》の効果で《ラジカッセン》を除外して同じ 4の《D・ラジオン》をデッキから加える！そのまま《ラジオン》を攻撃表示で召喚、攻撃表示の《ラジオン》の効果でDは攻撃力800アップ！」

「《ラジオン》が召喚されて時にリバーオープン《激流葬》。フィールド上全てのモンスターを破壊するわ」

「！《パワー・ツール・ドラゴン》は装備カードを墓地に送ることで破壊を免れるよ！」

「でも他のモンスターには退場して貰うわ」

激流が《パワー・ツール・ドラゴン》以外のモンスターを洗い流した。

「くっ！《パワー・ツール・ドラゴン》の効果で装備カードをサーチ！そして《D・パッチン》をコストに《D・リペアユニット》を発動！《モバホン》を蘇生して装備！そして効果！出た数字は2、

2枚めくる!」

《激流葬》

《閃光の双剣 トライス》

「Dは無しね」

「くっ、《パワー・ツール》に《ブレイク・ドロー》を装備して《モバホン》、《パワー・ツール・ドラゴン》の順にダイレクトアタック!」

紫 LP4000 3900

《パワー・ツール・ドラゴン》のドライバーが紫を貫こうとしたら、その切先がバリアみたいなのモノに弾かれた。

「《パワー・ツール・ドラゴン》からのダメージを受ける時に《カード・ブロック》を発動したわ。ダメージを無効にして1枚ドロー」

「……………俺はこのままターンエンド」

龍亞 LP4000 HO

モンスター2

《D・モバホン》

《パワー・ツール・ドラゴン》

魔法・罫3

伏せ1

《D・リペアユニット》

《ブレイク・ドロー》

「私のターン、ドロー。(さて、この子のデッキはDが中心の【装

【備ビート】ばいけど、《モバホン》の効果の時に変なカードも見えた。面倒な事になる前にここは一気に方を付けましようか！2枚の《デンジャラスマシ》の効果、スロットの出た目によって効果が決まるわ。出たのは3と5、3は1枚カードをドロウする、5は相手ワールド上のカードを1枚破壊。《パワー・ツール・ドラゴン》を破壊対象にしカードをドロウ！

「《パワー・ツール・ドラゴン》の効果で破壊を無効！」

「《死者蘇生》で《エアーマン》を蘇生して《E・HERO エツジマン》をサーチ。《沼地の魔神王》を墓地に送り《融合》をサーチして発動。《エツジマン》と《スパークマン》を融合、現れなさい《E・HERO プラズマヴァイスマン》！」

金色の装甲を身に付け雷撃を纏うHEROが登場する。

「破壊効果持ちHERO……………」

「《ミラクル・フュージョン》で墓地の《スパークマン》と《エツジマン》を除外融合し《E・HERO The シャイニング》を融合召喚！」

今度は純粹に自身が光を放つHEROが出現した。

「《シャイニング》は除外されてるHEROの数×300攻撃力が上昇するから攻撃力3200になるわ。《プラズマヴァイスマン》の効果でカード1枚捨てて《パワー・ツール・ドラゴン》を破壊！」

常に帯電している《プラズマヴァイスマン》の電撃が一点に収束し、光線のように放たれ《パワー・ツール・ドラゴン》を貫いた。

「っ！《パワー・ツール・ドラゴン》がっ」

「《エアーマン》で《モバホン》に攻撃よ」

「リバースカードオープン！」

《エアーマン》と《モバホン》は光の網の様なのに遮られた。

「《D・バインド》の効果で紫さんの 4以上のモンスターは攻撃出来ないよ！」

「まあ、防いでくるわよね。このままエンドよ」

紫 LP3900 HO

モンスター3

《E・HERO エアーマン》

《E・HERO プラズマヴァイスマン》

《E・HERO The シャイニング》魔法・罨2

《デンジャラスマシン TYPE-6》

《デンジャラスマシン TYPE-6》

「俺のターン、ドローツ！《モバホン》の効果発動！出た数字は…

…4！4枚めくるよ」

《D・ラジカッセン》

《D・スコープン》

《ダブルツール D&C》

「《ラジカッセン》を選択し守備表示で召喚！そして《貪欲な壺》

を發動して《パワー・ツール・ドラゴン》《ヴァイロン・デルタ》  
《ヴァイロン・キューブ》《トライデント・ウォリアー》《D・ス  
コープン》をデッキに戻して2枚ドロ！《D・ボードン》を守備  
表示で召喚して《モバホン》を守備表示に変更。《モバホン》の守  
備の効果も使うよ……3、デッキトップから3枚確認してターンエ  
ンド」

龍亞 LP4000 H1

モンスター3

《D・モバホン》

《D・ラジカツセン》

《D・ボードン》

魔法・罫2

《D・リペアユニット》

《D・バインド》

「私のターン、《デンジャラスマシン TYPE-6》2枚の効果、  
出た目は……両方3、よって計2枚ドロ」

(記録見てる時も思ったけど斎王並みのチートだね)

「ふむ、さて龍亞君、中々楽しめたけどそろそろ終わりにしましよ  
うか」

「!?!」

「まずは《ハリケーン》を發動、全ての魔法、罫を手札に戻す。そ  
して《D・リペアユニット》がフィールドからなくなったため《モ  
バホン》は破壊され私の攻撃も通るようになる」

《D・バインド》が無くなったため今まで龍亞と紫の場を遮ってい

た光の網が消えた。

「《手札断殺》を発動、互いに手札2枚を墓地に送り2枚ドロ！。  
《禁じられた聖杯》を《ラジカッセン》に発動、攻撃力を400上げて効果を無効にするわ。バトルフェイズ、《プラズマヴァイスマン》で《ボードン》を攻撃」

龍亞      LP4000    3200

「……………！」

「《エアーマン》で《ラジカッセン》に攻撃。最後に《The シヤニング》でダイレクトアタック」

龍亞      LP3200    0

「あゝあ、負けちった。やっぱ激流葬が痛かったなあ」

「流石に小学生に負けられないからね。まあ、《パワー・ツール・ドラゴン》を持つてる事や1ターン目にシンクロモンスターを2体揃えられた時は驚いたけど」

はあゝ、だけど本当にアンティールで戦わなくて良かったよ。分かってたけどマジに強かったわ。

「ガハハハハッ、龍亞にとっては残念な結果だが2人ともいいデュエルだったぞ。まあ、組み直してして3、4回しか回して調整して

ないデツキじゃあしょうがないがな!」

「龍亞ならいけると思ってたけど無理だったか」

「.....」

見ていた店長や天さんが思い思いに言うけど、俺としては龍可ちゃんの無言が怖い。

「る、龍可ちゃん、いやね、これでも頑張ったんだけどね? やっぱ勝負は時の運とも言つし.....許して下さい」

無言の龍可ちゃん、マジで怖い。

「.....私がやる.....」

「えっ?」

「.....次は.....私があの人とデュエルする.....」

ろくわ(後書き)

携帯でデユエルシーン書くのはじょうぶい。

ななわ かい（前書き）

「退けのび太、そいつは本来この世界に存在することの無かった奴だ。そいつが原因で俺たちの居場所が無くなるのなら、俺はそいつを殺すことに何の躊躇いも無い」

「ダメだジャイアン！！ピー助は何も悪くない、悪くないんだ！それにピー助を殺さずに何とかする方法も必ずあるハズだ！！」

「確かにその方法もあるかもしれない。だが、ソレを見つけれられるかは分からないだろう。そんな不確かな事に全てを賭ける事は出来ない」

「皆が力を合わせれば必ず見つける事が出来るハズだ！ボクは諦めない、必ずピー助も現代も未来も必ず救ってみせる！！」

「……………言葉で語っても平行線のままだ。のび太、お前がソイツを守りたければ俺を撃ち殺せ。じゃなければ俺はソイツを、ピー助を殺す」

「ジャイアン！！」

「俺には、あの場所に守らなきゃいけない妹がいる。そのためなら俺は悪鬼羅刹にもなる。お前も大切な奴を失いたくなければ覚悟を決める！のび太！！」

だれかこんなノリで『のび太の恐竜』の話書いてくれないかな。勿  
論、1980年3月15日に公開された古い方で

ななわ かい

「えっと、龍可ちゃん？ほら、紫さんもさっき俺とデュエルしたばっかだし。それに……」

「やる」

「いやね、やるって言うてもきちんとして相手の承諾をね……」

「やる」

「だからね……」

「やる」

「……………」

「やる」

紫さんの方を見ると、こちらのやり取りを見て軽く笑っていたが頷いてくれた。

「あ、うん。頑張ってるね、龍可ちゃん」

「……………うん……………」

龍可ちゃんを入れ替わりで店長達の方に引っ込む。

「もつちよっと頑張ろうよ、お兄ちゃん」

「いや天さん、これはしょうがないって。あの龍可ちゃんがやるって断言しまくってたし兄として応援したくなるよ。」

あまり注意や反対したて嫌われるのも嫌だし。

「ふむ、だが龍可は強いのか？紫はデュエルアカデミア中等部首席だけあって、生半可だとさっきの様に数ターンで終わるぞ？」

「うーん、多分大丈夫かな？こういう言い方はイヤだけど龍可ちゃんは俺とは違って……………天才だからね」

「私の方はいつでもいいけど、龍可ちゃんデッキは？」

「……………ここにある……………」

龍可ちゃんはクリボンのぬいぐるみの背についているジッパーを下ろし中からデュエルディスクを取り出しデッキを抜く。

「……………じゃあ始めましょうか」

「……………うん……………」

「デュエル！」

「デュエル……………」

さて、龍可ちゃんのお手並み拝見といきますか。

「龍可ちゃんの先攻でいいわよ」

「……………ドロー……………カードを伏せて……………《手札抹殺》を発動……………互いに手札を捨ててその枚数分ドロー……………」

流石に《エアーマン》《プリズマー》に《ミラーフォース》が墓地行きはキツイわね

「5枚捨てて同じ枚数分ドローね」

「……………《クリボン》を召喚して……………2枚カードを伏せ……………エンド……………」

龍可 LP4000 H1

モンスター1

《クリボン》

魔法・罫3

伏せ3

「私のターンね」

《クリボン》か、効果破壊が出来るカードが今手札に無いし、しょうがないわね

「とりあえず《戦士の生還》を発動して《エアーマン》を手札に戻してそのまま召喚。デッキから《E・HERO スパークマン》をサーチして《融合》を発動。手札の《スパークマン》と《沼地の魔神王》を融合し、現れなさい《E・HERO シャイニング・フレア・ウイングマン》」

龍亞とのデュエルで出た《The シャイニング》よりも白い輝きを放つHEROがその輝く翼を広げて降り立った。

「《E・HERO シャイニング・フレア・ウイングマン》は墓地にそんざいするE・HEROの数×300ポイント攻撃力が上昇するわ。私の墓地に存在するE・HEROは《プリズマー》《スパークマン》《クレイマン》の3体、よって攻撃力3400。バトルフェイズ、《エアーマン》で《クリボン》に攻撃」

「……………《クリボン》の効果……………戦闘ダメージを0にして……………その分相手のライフを回復……………そして《クリボン》を手札に戻す……………」

紫 LP4000 5800

伏せカードの発動は無し、《攻撃の無力化》や《ミラーフォース》の様な1枚で全体の攻撃を止めるカードでは無いようね

「《シャイニング・フレア・ウイングマン》でダイレクトアタックするわ」

「……………リバーズ発動……………《リミット・リバーズ》……………墓地から《ユベル》を蘇生……………」

地面が割れ、そこから禍々しい気配を放つ人形の悪魔が龍可のフィールドに現れる。

攻撃力0のモンスター？わざわざ《シャイニング・フレア・ウィングマン》の攻撃時に《リミット・リバーズ》で蘇生したと言うことは戦闘による破壊耐性が、戦闘破壊で何かしらの効果を発動するモンスター、他にも考えられるけど、理屈以前にあのモンスターは何か嫌な感じがするわね

「……………、《シャイニング・フレア・ウィングマン》の攻撃は中止、メイン2で《融合回収》で《融合》と《沼地の魔神王》を回収。《デンジャラスマシン TYPE 6》を発動、1枚伏せてエンドよ」

「……………リバーズ発動……………2枚目の《リミット・リバーズ》……………《毒蛇王ヴェノミノン》を蘇生……………」

紫 LP5800 H3

モンスター2

《E・HERO エアーマン》

《E・HERO シャイニング・フレア・ウィングマン》

魔法・罫2

伏せ1

《デンジャラスマシン TYPE 6》

《毒蛇王ヴェノミノン》、墓地に爬虫類族がないのにコイツを準備表示になったら破壊される《リミット・リバーズ》で蘇生したということももう一枚の伏せカードは……………

「……………ドロー……………スタンバイフェイズに《墮天使マリィ》の効果……………墓地に存在する限り……………1ターンに1度だけライフを200回復……………」

龍可 LP4000 4200

「《毒蛇王ヴェノミノン》を守備に変更して……………《リミット・リバース》の効果で破壊……………リバース発動《蛇神降臨》……………《毒蛇王ヴェノミノン》が破壊された時……………手札かデッキからこのカードを特殊召喚する……………《毒蛇神ヴェノミナーガ》」

全身にトリハダが立つほどの威圧感を撒き散らしながら、ゆっくりとした動きでその『神』は現出した。

っ！！何これ、《ヴェノミナーガ》前に別のデュエルで見かけたことはあつたけど、こんな異常なプレッシャーを放つモンスターじゃ無かつたハズ

「……………《ユベル》も守備に変更して破壊……………《ユベル》が破壊された時……………手札、デッキ、墓地から特殊召喚できる……………痛みを糧に進化して《ユベル D a s A b s c h e u l i c h R i t t e r》……………」

人形であつた《ユベル》はその姿を変異させ、完全に異形の悪魔になり身に纏う禍々しい気配も更に際立つモノになった。

「自身の破壊をトリガーに進化するモンスター……………ね」

それでも攻守共に0、やっぱり何か特別な能力を持っている筈よね

「……………《クリボン》をコストに《スネーク・レイン》……………  
…デッキから爬虫類族モンスター4体を墓地に送る……………《  
ヴェノミノン》《邪龍アナタ》《ブラック・マンバ》2体を墓地  
へ……………《ヴェノミナーガ》は墓地の爬虫類族モンスター×  
500攻撃力を上昇させるため攻撃力2500……………」

攻撃力2500ならまだ《シャイニング・フレア・ウィングマン》  
で何とかなるけど、もう1体はよく分からないしさつさとどうにか  
したいわね

「……………《壺の中の魔術書》を発動……………お互いに  
3枚ドロ……………モンスターを裏守備表示で召喚……………  
…カードも1枚伏せて《強制転移》……………伏せモンスターを  
選択……………」

「……………《エアーマン》を選択するわ」

「……………バトルフェイズ……………《エアーマン》で  
伏せモンスターを攻撃……………」

エアーマンが起こした突風に吹き飛ばされるように伏せモンスターが  
表側表示になり破壊された。

「……………破壊されたのは《メタモルポット》……………  
……………互いに手札を全て捨て……………5枚ドロ……………メインフ  
ェイズ2……………《墮天使マリー》をコストに……………《スネーク・レ  
イン》を発動……………《ブラック・マンバ》《呪念の化身ウルボ  
ヌス》《ヴェノム・コブラ》2体……………《ヴェノミナ  
ーガ》の攻撃力は4500……………1枚伏せてエンド……………」

……」

「《ヴェノミナーガ》が攻撃力4500つてのはちよつとキツイけど、私のター……」

「《ユベル Das Abscheulich Ritter》は……私のエンドフェイズ時に……このカード以外のモンスター全てを破壊する……《ヴェノミナーガ》は自身以外のいかなる効果も受け付けず……戦闘以外では破壊されない……」

《ユベル Das Abscheulich Ritter》が天に向かつて咆哮を上げ、《ヴェノミナーガ》以外の他のモンスターを一掃する。

「全体破壊!？」

「……これで……私のターンの処理は終わり……」

龍可 LP4200 H2

モンスター2

《毒蛇神ヴェノミナーガ》

《ユベル Das Abscheulich Ritter》

魔法・罫3

伏せ3

「私のターン、ドロップ!」

マズイ、《ヴェノミナーガ》に戦闘ダメージを3回貰ったらHヴェノムカウンターが貯まって 負けが確定するけど、守備を固めても

モンスターは龍可ちゃんのエンドフェイズで《ユベル》に破壊される。《ユベル》をどうにかしないと戦線の立て直しは厳しい。けど、攻撃力0を攻撃力表示で出したってことは効果で戦闘ダメージを受けない、それで無くとも何かしらの破壊耐性を持っていると推測できる。伏せも気になるし簡単には動けないわね

「……………スタンバイフェイズに……………チェーンでリバース……………《シモチ》による副作用》《ダーク・キュア》……………《シモチ》による副作用》は相手の回復効果をダメージに変換……………《ダーク・キュア》は相手がモンスターを通常 反転、特殊召喚したらその攻撃力の半分の値ライフを回復……………」  
……………だめ押しにバーン…ね、無駄にモンスターを出すことも厳しくなったわね

「……………《デンジャラスマシン TYPE 6》の効果……………3、1枚ドロ。2枚伏せて《光の護封剣》を発動、ターンエンドよ」

紫 LP5800 H5

モンスター0

魔法・罫5

伏せ3

《デンジャラスマシンTYPE6》

《光の護封剣》○○○

「……………ドロ……………スタンバイフェイズに2体の《墮天使マリー》の効果……………400回復……………」

龍可 LP4200 4400 4600

「……………《クリッター》を召喚……………《成金ゴブリン》を2枚発動……………相手を1000回復させて……………1ドロ……………」

紫 LP5800 4800 3800

「っ！《シモッチによる副作用》のせいでデメリットの無い《火炎地獄》ね」

「……………1枚伏せてエンド……………エンドフェイズに《ユベル》の効果……………他のモンスターを破壊……………墓地にいった《クリッター》の効果……………攻撃力1500以下の《ビッグバンガール》を加える……………」

龍可 LP4600 H2  
モンスター2

《毒蛇神ヴェノミナーガ》《ユベル Das Abscheulich Ritter》  
魔法・罾4  
伏せ2

《シモッチによる副作用》  
《ダーク・キュア》

「ドロー。《デンジャラスマシン TYPE 6》の効果……………5！相手モンスター1体を破壊する、《ユベル Das Abscheulich Ritter》を破壊！」

「……………リバーズ発動……………《ユベル》を対象に《安全地帯》を発動……………相手の効果対象にならず……………戦闘、効果で破壊されない……………」

ふむ、龍可ちゃんは《ユベル》を《デンジャラスマシン TYPE 6》から庇った。つまりはあのモンスターには効果破壊の耐性は

無い。だとすれば今の手札で十分ね

「《融合》を発動、手札の《ワイルドマン》と《フェザーマン》を融合し《E・HERO ワイルド・ウィングマン》を守備表示で融合召喚」

「……………攻撃力1900の半分……………950のダメージ……………」

紫 LP3800 2850

「《ワイルド・ウィングマン》の効果、手札を1枚捨てて魔法、罠を1枚破壊できる。《安全地帯》を破壊するわ！」

「……………させない……………リバーズ発動《亜空間物質転送装置》……………  
……………《ユベル》をエンドフェイスまで除外……………」

《ワイルド・ウィングマン》の一撃が《安全地帯》を撃ち抜く前に  
《ユベル Das Abscheulich Ritter》がフ  
イールドから姿を消した。

「フイールドから離れたから《ユベル》と《安全地帯》の関わりが  
消えたか、もう一度の効果を<sup>ワイルド・ウィングマン</sup>使って《シモツチによる副作用》を破  
壊してエンド」

「……………エンドフェイス……………《ユベル》が帰還……………」

紫 LP2850 H1

モンスター1

《ワイルド・ウィングマン》

魔法・罠5

伏せ3

《デンジャラスマシン》 TYPE 6

《光の護封剣》 ○○

「……………ドロー……………《墮天使マリー》の効果で回復……………」

龍可 LP 4600 4800 5000

「……………《マジック・プランター》で《ダーク・キュア》をコストに2枚ドロー……………《ハリケーン》発動……………フィールド全ての魔法、罫を戻す……………」

「《威嚇する咆哮》を発動、このターンの攻撃宣言を封じるわ」

「……………2枚伏せ……………《天よりの宝札》…互いに手札が6枚になる様ドロー……………手札を2枚捨てて《魔法石の採掘》発動……………《貪欲な壺》を手札に加えてコストにした《髑髏顔》 天道虫《》の効果で1000回復……………」

龍可 LP 5000 6000

「……………そして《貪欲な壺》発動……………《クリッター》《クリボン》《ビッグバンガール》《マシユマロン》《墮天使ナース》レフィキユル《》をデッキに戻し2枚ドロー……………さらに2枚伏せてエンド……………」

龍可のエンドフェイズに《ユベル Das Abscheulich  
h Ritter》の咆哮により《ワイルド・ウィングマン》が破壊される。

龍可 LP6000 H3

モンスター2

《毒蛇神ヴェノミナーガ》

《ユベル Das Abscheulich Ritter》

魔法・罨4

伏せ4

「ドロー、とりあえず《デンジャラスマシン TYPE 6》を發動して《ミラクル・フュージョン》、墓地から《スパークマン》と《クレイマン》を除外融合し《E・HERO サンダー・ジャイアント》を融合召喚。手札を1枚捨てて効果発動、《ユベル》を破壊するわ！」

雷を操るHEROの一撃が異形の悪魔を貫き焼き尽くす。

「よし！《ユベル Das Abscheulich Ritte  
r》撃破！！」

「……………《ユベル Das Absch  
eulich Ritter》は破壊されたことにより更なる進化  
を遂げ蘇る……………墓地から《ユベル Das Ext  
rem er Traurig Drachen》を召喚……………  
……………」

《ユベル Das Abscheulich Ritter》が破壊された事で、《毒蛇神ヴェノミナーガ》を越える、呼吸すら困難になるほどのプレッシャーを撒き散らす『何か』が降臨する。

「っ！！まだ進化系があったのね……………龍可ちゃん1つ質問だけ  
ど、この《ユベル》も全体破壊効果を持つてるの？」

「……………いいえ……………破壊効果を持つているのは《ユベル Das Abscheulich Ritter》だけ……………《ユベル Das Extremier Trauring Drachen》は全てのデメリットを排除した完全な《ユベル》……………」

「ふむ、最初の《ユベル》も何かしらのデメリットを持ってたわけね」

「……………《ユベル》は維持コストに自分のエンドフェイズに……………他のモンスターを生贄に捧げないといけないの……………《ユベル Das Abscheulich Ritter》は無差別な破壊効果……………そしてデメリットとは別に《ユベル》達が共通している効果がある……………」

「それが一番知りたいわね。考えすぎて頭が痛くなりそうだし」

「……………共通しているのは戦闘ダメージ無効と……………戦闘破壊耐性……………そして《ユベル》に攻撃してきたモンスターの……………攻撃力分のダメージを相手に与える……………」

ダメージ無効と戦闘破壊耐性は当たってたけど、バーン効果も持ってたとは……………攻撃しなくてよかった

「……………そして完全体のユベル Das Extremier Trauring Drachen》はコレ等の効果に……………自身が攻撃しても相手モンスターの攻撃力分のダメージを与えることができる……………」

「……………なるほど、確かに強力な効果ね」

手札にはさっきのターンに戻された《光の護封剣》と《攻撃の無力化》、そして龍可ちゃんのデッキは《貪欲な壺》でカードを補充してたけど明らかに残り少ない。《光の護封剣》を守りつつ《E・HERO セイラーマン》辺りを出せれば逆転の目もあるかな？

「《ホープ・オブ・フィフス》を発動、《ワイルド・ウィングマン》《シャイニング・フレア・ウィングマン》《エアーマン》《プリズマー》《ワイルドマン》をデッキに戻して2枚ドロ、《光の護封剣》を発動して《フォレストマン》を守備表示で召喚、さらに1枚伏せてエンド」

「……………エンドフェイズに最後の《リミット・リバーズ》を発動……………《ユベル》を蘇生」

紫 LP2850 H2

モンスター2

《E・HERO サンダー・ジャイアント》

《E・HERO フォレストマン》

魔法・罫4

伏せ3

《デンジャラスマシン TYPE-6》

「……………ドロ……………《墮天使マリー》の効果で回復……………」

龍可 LP6000 6200 6400

「……………《墮天使ナース レフィキュル》を召喚……………《ギフトカード》を発動……………相手は3000回復するけど……………《レフ

イキユル』は『シモツチによる副作用』と同じ効果を持つてるから  
…… 3000ダメージ……」

「『シモツチによる副作用』で予想はしてたわ、1000のライフ  
を払い『盗賊の七つ道具』で効果を無効化する」

紫 LP2850 1850

「…… チェーン『魔宮の賄賂』……」

「さらにチェーンで『神の宣告』」

紫 LP1850 925

「…… 順序に処理…… 『ギフトカード』は無効……  
……」

「…… 『爆導索』を発動…… 『爆導索』『ユベル Das E  
xtrem er Traurig Drachen』『サンダー・  
ジャイアント』『光の護封剣』を破壊……」

「っー!! 『光の護封剣』に『サンダー・ジャイアント』がっ」

「…… 『ユベル』を守備に変更し破壊…… 墓地から『ユ  
ベル Das Abscheulich Ritter』を特殊召  
喚……」

またでたよ

「…… 『ヴェノミナーガ』で『フォレストマン』を攻撃……」

「……………」

《ヴェノミナーガ》の両腕の大蛇が吐き出した猛毒に直撃した《フオレストマン》はもがきながら融解し破壊される

「……………」《レフィキュル》でダイレクトアタック……………」

「《攻撃の無力化》で《レフィキュル》の攻撃を止めてバトルフェイズを終了させるわ」

「……………」2枚伏せてエンド……………」

龍可 LP6400 H2

モンスター2

《毒蛇神ヴェノミナーガ》

《ユベル Das Abscheulich Ritter》

魔法・罾2

伏せ2

「私のターン、ドロー。《デンジャラスマシン TYPE-6》の効果……………」2、龍可ちゃんに手札を1枚捨ててもらっわ」

「……………」

ああ、ここまで追い詰められたり長引いたのは中等部が上がってから初めてね。しかも明らかに扱い難そうで回るのか疑問なデッキに。

「《ディメンション・ウォール》入れとけばよかったわ。モンスターをセットして《太陽の書》発動、《ダイス・ポット》を反転してリバーズ効果、お互いサイコロを一回ずつ振って相手より小さい目

が出たプレイヤーは、相手の出た目×500ポイントダメージを受け、6の目に負けたプレイヤーは6000ポイントダメージを受ける。というわけでダイスロール！」

「……………4……………」

「私の目は6、龍可ちゃんに6000のダメージを与えるわ」

「……………んんっ……………」

龍可 LP6400 400

「最後に《強制転移》、《ダイス・ポット》を渡すわ」

「……………チェイン《死霊ゾーマ》を発動……………チェイン処理で《死霊ゾーマ》をプレゼント……………」

……………トラップモンスターはちょっと思いつかなかった。そして詰んだわね。

「ふう、これでターンエンドよ」

紫 LP925 HO

モンスター1

《死霊ゾーマ》

魔法・罠1

《デンジャラスマシン》 TYPE-6

「……………ドロー……………《墮天使マリー》で回復……………」

……………」

龍可 LP 400 600 800

「……………《ビックバンガール》を召喚……………そのまま《死霊  
ゾーマ》を攻撃して破壊……………」

「そして《死霊ゾーマ》の効果ね」

紫 LP 1450 150

「……………《ヴェノミナーガ》でダイレクトアタック……………」

紫 LP 1500

「あー……………何か、疲れたわ」

## ななわ かい（後書き）

皆様から指摘されたミスを修正しましたが、それでもミスがあればまた指摘して下さいようお願いします。

また、友人からも使用したカードの数と手札の枚数が合わない事について指摘されたのであのカードの使用となりました。

### 《天よりの宝札》（原作版）通常魔法

このカードはメインフェイズのはじめにしか使用できない。互いのプレイヤーは手札が6枚になるようにカードを引く。

海馬に「最強の手札増強カード」と言わしめたチートカード。OCGではかなり弱体化しましたが、《ネクロ・フェイス》と使うと中々に良いカード

龍可ちゃんがデッキ投入していた漫画版GXのオリカ紹介

モンスター

### 《ブラックマンバ》 3

ATK1300 DEF1000

召喚した時相手モンスターの1体の表示形式を変更する

### 《呪念の化身ウルボヌス》 5

ATK2000 DEF800

このモンスターと戦闘する敵モンスターは攻・守力が300Pダウンする

魔法カード

《壺の中の魔術書》

互いのプレイヤーはカードを3枚ドローする。

はちわ(前書き)

リアルこわい

はちわ

「……………龍亞……………勝った……………」

「うん頑張ったね、龍可ちゃん。……………それはそうと、前に見たときには《ヴェノミナーガ》なんて入って無かったと思うけど？」

龍可ちゃんの頭をフードごしに撫でながらデュエルでの疑問をぶつける。前に見た時も非常識なデッキだったけど、アソコまでじゃ無かったハズ。

「……………龍亞達のコレクションを見てたら仲良くなって……………だから入れたの……………」

うん、ユベルの時と同じね。ソイツ等が強いのは認めるけど、お兄ちゃんは仲良くなるならもっと可愛いモンスターとなって欲しかったよ。

「おい、紫。お前《ダイス・ポット》まで使って負けるとか、そりゃあ無えだろ」

「いや店長、アレは無理。《アブソ》出しても平気な奴と毎回な奴アブソを同時に相手は無理。《天罰》や《魂の解放》でも無いと無理だよ」

「何言つてやがる、そんなの使わなくても有り合わせの手札で何とかするのがデュエリストつてもんだ。そんなんじゃあデュエルキングなんて夢のまた夢だぞ」

「無茶振りが酷いっ！」

「さて龍亞に龍可ちゃん、紫さんのデュエルも終わったしどこうするっ。」

「そうだね、うん。俺は家に帰って本格的にデッキ調整するかな」

「……………私も帰る……………」

「じゃあ今日はお開きだね」

「ん？お前等もう帰るのか、気を付けて帰れ」

「またね、次もデュエルしましょう。特に龍可ちゃん」

「はい、また今度」

「またね」

「……………さようなら……………」

「……………そういえば店長、龍亞君に《パワー・ツール・ドラゴン》あげたみたいだけど、あのカードは店長が現役時代の大切なモノで

しょう、何で？」

「……………何、アイツが行きたがってたからな。ちょうど龍亞のデッキもディフォーマーだったし、丁度良かっただろう。まあフィールド依存型だったから調整が大変そうだがな」

コーヒーを不味そうに啜りながら答える。

「ふうん、『精霊』ね。信じない訳じゃ無いけど、本気の店長の方が強いでしょう。今では紙束みたいなデッキ使ってるけど、元々はプロリーグ3位だった店長よりも龍亞君を選ぶ理由が分からないわ」

「そんな事は関係無いんだろうな。『精霊』が何を基準にデュエリストを選ぶかは知らんが、少なくとも龍亞はアイツに好かれる何かを持ってたんだろ」

「そういうモノなのかしら。まあ、龍亞君は『精霊』を見る事が出来なさそうだし使い続けてくれるかは分からないけどね」

「……………龍亞……………」

「ん？どうしたの龍可ちゃん」

家に戻り、夕飯は作るうかデリバリーしようかと悩んでいた所に、龍可ちゃんが隣に座ってきた。

「……………何で…そのデッキを使ったの?……………」

「はい?」

「……………龍亞は精霊が見える訳でも無いし……………龍亞が作ったデッキの中には……………そのデッキよりも強いデッキがいくつもあるでしょ……………なのに何でそのデッキだったの?」

龍可ちゃんが真剣な目でコチラを見る。そんな龍可ちゃんも可愛…  
…もとい、龍可ちゃんが真剣に訊ねているのだからコチラも真剣に答えなければいけないだろう。

「そうだね、たしかにライロや六武衆とかを使えば大体の相手には勝てるかもしれないね。だけど、重要なのは勝ち負けじゃなくて楽しくデュエルすることなんだよ。龍可ちゃんが友達と一緒に戦うのと同じ様に、俺もコイツ等を使って戦いたいからこのデッキを使ってるんだよ。今回のデュエルは必ず勝たないといけない訳じゃ無かったしね」

「……………」

「この答えじゃ不満かな、龍可ちゃん?」

「……………うっん……………」

「それは良かった」

一応は納得したらしい龍可ちゃんの頭を撫でながら、いつか来るかもしれない可能性について考える。

(ここは遊戯王の世界、なら普通の人とは異なる力を持っている龍可ちゃんがアニメとかの様に何かしらの事件に巻き込まれる可能性は高い。それが一回だけならまだしも、オレイカルコスや破滅の光みたいな大がかりなのだったらマズイ)

アニメなどで、この世界の裏側では世界規模の危険が溢れ、デュエルによって解決しているのを知っているだけに不安な予想は絶えない。

これが現実になれば先程龍可に言ったことを翻し、形振り構わず勝利を狙うだろう。その為に多くのデッキを作り、いつものデッキとは別に、普段は自身で使うのを禁じている特別なデッキを常に所持しているのだから。

(何も分からず何も出来なかったあの頃とは違う。この世界なら俺でも戦える。何が来ても手段を問わず絶対に守って見せる。今度こそ俺は家族を…妹を守る、守るんだ)

はちわ(後書き)

マジ、リアルこわい

？（前書き）

修正ついでに投稿予定だった？ 2と統合してみた

？

「デュエルしろ！」

「……………」

日曜の午後、どこまでも青い空の下でいつもの様に天さんと駄弁りながら暇を潰していたら、突然に大声で見知らぬ少女にデュエルを挑まれた。

「……………それでさ、天さんやっぱリロイドとかのモンスターは見た目がトゥーンなんだからトゥーン系に加えても良かったと思うんだよ」

「いや、トゥーンモンスターはDM創始者であるペガサス専用のカードだったから無理でしょ。ペガサスが死んだ今でもトゥーン系のカードが一般に出回る様子もないしね」

「無視するなあ！！！」

俺と天さんが華麗にスルーして話を続けようとしたら、更に大声をあげてきた。他の通行人達の視線が痛いけど、大声をあげてきた本人は気にしてないのかまだ大声で色々と言ってくる。

「あゝ、デュエルしろっても俺と天さん、どっちに言ってるか分かんねえよ」

少女が叫び疲れるよりも前に俺の羞恥心が限界を迎えた。不特定多数の白い視線に耐えきれぬ強靱なハートは俺には無いし、何の罰ゲ

「ムだよと言いたい。」

「お前だ！このカワモテ系！！」

「！？ おまつ、人の事を言うに事欠いてカワモテ系とか言うか！  
今すぐ訂正しろ！！」

普通に女の子扱いされるよかショックがデカイわ！

「だってお前、アカデミアでかなりの人数に告白されてるじゃないの。全員男子だけだ」

「！ おい、やめる馬鹿この話は早くも終了ですね」

人の心の傷をこれ以上抉るんじゃないわ！

「くそつ、さつきから好き勝手に言いやがって。だいたいお前は何でそんな事を知ってたんだよ！」

「おい、龍亞」

「何だよ天さん、今とても大事な事を話してるだよ」

「いやね、お前は基本的に不登校児だから分からないんだろうけど、  
彼女はアカデミアで俺達のクラスメイトなんだよ」

クラスメイト？コイツが？

「確かに驚きだけど、それが今何の関係があるんだよ」

「彼女がお前の心の傷のネタを知っている理由だよ」  
クラスメイトなのが知っている理由？それだと…

「おいおい、天さん。その言い方だとクラスメイトなら皆知ってる  
様に聞こえるよ。もっと詳しく言いなよ」

「……………」

天さんが気まずそうに顔を背ける。  
いや背けるなよ、キチンと否定しろ頼むから。

「……………まあ、うん。何と言っか……………頑張れ」

「最悪じゃねえか!!」

「だから、わたしを無視するなあー!!」

「色々あったが一先ず置いておくとして、まず名前とデュエルする  
理由を言え」

なんやかんやとあったが、主に天さんの頑張りで何とか話し合いが  
できる位まで落ち着いた。

「葵よ。おまえが貰った《パワー・ツール・ドラゴン》を賭けてデ

「ユエルを申し込みにきたのよ！」

「《パワー・ツール・ドラゴン》ねえ。それを貰った事はあの場にいた奴しか知らないハズだけど、誰から聞いたんだよ」

「従姉さんからよ。双子で女の子みたいに可愛い男の子と聞いてすぐピーンときたわ」

「……………コイツ殴りてえ。従姉つてのは多分紫さんだろうけど何て説明をするのか、もっとマシな説明があるだろ。」

「つまり、《パワー・ツール・ドラゴン》を賭けてアンティデュエルをしようって訳ね。だけどなんで《パワー・ツール・ドラゴン》が欲しいんだよ、コイツよりも上等なシンクロモンスターなら他にいっぱいあるだろ」

「カッコいいからよ！ずっと店長に頼んでたのに他の奴に譲ったと言われても納得できないわ」

ふむ、《パワー・ツール・ドラゴン》の良さを理解できるとは、コイツも口は悪いが中々見どころはあるようだね。

「別にデュエルに勝ったら問答無用に奪おうって訳じゃ無いわ。私が勝ったらアンタの《パワー・ツール・ドラゴン》をこの《ミスト・ウォーム》とトレードして貰う！」

ズビシツと《ミスト・ウォーム》を突きだしてくる。

「……………マジで？」

「マジよー！」

「いやまあ、うん。そこまで熱意を持って《パワー・ツール・ドラゴン》を欲しがらね。俺もそれなりに譲歩してやろうという気持ちも出てくるっていうか、デュエルせずにそのままトレードしてやっても……」

「ちょっと待て龍亞、欲に流されるな。ソレは店長からの貰いモンだろ、そう簡単に渡すなよ」

「だって、《ミスト・ウォーム》は 9 とはいえシンクロ成功時に 3 枚までバウンスできるし。それに対してコッチは装備カード限定のランダムサーチに微妙な破壊耐性。しょうがないとは思わないかな」

「確かに《ミスト・ウォーム》は強力だけど、ダメだろ」

「だとしても致命的に性能差がある現実は変わらない。見た目は好みなんだけどね。」

「まあ冗談はさておき、なら俺が勝ったら《ミスト・ウォーム》は《カラクリ將軍 無零》とトレードして貰う！」

「別に構わないわ！」

「構えよ！明らかに釣り合っていないだろー！！」

「じゃあ正々堂々と」

「デュエルだ！」

「人の話を聞け！」

「「デュエル!!!」」

「俺の先攻、ドロー! 《テラ・フォーミング》で《D・フィールド》をサーチし発動!」

《テラ・フォーミング》 通常魔法

自分のデッキからフィールド魔法カード1枚を手札に加える。

《D・フィールド》 フィールド魔法

モンスターの表示形式が変更される度に、このカードにディフォー  
マーカウンターを1つ置く。

フィールド上に表側表示で存在する「D」と名のついたモンスター  
の攻撃力は、このカードに乗っているディフォーマーカウンターの  
数×300ポイントアップする。

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、  
自分の墓地に存在する「D」と名のついたモンスター1体を特殊召  
喚する事ができる。

「さらに《つまりずき》を発動して2枚伏せる。モンスターをセット  
してターンエンド」

《つまずき》 永続魔法

召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したモンスターは守備表示になる。

龍亞 LP4000 H1

モンスター1

伏せ1

魔法・罨3

伏せ2

《つまずき》

F 《D・フィールド》

「わたしのターン！《翻弄するエルフの剣士》を守備表示で召喚して《デーモンの斧》を装備！」

《翻弄するエルフの剣士》 効果モンスター

4 地属性 戦士族 攻1400/守1200

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

(ダメージ計算は適用する)

《デーモンの斧》 装備魔法

装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事でこのカードをデッキの一番上に戻す。

(《翻弄するエルフの剣士》！？)

「2枚伏せてターンエンドよ」

葵 LP4000 H2

モンスター1

《翻弄するエルフの剣士》

魔法・罫3

伏せ2

《デーモンの斧》

《D・フィールド》 C0

「俺のターン、ドロー！《デス・ラクーダ》を反転召喚し効果で1枚ドロー」

《D・フィールド》 0 1

《デス・ラクーダ》 効果モンスター

3 地属性 アンデット族 攻500/守600

このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。

このカードが反転召喚に成功した時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「《D・スコープン》を攻撃表示で召喚。《つまずき》で守備表示に変更、リバーズカード《重力解除》を発動して表示形式を変更し効果で《D・ラジオン》を特殊召喚！」

《D・フィールド》 1 2 3 4

《重力解除》 通常罫

自分と相手フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの

表示形式を変更する。

《D・スコープン》 チューナー（効果モンスター）

3 光属性 機械族 攻8000/守1400

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：1ターンに1度、手札からレベル4の「D」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。ディフォーマー

この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

守備表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードのレベルは4になる。

《D・ラジオン》 効果モンスター

4 光属性 雷族 攻10000/守900

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「D」と名のついたモンスターの攻撃力は800ポイントアップする。ディフォーマー

守備表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「D」と名のついたモンスターの守備力は1000ポイントアップする。ディフォーマー

「4の《ラジオン》に 3の《スコープン》をチューニング！」

4+3=7

「魂が宿りし玩具の竜よ、その鋼の一撃で全ての敵を打ち砕け！シンクロ召喚！起動せよ《パワー・ツール・ドラゴン》！」

《パワー・ツール・ドラゴン》 シンクロ・効果モンスター ア

## 二メ版

7 地属性 機械族 攻2300/守2500

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

自分のデッキからランダムに装備魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

また、装備魔法カードを装備したこのカードが破壊される場合、代わりにこのカードに装備された装備魔法カード1枚を墓地へ送る事ができる。

「おお〜！カッコいい！！」

「《パワー・ツール・ドラゴン》は《つまりずき》で守備表示になる。そして《パワー・ツール・ドラゴン》の効果で装備カードをランダムにサーチ！」

《D・フィールド》 4 5

「《ダブルツールD&C》を《パワー・ツール・ドラゴン》に装備させ、《デス・ラクーダ》を裏守備に変更してターンエンド」

《D・フィールド》 5 6

《ダブルツールD&C》 装備魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「パワー・ツール・ドラゴン」または「ディフォーマーD」と名のついたレベル4以上の機械族モンスターにのみ装備可能。

それぞれのターンで以下の効果を適用する。

自分のターン：装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

装備モンスターが攻撃する場合、バトルフェイズの間だけ攻撃対象モンスターの効果は無効化される。

相手のターン：相手は装備モンスター以外のモンスターを攻撃対象に選択できない。

装備モンスターと戦闘を行った相手モンスターを、そのダメージステップ終了時に破壊する。

龍亞 LP4000 H1

モンスター2

伏せ1

《パワー・ツール・ドラゴン》

魔法・罠3

伏せ1

《つまずき》

《ダブルツールD&C》

《D・フィールド》 C6

「ドロー！《壺の中の魔術書》を発動！お互いに3枚ドロー！」

《壺の中の魔術書》 通常魔法 未OCG

互いのプレイヤーはカードを3枚ドローする。

「《弱者の贈り物》を発動、3以下の《幻想召喚師》を除外して2枚ドロー！」

《弱者の贈り物》 通常魔法 未OCG

手札からレベル3以下のモンスター1体をゲームから除外して発動する。

自分はデッキからカードを2枚ドローする。

「よしつ、リバーオープン《起動砦 ストロング・ホールド》、さらに《ゾンビキャリア》を守備表示で召喚！」

《起動砦 ストロング・ホールド》 永続罫

このカードは発動後モンスターカード（機械族・地・星4・攻0/守2000）となり、自分のモンスターカードゾーンに守備表示で特殊召喚する。

自分フィールド上に「グリーン・ガジェット」「レッド・ガジェット」「イエロー・ガジェット」が全て表側表示で存在する限り、このカードの攻撃力は3000になる。（このカードは畏カードとしても扱う。）

《ゾンビキャリア》 チューナー（効果モンスター）

2 闇属性 アンデット族 攻400/守200  
手札を1枚デッキの一番上に戻して発動する。

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「4の《ストロング・ホールド》に2の《ゾンビキャリア》をチューニング！」

4+2=6

「大地を守護する騎士よ、風と共に大地を駆ける！シンクロ召喚！《大地の騎士ガイアナイト》！！！」

《大地の騎士ガイアナイト》 シンクロモンスター

6 地属性 戦士族 攻2600/守800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上  
ゴヨウは消えた。ブリューナク、次は貴様の番だ！

「手札を一枚捨て《THE トリック》を特殊召喚！さらに手札  
1枚をデッキに戻し《ゾンビキャリア》を蘇生！」

《THE トリック》 効果モンスター

5 風属性 魔法使い族 攻2000/守1200

このカードは手札を1枚捨てて、手札から特殊召喚する事ができる。

「5の《THE トリック》に2の《ゾンビキャリア》をチ  
ューニング！」

5+2=7

「呪念が宿りし鉄屑を糧に、封印されし魔人は甦る！  
シンクロ召喚！甦れ《スクラップ・デスデーモン》！！」

《スクラップ・デスデーモン》 シンクロモンスター

7 地属性 悪魔族 攻2700/守1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

正直、デス付けずに只の《スクラップ・デーモン》の方がよかった  
と思う

（《エルフの剣士》に《ストロング・ホールド》《トリック》、  
シンクロも《ガイア》に《デーモン》か、狙ってやってんのか？）

「わたしは1枚伏せてターンエンド！」

### モンスター3

《翻弄するエルフの剣士》

《大地の騎士ガイアナイト》

《スクラップ・デスデーモン》

魔法・罠3

伏せ2

《デーモンの斧》

《D・フィールド》 C 6

「俺のターン、ドロー！《パワー・ツール・ドラゴン》で装備魔法をランダムサーチ、《デス・ラクーダ》を反転召喚し1枚ドロー、さらに効果で裏側守備に変更」

《D・フィールド》 6 7 8

（うーん、必要なモンスターが引けない。龍可ちゃんなら普通に引くかドロー系のカードで引っ張って来れるんだろっけど）

「《パワー・ツール・ドラゴン》に《降格処分》を装備し、《スター・チェンジャー》で《パワー・ツール・ドラゴン》のレベルを1つ下げる。《D・ラジカツセン》を攻撃表示で召喚、守備表示に変わる」

《D・フィールド》 8 9

《降格処分》 装備魔法

装備モンスターのレベルを2つ下げる。

《スター・チェンジャー》 速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、以下の効果から1つを選択して発動する。

そのモンスターのレベルを1つ上げる。

そのモンスターのレベルを1つ下げる。

《D・ラジカッセン》 効果モンスター

4 地属性 機械族 攻1200 守400

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：このカードは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

守備表示：自分フィールド上に表側表示で存在する「D」デIFOーマーと名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、その戦闘を無効にする事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「カードを1枚伏せてターンエンド」

龍亞 LP4000 H3

モンスター3

伏せ1

《パワー・ツール・ドラゴン》

《D・ラジカッセン》

魔法・罫5

伏せ2

《つまずき》

《ダブルツールD&C》

《降格処分》

《D・フィールド》 C9

「ドロー！ふうん、攻撃してくると思ったけど案外慎重なのね。私はモンスターを全て攻撃表示にして《熟練の黒魔術師》を守備表示で召喚。ターンエンドよ」

《D・フィールド》 9 10 11 12

《熟練の黒魔術師》 効果モンスター

4 闇属性 魔法使い族 攻1900/守1700

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを1つ置く（最大3つまで）。

魔力カウンターが3つ乗っているこのカードをリリースする事で、自分の手札・デッキ・墓地から「ブラック・マジシャン」1体等特殊召喚する。

葵 LP4000 HO

モンスター4

《翻弄するエルフの剣士》

《大地の騎士ガイアナイト》

《スクラップ・デスデーモン》

《熟練の黒魔術師》 C0

魔法・罫3

伏せ2

《デーモンの斧》

《D・フィールド》 C12

「俺のターンドロー、《デス・ラクーダ》を反転召喚して1枚ドロ、効果で裏守備にして《パワー・ツール・ドラゴン》でランダムサーチ」

《D・フィールド》 1 2 1 3 1 4

(モンスターを攻撃表示か。何かあるのかブラフか、まあ次のターンではどうにかできるか)

「ラジカッセンを攻撃表示にしてモンスターをセットしてターンエンド」

《D・フィールド》 1 4 1 5

龍亞 LP 4000 H 6

モンスター 4

伏せ 2

《パワー・ツール・ドラゴン》

《D・ラジカッセン》

魔法・罠 5

伏せ 2

《つまずき》

《ダブルツールD&C》

《降格処分》

《D・フィールド》 C 1 5

「ドロー！ 《運命の宝札》を発動、サイコロを振るわ」

《熟練の黒魔術師》 0 1

《運命の宝札》 通常魔法 未OCG

サイコロを1回振る。出た目の数だけデッキからカードをドローす

る。

その後、同じ数だけデッキの1番上からカードをゲームから除外する。

「サイコロの目は4、4枚ドローして同じ枚数デッキから除外。《竜破壊の証》を発動、デッキから《バスター・ブレイダー》を加えるわ」

《熟練の黒魔術師》 1 2

《竜破壊の証》 通常魔法

自分のデッキまたは墓地から「バスター・ブレイダー」を1枚手札に加える。

「《彼方からの詠唱》も発動、さつき除外された《異次元からの埋葬》を対象にして除外された3枚を墓地に戻す」

《熟練の黒魔術師》 2 3

《彼方からの詠唱》 通常魔法 未OCG

ゲームから除外されている魔法カード1枚を選択し、自分のカードとして使用する。

《異次元からの埋葬》 速攻魔法

ゲームから除外されているモンスターカードを3枚まで選択し、そのカードを墓地に戻す。

「カウンターが溜まった《熟練の黒魔術師》をリリースし、墓地の《ブラック・マジシャン》を特殊召喚！1枚伏せてこのままターンエンド！」

《ブラック・マジシャン》 通常モンスター

7 闇属性 魔法使い族 攻2500/守2100

《暗黒騎士ガイア》に《デーモンの召喚》、何故こんなに差が出てしまったのか・・・

葵 LP4000 H2

モンスター4

《翻弄するエルフの剣士》

《大地の騎士ガイアナイト》

《スクラップ・デスデーモン》

《ブラック・マジシャン》

魔法・畏4

伏せ3

《デーモンの斧》

《D・フィールド》 C15

「俺のターン、省略」

《D・フィールド》 15 16 17

(……………これは多分、次のターンに《融合》が来るな。ならこのターン動くしかないか)

「《イナゴの軍勢》を反転召喚、一番右のリバースカードを破壊するよ」

《D・フィールド》 17 18

《イナゴの軍勢》 効果モンスター

3 闇属性 昆虫族 攻1000 守500

このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。  
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上の魔法・罫カード1枚を破壊する。

「ハズレよ！リバーズ発動 《サイクロン》！《D・フィールド》を粉碎！！」

《イナゴの軍勢》がリバーズカードに集る前に発動した《サイクロン》がフィールドを蹂躞し何もかも吹き飛ばした。

「くつ、《D・フィールド》の蘇生効果はタイミングを逃して発動できないけど、2枚目の《D・フィールド》を発動！《イナゴの軍勢》を裏守備に変更し《ラジカッセン》も守備表示にする！」

《D・フィールド》 0 1 2

「《ラジオン》を召喚してターンエンド、手札枚数がオーバーしてるから2枚捨てるよ」

《Dフィールド》 2 3

龍亞 LP4000 H6

モンスター5

伏せ2

《パワー・ツール・ドラゴン》

《D・ラジカッセン》

《D・ラジオン》

魔法・罫5

伏せ2

《つまずき》

《ダブルツールD&C》

《降格処分》

《D・フィールド》 C3

「ドロー!!!《沼地の魔神王》を捨てて《融合》を手札に加えてそのまま発動!!!手札の《バスター・ブレイダー》と場の《ブラック・マジシャン》を融合、現れる《超魔導剣士・ブラック・パラディン》!!!」

《沼地の魔神王》 効果モンスター

3 水属性 水族 攻500 守1100

このカードを融合素材モンスター1体の代わりにする事ができる。その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならぬ。また、このカードを手札から墓地へ捨てる事で、デッキから「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

《融合》 通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

《バスター・ブレイダー》 効果モンスター

7 地属性 戦士族 攻2600/守2300

このカードの攻撃力は、相手フィールド上及び相手の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体につき500ポイントアップする。

《超魔導剣士・ブラック・パラディン》 融合・効果モンスター

8 闇属性 魔法使い族 攻2900/守2400

「ブラック・マジシャン」+「バスター・ブレイダー」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、手札を1枚捨てる事で、魔法カードの発動を無効にし破壊する。

このカードの攻撃力は、フィールド上及びお互いの墓地に存在するドラゴン族モンスター1体につき500ポイントアップする。

(やっば来たか)

「コレでターンエンドよ!」

葵 LP4000 H1

モンスター4

《翻弄するエルフの剣士》

《大地の騎士ガイアナイト》

《スクラップ・デスデーモン》

《超魔導剣士 - ブラック・パラディン》

魔法・罫3

伏せ2

《デーモンの斧》

《D・フィールド》 C3

「ドローして〜以下略〜 今度はデッキよりのリバーズカードを破壊する」

《D・フィールド》 3 4 5 6

「《威嚇する咆哮》よ、チェーンして発動しておくわ」



(……………本気みたいだけど、何を引いた？全体除去が出来る《ハッピーの羽箒》や《大嵐》は禁止、《D・バインド》が残れば《デIFOーマライズ》は別に破壊されてもいいが、伏せを無視して俺の場を攻められるカードなんて……………!!!)

「《大地の騎士ガイアナイト》と《スクラップ・デスデーモン》をリリースし、《破壊竜ガンドラ》を召喚!!」

《破壊竜ガンドラ》 効果モンスター

8 闇属性 ドラゴン族 攻0/守0

このカードは特殊召喚できない。

自分のメインフェイズ時にライフポイントを半分払う事で、このカード以外のフィールド上に存在するカードを全て破壊しゲームから除外する。

さらに、この効果で破壊したカード1枚につき、このカードの攻撃力は300ポイントアップする。

このカードが召喚・反転召喚したターンのエンドフェイズ時、このカードを墓地へ送る。

「さらにリバーズ発動《砂塵の大竜巻》!《D・フィールド》を破壊!」

《砂塵の大竜巻》 通常罫

相手フィールド上に存在する魔法・罫カード1枚を選択して破壊する。

その後、自分の手札から魔法または罫カード1枚をセットすることができる。

「っ!俺のフィールドは全て埋まってるから特殊召喚は出来ない…

……」

「ライフの半分を払い、《破壊竜ガンドラ》の効果発動！『デストロイ・ギガ・レイズ』！！！」

葵 LP4000 2000

「！！！！！！！」

ガンドラから放たれる幾つもの閃光が無差別にカードを破壊していく。

「破壊したカードの数は13枚、なので攻撃力は3900になる！トドめに《ミラクルシンクロフュージョン》を発動！《大地の騎士ガイアナイト》と《スクラップ・デスデーモン》を除外して《地天の騎士ガイアドレイク》を召喚！！！」

《ミラクルシンクロフュージョン》 通常魔法

自分のフィールド上・墓地から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターをゲームから除外し、シンクロモンスターを融合素材とするその融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

また、セットされたこのカードが相手のカードの効果によって破壊され墓地へ送られた時、自分はデッキからカードを1枚ドローする。

《地天の騎士ガイアドレイク》 融合・効果モンスター

10 地属性 獣戦士族 攻3500/守2800

「大地の騎士ガイアナイト」+効果モンスター以外のシンクロモンスター

このカードは効果モンスターの効果の対象にならず、効果モンスター

ーの効果では破壊されない。

「《パワー・ツール・ドラゴン》を我が手に！《ガイドレイク》《ガンドラ》でダイレクトアタック！」

龍亞 LP4000 500

「まだまだ！《ガンドラ》の攻撃時に墓地の《ネクロ・ガードナー》を除外して攻撃を無効にする！」

《ネクロ・ガードナー》 効果モンスター

3 闇属性 戦士族 攻600/守1300

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

「墓地からモンスター効果!?!」

「お前のモンスターは全て攻撃を終えたけど、他にやることはあるかな？」

「くっ、ターンエンドよ。《破壊竜ガンドラ》は自身の効果で自壊して墓地に送られるわ」

葵 LP2000 H0

モンスター1

《地天の騎士ガイドレイク》

魔法・罫0

「ドロー！ 《ヴァイロン・マター》を発動、墓地の《ダブルツールD&C》《ブレイク・ドロー》《ビックバン・シユート》をデッ

キに戻し《ガイドレイク》を破壊！」

《ヴァイロン・マター》 通常魔法

自分の墓地に存在する装備魔法カード3枚を選択して発動する。  
選択したカードをデッキに加えてシャッフルし、以下の効果から1つを選択して適用する。

自分のデッキからカードを1枚ドローする。

相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

「《ガイドレイク》がつ！」

「これでお前の場はがら空き、一気にいくよ！《D・クリーナン》を捨てて《D・リペアユニット》を発動！《スコープン》を蘇生し効果で《ラジカッセン》を特殊召喚！さらに手札を捨てて《D・D・R》を発動！《ラジョン》を特殊召喚！《団結の力》を《ラジカッセン》に装備！」

《D・リペアユニット》 装備魔法

手札から「D」と名のついたモンスター1体を墓地へ送り、自分の墓地に存在する「D」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを特殊召喚し、このカードを装備する。

装備モンスターは表示形式を変更する事ができない。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、装備モンスターを破壊する。

《D・D・R》 装備魔法

手札を1枚捨てる。

ゲームから除外されている自分のモンスター1体を選択して攻撃表示でフィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。

《団結の力》 装備魔法

装備モンスターの攻撃力・守備力は、自分フィールド上に表側表示で存在する

モンスター1体につき800ポイントアップする。

「《ラジカッセン》の攻撃力は4400！これが最初で最後の一撃！！《ラジカッセン》でダイレクトアタック！ニイレンダアアア！！」

「キャアアアア！！」

葵 LP2000 0

？（後書き）

消す前の？ - 1でも書きましたが、鉄さんのご意見をもとに、カード効果の説明をデュエル中に加えております。

ケータイでは相変わらず書きにくいですが、書いてるうちにパソコンでは慣れましたので次回からどうするかはボチボチ考えていきます。

そろそろフォーチュンカップぐらいには進みたいところ

じゅうわ(前書き)

無理矢理進めてみる

じゅっわ

「よっし！俺の勝ちだ！」

まさか《ブラックパライディン》や《ガンドラ》まで出してくるとは思わなかったけどな。

「そんな、《パワー・ツール・ドラゴン》が……………」

葵がorz状態で膝を付くけど、俺としては多分モデルであろうあの重いデッキのアレンジをちゃんと回して戦えたのが凄えよ。

「まあまあ、勝ったとしても葵ちゃんのデッキには合わないでしょ、明らかに装備魔法を多く積むデッキじゃないし」

「手に入れたらちゃんと専用のデッキを組むわよ。まあ主力にはできないだろうけど」

だろうね、効果的にもステータス的にもサポート的なカードだしな。

「ふう、まあ負けた訳だしこの《ミスト・ワーム》は持っていくがいいわ」

「こっちは《カラクリ將軍 無零》、そのデッキじゃあ使えないだろうけど」

「《無零》のシンクロには機械族が必要だからな。それにしても葵ちゃんのデッキ、レアカードがたくさん入ってたけどそれって自分で集めた奴？」

「アレ等は従姉さんがくれたカードよ。パックを買うと必ずと云うほどレアを当てるし、レア目当ての馬鹿共から巻き上げたりで余るとかで」

……いや確かに紫さん、店長からガードハンターなんて言われてたけどココまでとは思わなかったわ。あれ程のレアを大量に渡せるって、黄金律のスキルでも保有してんのかあの人。

「カワモテ系、《パワー・ツール・ドラゴン》は潔く諦めることにするけど、これで勝ったと思わないことね。次は必ず勝つわ」

「だ・か・ら！俺の事をカワモテ系とか言っんじゃねえ！！……それに負け惜しみを言ってる時点でもう勝負は着いてるだろ、馬鹿」

「負け惜しみじゃないし。それにバカって言う方がバカなんだよ」

「いやいや、負け惜しみと変わらんし、返し方がもう馬鹿っぽいし」

「ふん、心が醜いと色々と曲解するから質が悪いね。その反論の方がバカっぽいし」

「負け惜しみを認めないのは小物の証拠だね。馬鹿っぽいと言ったら馬鹿っぽいと言い返す辺りも馬鹿の証明だね」

「人のセリフ一つでしつこく貶してくる粘着よりかはマシね。それにそんな事ではバカと決め付けようとする方がバカでしょ」

「こっちが根気よく説明してやってるのを粘着と……」

「2人ともいい加減にしろ！切りがないだろ！？」

「だってあの馬鹿が……」

「あのカワモテ系が……」

「どつちもどつちだ！また今度デュエルする時にでも決着を着ければいいだろ！」

「……………命拾いしたね、カワモテ系。次会った時がお前の最後だ」

「ふん、馬鹿の発言はやっぱり小物臭いな。それとカワモテ系って言うな」

「ふうん、自身が小物もだから他人を貶すタイミングは逃さないのね。さっきも言ったけどバカって言った方が……………」

「いい加減にしろ……！」

「「「」めんなさい」「」」

「と言つことが今日あったんだよ」

「……………どつちも馬鹿……………」

家に帰って夕飯を食べながら今日あった出来事を話したら龍可ちゃんに馬鹿呼ばわりされてしまった。長年一緒に暮らしているけどここまで率直に馬鹿と言われたのは久しぶりだった。

「いや龍可ちゃん、馬鹿なのはアッチで俺は違……

「……………どっちも子供……………」

バツサリと斬られた。確かに肉体年齢では子供なんだけど。

「……………そんな下らない事より……………今日こんなのが届いた……………」

「ん？何々、フォーチュンカップへの出場招待？へえ龍可ちゃんが選ばれたんだ。で、どうしたい？」

「……………面倒だから……………」

「うん。だけどKC主催で噂では治安維持局も関わってるとか言われてる大会だし、断ったりすると面倒事が降ってきそつだねえ」

いまのKCは治安維持局の言いなりとか言われてるし、社長が生きてたら大激怒だね。

「……………なら……龍可ちゃんが代わりに出て……………」

「……………はい？」

「……………龍可ちゃんが私のフリして……………大会に出るの……………ダメ？」

「いやね、駄目とか言う問題じゃなくて、普通にバレるんじゃないかなあ」

「……大丈夫……龍亞は可愛いから……バレないよ……」

「うぐっ……だけど龍可ちゃん……」

「……お願い……龍亞……」

上目遣いをお願いしてくる龍可ちゃん。少し潤んだ目が特にポイントが高い。

「……しょうがないね、今回だけだよ」

「……ありがとう……龍亞……」

仄かに微笑む龍可ちゃん。やっぱり笑う方が可愛いけど、毎回似たパターンで俺が押し負けている気がする。

じゅうわ(後書き)

次辺りで蟹を出したい

## じゅっいちわ(前書き)

久々にポケ ンカードGB2を見つけたのでGBカラーを発掘して  
思わずはじめからプレイしちゃいました。パツクリストをコンプま  
ではやりましたが、やっぱりサンダーさんマジ鬼畜ですね。

## じゅういちわ

季節ハズレではあるけど、我が家に甲殻綱・十脚目・短尾下目に属する甲殻類が来ました。

色々レパートリー豊富な食材だけどここは複数人で食べやすい様に普通に鍋にしようと思う。

「と言うわけで、どんどん食べるといいよ。龍可ちゃん、遊星」

「.....」

「.....あぁ」

グツグツと煮える鍋を3人で囲み、龍可ちゃんがいつも以上に寡黙に蟹を食べ、遊星も初めは食べ方が分からない様子だったが直ぐに理解して器用に食べている。

うん、いつもは龍可ちゃんと2人だけの食卓だけど、1人加わるだけでも雰囲気が変わっていいね。

さて、何故俺と龍可ちゃんの2人暮らし状態の我が家にもう1人加わっているのかと言うと、昨日龍可ちゃんの代わりにフォーチュンカップに出場することになった後、2人で簡単に打ち合わせをしていたら龍可ちゃんの精霊リーダーに反応があって向かうと、Dホイールとカ...もとい、人が倒れていたからとりあえず家で保護する事にして連れてきたんだけど、その時に俺は1つの事を確信した。

コイツ、絶対に遊戯王の主人公だと。

あの初代デュエルキングのヒトデ髪を彷彿とさせるあの独特な変わった蟹髪、龍可ちゃんがカードの精霊から聞いた情報、間違いない。俺が考えていたよりも早くこの世界のストーリーは進んでいる様だけど、ここで読み違っただけじゃない。後々まで関わるレギュラーなのか、その時専用の脇役なのか、その見極めと主人公の分析を兼ねての保護なんだけど、これが龍可ちゃんと精霊界の繋がりを断つ切っ掛けになるなら、やぶ蛇になるかもしれないけど関わる価値はある。

それにしても蟹つめえ

「……………龍亞……………」

「ん？龍可ちゃん、どうしたの？」

「……………味噌あげる……………」

「……………もうそこまで食べたんだねえ……………」

龍可ちゃん、食うの早いよ。もっとゆっくり良く噛んで食べなさい。

それにしても蟹味噌か、酒が欲しくなるなあ。今は小学生だから無理だけど。

今の親が共に遠くに行ったすぐの頃に飲もつとした時もあったんだけど、チューハイの缶を飲んでるのを龍可ちゃんに見られて後ろから箒で後頭部を全力で殴られて3日ぐらい口きいて貰え無くなったこともあったし。

次の日、目が覚めると遊星がDホイールごと居なくなっていて、代わりに完璧にメンテされたデュエルディスクが置かれていたよ。

「……………遊星……………行っちゃったね……………」

「そっだね。きちんとリベンジしたかったんだけど」

「……………1 K I L L……………されてた……………」

「……………うぐっ……………」

やめて龍可ちゃん、正直かなり堪えてるんだから。夕飯が鍋だったのも小面倒な料理を作る気になれなかったってのもあったんだよ。

「デュエル！」

「俺の先攻、ドロー！」

さて、遊星のお手並みを拝見しますか。

「俺は《D・パッチン》を守備表示で召喚し3枚伏せてターンエンド！」

《D・パッチン》 効果モンスター

4 風属性 機械族 攻1200/守800

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：1ターンに1度、「D・パッチン」以外の「D」と名デュフォーマーのついたモンスター1体をリリースする事でフィールド上のカード1枚を破壊する。

守備表示：このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「D」と名デュフォーマーのついたモンスター1体を破壊する事ができる。

龍亞 LP4000 H2

モンスター1

《D・パッチン》

魔法・罫3

伏せ3

「俺のターンだ。《スピード・ウォリアー》を召喚」

《スピード・ウォリアー》 効果モンスター

2 風属性 戦士族 攻900/守400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「《スピード・ウォリアー》は召喚したターンのみ攻撃力が2倍となる。バトル『ソニック・エッジ』」

《スピード・ウォリアー》がカポエラみたく回転しつつ回し蹴りをかまそうと突撃してくる。

「させないよ！攻撃宣言時、2枚のカードをチェーンで発動！《デIFOORMライズ》に《スケープ・ゴート》！」

《デIFOORMライズ》 永続罫 未OCG

自分フィールド上に表側表示で存在するレベル4以下のモンスターを「D」デIFOORMとして扱う。

《スケープ・ゴート》 速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

自分フィールド上に「羊トークン」（獣族・地・星1・攻/守0）4体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

《スケープ・ゴート》によって現れた羊トークンに変なヘルメットが同時に装着される。

「新たなモンスターの召喚により巻き戻しが発生するよ!」

「標的は変わらない、《D・パッチン》に攻撃」

「守備表示の《パッチン》の効果発動!」

《スピード・ウォリアー》の上段回し蹴りが《D・パッチン》に当たる前に羊トークンが庇う様に《D・パッチン》の前に出て破壊される。

「《パッチン》は自身が破壊される時、他のディフォーマーを身代りにできる!《ディフォーマライズ》でディフォーマー扱いの羊トークンを代わりに破壊!」

「面白いコンボだな」

「ふふふ、ディフォーマーの面白さはここからだよ」

「俺はこれでターンエンドだ」

遊星 LP4000 H5

モンスター1

《スピード・ウォリアー》

魔法・罫0

「俺のターン、ドロー!」

2か、少し予定が狂ったけど、まだ問題ないね。

「《パツチン》を攻撃表示に変更し、《D・チャツカン》を攻撃表示で召喚！」

《D・チャツカン》 効果モンスター

3 炎属性 炎族 攻1200/守600

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事で相手ライフに600ポイントダメージを与える。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

守備表示：1ターンに1度、相手ライフに300ポイントダメージを与える事ができる。

「攻撃表示の《パツチン》と《チャツカン》の効果！《パツチン》はこのカード以外のディフォーマーをリリースして相手のカード1枚を破壊できて、《チャツカン》はモンスター1体をリリースして600ポイントのダメージを与える事ができる！それぞれ羊トークンをリリースして発動！《スピード・ウォリアー》を破壊して600ダメージだよ！」

爪切りに変形した《パツチン》が《スピードウォリアー》の首をパツチンし、チャツカンから発射された火球が遊星に直撃する。

遊星 LP4000 3400

「表示形式で効果が変わるモンスターか」

「さらに《融合》を発動！機械族の《D・パツチン》と炎族の《D・チャツカン》を融合し、飛び立て《重爆撃禽 ボム・フェネクス》

「!

《融合》 通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

《重爆撃禽 ボム・フェネクス》 融合・効果モンスター

8 炎属性 炎族 攻2800/守2300

機械族モンスター+炎族モンスター

自分のメインフェイズ時、フィールド上に存在するカード1枚につき300ポイントダメージを相手ライフに与える事ができる。

この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「《ボム・フェネクス》でダイレクトアタック!」

遊星 LP3400 600

「くっ、やるな龍亞」

「ふっふっふ、《ボム・フェネクス》にはこのカードの攻撃を放棄する代わりに効果ダメージを与えることもできるからね、次のターンで対処できなければ俺の勝ちだよ。これで俺はターンエンド!」

遊星が俺の予想通りに主人公ならコレを撥ね退けるぐらいはできるハズだけど、手札は充分あるしどう反撃するかな。

龍亞 LP4000 H1

モンスター2

羊トークン

《重爆撃禽 ボム・フェネクス》

魔法・罾2

伏せ1

《デイフォーマライズ》

「俺のターン、カードを伏せて《ダブル・サイクロン》を発動！伏せカードと龍亞の伏せカードを破壊する」

《ダブル・サイクロン》 速攻魔法

自分フィールド上に存在する魔法・罾カード1枚と、相手フィールド上に存在する魔法・罾カード1枚を選択して発動する。  
選択したカードを破壊する。

「うぬづ、《D・バインド》が……………」

「手札を1枚捨て《ワン・フォー・ワン》を発動、デッキから1モンスターを1体特殊召喚する。来い《チューニング・サポーター》」

《ワン・フォー・ワン》 通常魔法

手札からモンスター1体を墓地へ送って発動する。

手札またはデッキからレベル1モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

《チューニング・サポーター》 効果モンスター

1 光属性 機械族 攻1000/守300

このカードをシンクロ召喚に使用する場合、このカードはレベル2モンスターとして扱う事ができる。

このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ

送られた場合、自分はデッキからカードを1枚ドローする。

「更に俺はチューナーモンスター《ジャンク・シンクロン》を召喚。  
《ジャンク・シンクロン》の効果、墓地の2以下のモンスターを  
守備表示で特殊召喚する。《ニトロ・シンクロン》を守備表示で特  
殊召喚する」

《ニトロ・シンクロン》 チューナー（効果モンスター）

2 炎属性 機械族 攻300/守100

このカードが「ニトロ」と名のついたシンクロモンスターのシンク  
ロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分のデッキからカードを  
1枚ドローする。

「2と3のチューナー2体に1と2を選べるモンスター……  
…確実にシンクロ狙いだね」

「《チューニング・サポーター》は2として扱える。2となっ  
た《チューニング・サポーター》と3の《ジャンク・シンクロン  
》でチューニング」

2+3=5

「集いし星が新たな力を呼び起こす。光差す道となれ！  
シンクロ召喚！出でよ《ジャンク・ウォリアー》！」

《ジャンク・ウォリアー》 シンクロ・効果モンスター

5 闇属性 戦士族 攻2300 守1300

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上  
このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は自  
分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの

攻撃力の合計分アップする。

「《チューニング・サポーター》がシンクロ素材となった時、デッキからカードを1枚ドローできる。続いて 5の《ジャンク・ウォリアー》に 2の《ニトロ・シンクロン》をチューニング」

5 + 2 = 7

「集いし思いがここに新たな力となる。光差す道となれ！

シンクロ召喚！燃え上がれ《ニトロ・ウォリアー》！」

《ニトロ・ウォリアー》 シンクロ・効果モンスター

7 炎属性 戦士族 攻2800/守1800

「ニトロ・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上  
自分のターンに自分が魔法カードを発動した場合、そのターンのダメージ計算時のみ1度だけこのカードの攻撃力は1000ポイントアップする。

このカードの攻撃によって相手モンスターを破壊した場合、相手フィールド上に表側守備表示で存在するモンスター1体を攻撃表示にしてそのモンスターを続けて攻撃することができる。

「《ボム・フェネクス》と同じ攻撃力2800……」

「《ニトロ・シンクロン》は『ニトロ』と名の付くシンクロモンスターの素材となった時、カードを1枚ドローする。そして《ジャンク・アタック》を《ニトロ・ウォリアー》に装備」

《ジャンク・アタック》 装備魔法

装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与え

る。

「《ニトロ・ウォリアー》はこのモンスターがフィールド上にいる時、自分が魔法カードを発動した場合、そのターンのダメージ計算時のみ1度だけこのカードの攻撃力は1000ポイントアップするバトル。《ニトロ・ウォリアー》で《重爆撃禽 ボム・フェネクス》を攻撃」

《ニトロ・ウォリアー》 攻2800 3800

龍亞 LP4000 3000

「《ジャンク・アタック》の効果で破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを与える」

龍亞 LP3000 1600

「ぐう、だけど1600もあれば十分に戦えるよ」

「《ニトロ・ウォリアー》の効果、相手モンスターを破壊した場合、相手フィールド上に表側守備表示で存在するモンスター1体を攻撃表示にしてそのモンスターを続けて攻撃する事ができる。対象は羊トークン、『ダイナマイト・インパクト』」

「そんな!?!」

「羊トークンに攻撃、『ダイナマイト・ナツクル』」

《ニトロ・ウォリアー》の一撃が攻撃表示の羊トークンを粉碎した。

「ぶっしゅー!」

龍亞 LP16000

強いとは思ってたけど、まさかここまでキレイに1ターンで逆転負けされるとは……

## じゅっいちわ（後書き）

この頃の蟹マジでからませ難いため、この様な出来になりましたが許して下さい。

それと、お盆の時に告知したフォーチュンカップ編にて龍亞もどき  
が使用するデッキについてのアンケートを載せておきます。

お一人様一票、この中から1つお選び下さい。

1・いやだ！俺は……負けたくないいいいい！！

2・ベアード様

3・のワの

4・アンドルフおじさん！

この中から一番多かったモノが龍亞もどきのフォーチュンカップ編  
でのデッキとなります。

それにしても3番人気無いな……

じゅつにわ(前書き)

9月の新禁止・制限が、暑さで頭がやられたとしか思えん内容だった

## じゅっわ

遊星が出て行った早朝、天さんから連絡がきた。

『という訳で、龍亞一緒にいこうぜ』

「その前に天さん、この前みたいにデマじゃなくて本当のことなんだろうね？」

この前のハンターネタの事はまだ忘れて無えですよ

『大丈夫だって、キチンと下調べはやったよ。だから行こうぜ』

「まあ約束だったしね。ダイモンエリアまで行くのは面倒だけど」

『んじゃ、店長の店で合流してから行こう。黒薔薇の魔女用のデッキも用意したし』

「確か魔女は植物族をメインに組み立ててあるんだっけか？それにしても『黒薔薇の魔女』って魔法使い族の 4 チューナーの名前だし、センスを疑うわ。カードの方は読みが違うけど」

『魔女の名前の事はさて置いて、今回は龍可ちゃんは連れてこない方がいいよ。魔女もそうだけど、ダイモンエリアは安全ってわけでも無いし』

「んん、そうなんだけどね。龍可ちゃんの方は付いて来る気満々なんだよね。置いて行ったら多分、俺は無事じゃあ済まないよ」

無表情に怒る龍可ちゃんは本気で怖い。思わず土下座したくなるし。

『だろうねえ。しょうがないけど、キッチンと準備して来るんだね』

「うい、朝飯食ったら行くよ」

噂はかなりの眉唾な内容だったはずだけど、この世界じゃあ無いって言えないし準備はしっかりしないとね。龍可ちゃんのクリボンの中身もいつもより強力なのに変えとかないといけないし。

「見つからないねえ」

「皆、魔女の噂を知ってるしここに居るはずなんだけど……」

ダイモンエリアに到着して約2時間、まったく手がかりの1つも入手出来てないよ。

「やっぱ噂が一人歩きしてました的なオチじゃね？」

「それは無いって。実際に魔女のデュエルの画像や動画があったりするし」

「あゝ、聞いても詳しく教えてくれないし、適当に当りをつけてデユエルで無理矢理でも詳しく聞き出した方が早そうだね。最近のデユエルだとあの馬鹿以外に勝ってないし、ここらで勝ち星を稼ぐ意味合いも込めて龍可ちゃん、手頃なカモは近くにいる？」

「……………アツチに……………あまりデッキリに好かれてない人がいる……………」

「んじゃ、カモりにいきますか」

「俺達って困ったことがあったらいつもコレだな」

「それは言わないお約束。だけど龍可ちゃん、ありがとね」

「……………うん……………」

「そこのおじさん、ちょっといいかな」

「何だ？ここはガキが来る様なトコロじゃねえぞ。さっさと帰れ」

「いやあね、俺達魔女について聞いて回ってんだけど、おじさんデユエルして俺達が勝ったら魔女についておじさんが知ってる限り教えて欲しいんだよ」

「ふざけてんのか！？とつとどつかに行きやがれ！」

「おじさんにもキチンとメリットがあるお話だよ。俺に勝ったらコレ等のカードをプレゼントだよ」

龍可ちゃんがクリボンから5枚ぐらいレアカードを取り出しておじさんに見せた。

「！いいぜ、そのデュエル受けてやるよ」

「うん、ここにいる見物人の人達が証人ということで始めようか」

「デュエル！！」

「俺の先攻、ドロー！1枚伏せて《手札抹殺》を発動！互いに手札を全て捨ててデッキからその枚数分カードをドローする」

「チツ、いきなり手札交換か」

《手札抹殺》 通常魔法

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

「さつき伏せた《浅すぎた墓穴》を発動。互いの墓地に存在する特殊召喚可能なモンスター1体を選びフィールド上にセットするよ」

《浅すぎた墓穴》 通常魔法

お互いのプレイヤーはそれぞれの墓地に存在するモンスター1体を選択し、それぞれのフィールド上に裏側守備表示でセットする。

「2枚伏せてモンスターをセット、これでターンエンド！」

龍亞 LP4000 H1

モンスター2

伏せ2

魔法・罨2

伏せ2

「オレのターンだ！小僧、お前のお陰で初っ端から切り札を出す事が出来るぜ！《ダーク・グレファア》を反転召喚し効果を使う！闇属性の《儀式魔人デイスーズ》を捨てデッキから《儀式魔人プレコグスター》を墓地に送る！」

《ダーク・グレファア》 効果モンスター

4 闇属性 戦士族 攻1700/守1600

このカードは手札からレベル5以上の闇属性モンスター1体を捨てて、手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、手札から闇属性モンスター1体を捨てる事で、自分のデッキから闇属性モンスター1体を墓地へ送る。

儀式魔人ってことは儀式メインなデッキかあ、この世界では珍しいね。前の世界でも少なかつたけど、ここでは更に珍しいってのに。まあコッチには儀式魔人のシリーズが有る分マシではあるけど。

「《儀式の準備》を使い 7の《破滅の魔王ガ ランドルフ》を手

札に加え、墓地の《奈落との契約》も手札に加えてそのまま発動！手札の 3 《儀式魔人リリーサー》、墓地の 3 《儀式魔人プレコグスター》と 1 《儀式魔人ディサーズ》をコストに《破滅の魔王 ガーランドルフ》を儀式召喚！！そして効果が発動するぜ！」

#### 《儀式の準備》 通常魔法

自分のデッキからレベル7以下の儀式モンスター1体を手札に加える。

その後、自分の墓地から儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

#### 《奈落との契約》 儀式魔法

闇属性の儀式モンスターの降臨に使用することができる。

フィールドか手札から、儀式召喚する闇属性モンスターと同じレベルになるように生け贄を捧げなければならない。

#### 《儀式魔人リリーサー》 効果モンスター

3 闇属性 悪魔族 攻1200/守2000

儀式モンスターの儀式召喚を行う場合、その儀式召喚に必要なレベル分のモンスター1体として、墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事ができる。

このカードを儀式召喚に使用した儀式モンスターがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手はモンスターを特殊召喚する事ができない。

#### 《儀式魔人プレコグスター》 効果モンスター

3 闇属性 悪魔族 攻400/守300

儀式モンスターの儀式召喚を行う場合、その儀式召喚に必要なレベル分のモンスター1体として、墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事ができる。

このカードを儀式召喚に使用した儀式モンスターが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手は手札を1枚選択して捨てる。

《儀式魔人ディサーズ》 効果モンスター

1 闇属性 悪魔族 攻2000/守2000

儀式モンスターの儀式召喚を行う場合、その儀式召喚に必要なレベル分のモンスター1体として、墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事ができる。

このカードを儀式召喚に使用した儀式モンスターは畏カードの効果を受けない。

《破滅の魔王ガールンドルフ》 儀式・効果モンスター

7 闇属性 悪魔族 攻2500/守1400

「破滅の儀式」により降臨

このカードが儀式召喚に成功した時、このカードの攻撃力以下の守備力を持つ、このカード以外のフィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊し、破壊したモンスター1体につきこのカードの攻撃力は100ポイントアップする。

「《ダーク・グレファア》は破壊され《ガールンドルフ》の攻撃力は2600、コイツがいる限り小僧、お前は特殊召喚は行えず、コイツが戦闘ダメージを与えるたびにお前の手札をハングレス、更には畏の効果は受けない。ははははっ！どうだ小僧！サレンダーしてもいいんだぜ？」

「ん？ああ、スゴイスゴイ、カッコイイ。で、他にやる事はあるの？」

「……………チッ、その減らず口をすぐ閉ざしてやるよ。《ガールンドルフ》で左側のセットモンスターを攻撃！！」

「バトルフェイズ前に《月の書》を発動、対象は勿論1体だけ表側表示の《ガーランドルフ》だよ」

「っ！！カードを伏せてターンエンドだ！」

おじさん LP4000 H2

モンスター1

伏せ1

魔法・罠1

伏せ1

「俺のターン、ドロー！《デス・ラクーダ》と《守護者スフィンクス》を反転召喚して効果が発動」

《デス・ラクーダ》 効果モンスター

3 地属性 アンデット族 攻500/守600

このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。

このカードが反転召喚に成功した時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

《守護者スフィンクス》 効果モンスター

5 地属性 岩石族 攻1700/守2400

このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。

このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て持ち主の手札に戻す。

「カードを1枚ドローして、《ガーランドルフ》には手札に戻って貰うよ」

「クソがつ!!」

「《D・モバホン》を召喚」

《D・モバホン》 効果モンスター

1 地属性 機械族 攻1000/守1000

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：サイコロを1回振る。

自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードをめくる。

その中にレベル4以下の「D」と名のついたモンスターが存在する

場合、1体を召喚条件を無視して特殊召喚する。

それ以外のカードはデッキに戻してシャッフルする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

守備表示：サイコロを1回振る。

自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードを確認して元に戻す。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「攻撃表示での効果を発動。出た数字の枚数分デッキをめくってその中にディフォーマーがいたら1体特殊召喚できる。でた数字は、  
4。4枚めくるよ」

《巨大化》

《D・チャッカン》

《D・リモコン》

《皆既日食の書》

「《D・リモコン》を選択し守備表示で特殊召喚」

《D・リモコン》 チューナー（効果モンスター）

3 地属性 機械族 攻3000/守1200

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：1ターンに1度、自分の墓地に存在する「D」と名のついたモンスター1体をゲームから除外し、自分のデッキからそのモンスターと同じレベルの「D」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

守備表示：1ターンに1度、手札から「D」と名のついたモンスター1体を墓地へ送り、そのモンスターと同じレベルの他の「D」と名のついたモンスター1体を自分の墓地から手札に加える。

「バトルフェイズ、《モバホン》《デス・ラクーダ》《スフィンクス》でダイレクトアタック！」

「ぐう…」

おじさん LP4000 3900 3400 1700

「《デス・ラクーダ》と《スフィンクス》を裏守備表示に変更、1枚伏せてターンエンドだよ」

龍亞 LP4000 H1

モンスター4

伏せ2

《D・モバホン》

《D・リモコン》

魔法・罠2

伏せ2

「《スフィンクス》など面倒なカードを使いやがって、オレのターンだ！《マンジユ・ゴッド》を召喚しデッキから2枚目の《奈落と

の契約》を手札に加えて発動！墓地の 3 《儀式魔人リリーサー》とフィールドの 4 《マンジユ・ゴッド》をコストに《ガーランドルフ》を再び儀式召喚！！」

《マンジユ・ゴッド》 効果モンスター

4 光属性 天使族 攻1400/守1000

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、自分のデッキから儀式モンスターまたは儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

「《ガーランドルフ》の効果でコイツ以外の2500以下の守備力のモンスターを全破壊し、攻撃力を上昇させる！」

「チエーンで《ブレンD》を発動！俺のフィールドにデIFOーマーが2体存在する時に発動できて、相手フィールド上のカード2枚を選択し、その中から相手が破壊するカードを決めてそのカードを破壊する！《ガーランドルフ》と伏せカードを選択するよ！」

《ブレンD》 通常罾

デIFOーマー

自分フィールド上に「D」と名のついたモンスターが2体以上表側表示で存在する場合、相手フィールド上に存在するカード2枚を選択して発動する。

相手はその中から1枚を選択し、相手が選択したカード1枚を破壊する。

「チツ、伏せカードを選択する」

「その後に《D・モバホン》と《D・リモコン》が破壊されるね」

「《ガーランドルフ》で裏守備の《スフィンクス》に攻撃！！」

「攻撃宣言時に《重力解除》を発動！表側表示モンスターの表示形式を変更！」

《重力解除》 通常罫

自分と相手フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの表示形式を変更する。

「クソつたれが！本当に面倒な小僧だな！！これでターンエンドだ！」

おじさん LP1700 H2

モンスター1

《破滅の魔王ガーランドルフ》

魔法・罫0

「ドロー！《デス・ラクーダ》と《スフィンクス》を反転召喚し1ドローと《ガーランドルフ》をバウンス。《デス・ラクーダ》を裏守備に変更し《スフィンクス》でダイレクトアタック！」

「……………チッ」

おじさん LP1700 0

「……………魔女について俺が知ってるのはコレぐらいだ。運が

悪けりゃあ魔女のデュエルにでも巻き込まれるだろうさ」

「ふうん、ありがとうねおじさん」

さほど目新しい情報は無かったけど、黒薔薇の魔女が実際にこのダイモンエリアに出没することは確からしい。実に面倒だね。

「なんというかはぐれメルを探してる気分だよ」

「聞く限りだと出現率は魔女の方が高いみたいだね」

「はあ、地道に歩いて探しますか」

じゅじつわ(後書き)

一向に話が進まない。

さーていん(前書き)

遅くなりました。

頭を空っぽにしてお読み下さい。

さーていん

前回と今回の話の間の閑話！

魔女を探してさらに2時間大きなヤバメな音と逃げてくる人たちから魔女が出たと言う事を確信し急いでその場に向かうが途中で色々ありついた時にはすでにその場に魔女はいなかったが今朝出て行った力：遊星とその仲間たちと出会い更に色々あってフォーチュンカップ当日以上！！！！

特に待ってもなかったフォーチュンカップ当日、選手と関係者用の出入り口でスムーズに入れる様に天さんと待ち合わせをしていたら、要らない人物も一緒に現れた。

「いやはや、天さんは俺が誘ったから居るのは当然として、何でお前もいるんだ？この馬鹿」

お前は別に関係ないんだから、あの恐ろしい位の長い列を並んで無駄に数時間掛けて入場しろよ。

「ふふふ、何で居るかって？そんなの龍可ちゃんに誘われたからに決まってるじゃない」

！？

「何……だと……」

「くつくつく、そんなアホ面を晒すのは控えた方がいいよ。中身はまったく違うけど見た目は龍可ちゃんと同じだから間違われたらどうする気よ。恰好が恰好だしね」

「いや、待て。お前が龍可ちゃんに何で誘われるんだ？いやそれよりもどうやって連絡を……」

「だって龍可ちゃんとは友達だし、普通に電話で誘われたのよ」

.....  
.....  
.....

「嘘だっ！！！！！」

「嘘ついてどうするのよ。嫌ね、何の根拠も無いのに人を疑う疑心暗鬼の強くて無駄に心が狭い男は。何だったら龍可ちゃんに聞いてみればいいじゃない」

くそっ、勝ち誇った様な顔をしゃがって。お前の嘘なんぞに引つかかる俺では無い。

一応念の為、万が一いや兆が一にも龍可ちゃんがこんな馬鹿と友達なんてことは無いだろうが、この微かにある疑念を晴らしてあの馬

鹿を一般入場口に追い返し、スツキリと試合に臨めるようにしないといけないからね。

「龍可ちゃん……………嘘、だよな？」

「……………葵ちゃんはアカデミアで一番のお友達だよ……………」

「……………」

……………

ドサツとorz状態になった俺を上から見下して勝ち誇る馬鹿の気配を背中に感じるが、今はそんな事はどうでもいい。

まさか、うちの龍可ちゃんがあんな馬鹿と……………、世の間違ってる！！龍可ちゃんに悪影響がたらどうしてくれるか！？

「……………龍亞……………もう少しで開会式があるんだから早くいかないよ……………私たちは観戦席で見てるから……………デュエルも頑張ってきてね……………」

龍可ちゃんが腕を取って立ち上がるのを手伝ってくれたが、名作ゲームのリメイクが無駄な追加要素や開発陣の自己満足でクソゲー化した時以上の、このガツクリ感はそう簡単に取りれない。

「この世に神なんていないのを実感させられたよ……………」

「こんな事ぐらいで神様否定すんなよ。ほら、龍可ちゃんも期待してるんだからシャキッと頑張ってこいよ」

「龍可ちゃんとしてでるんだから、ちゃんと頑張れよカワモテ系」

頑張れって言われても、こんな状態だとディフォーマーで勝つのは無理っぽいしあまり気は進まないけど、あの3つの中から一つ使うとするかな。気合を入れるためにも派手に勝てる奴を。

開会式が始まりはしたけど、メーカー付の遊星に対する不満で会場中の雰囲気が悪化状態になったけど、大会出場者であるボマーというデカイおじさんとゴドウィン長官の演説によって一先ずは解決したけど、初っ端から先行きは不安になるね。しかも俺の試合は第1試合でいきなりデュエル事になって落ち込んだで空っぽになったやる気を高めることも出来ない。

『さあ第1試合のデュエリストを紹介しよう！おそらく全世界のキッズが彼女を羨ましく思ってることだろう！参加最年少の少女は！舞い降りたデュエルの天使！ルーカー！それに対するは先程のその熱い心が印象的な黒き暴風！ボマー！』

『デュエルの前にまずは握手だ！』

「さつきは遊星を庇ってくれてありがとね、おじさん」

「別に庇ったつもりは無かったが、彼とは知り合いのかな」

「出会ってからまだ日は浅いけどね」

『さあ、デュエルの時間だあ！両者デュエルディスクを起動してくれ！』

「デュエル！」

「私のターン、ドロ！。手札のモンスター《トラップ・リアクター・RR》を守備表示で召喚」

《トラップ・リアクター・RR》 効果モンスター

4 闇属性 機械族 攻800 守1800

相手が罠カードを発動した時に発動する事ができる。

その罠カードを破壊し、相手ライフに800ポイントダメージを与える。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「カードを2枚伏せてターンエンド！」

ボマー LP4000 手札3

モンスター1

《トラップ・リアクター・RR》

魔法・罠2

伏せ2

「ワタシのターン、ドロー！」

手札は中々、後はあのカードを引ければ。

「相手フィールド上だけにモンスターが存在する時、このカードは特殊召喚できる！《サイバー・ドラゴン》を攻撃表示で特殊召喚！」

《サイバー・ドラゴン》 効果モンスター

5 光属性 機械族 攻2100/守1600

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在していない場合、このカードは手札から特殊召喚することができる。

「一気に行かせてもらうよ。ワタシは《ジェネクス・ニュートロン》を攻撃表示で召喚し《サイバー・ローア》を《サイバー・ドラゴン》に装備し攻撃力を300アップ！更にカードを1枚ドローできる」

《ジェネクス・ニュートロン》 効果モンスター

4 光属性 機械族 攻1800/守1200

このカードが召喚に成功した場合、そのターンのエンドフェイズ時に自分のデッキから機械族のチューナー1体を手札に加える事ができる。

《サイバー・ローア》 装備魔法 未OCG

「サイバー」と名のついたモンスターのみ装備可能。

攻撃力を300ポイントアップする。

「サイバー・ドラゴン」に装備した時カードを1枚ドローする。

「《サイバー・ドラゴン》で《トラップ・リアクター》を攻撃！  
エヴォリューション・バースト！」

「罠カード《フェイク・エクスペロージョン・ペンタ》を発動！このカードは相手の攻撃宣言時に発動できる。この戦闘でモンスターは破壊されず、ダメージ計算後に《サモン・リアクター・A I》を手札・墓地から特殊召喚する。手札から《サモン・リアクター》を攻撃表示で特殊召喚！」

《フェイク・エクスペロージョン・ペンタ》 通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動することができる。

モンスターはその戦闘では破壊されず、ダメージ計算後自分の手札または墓地から「サモン・リアクター・A I」1体を特殊召喚する。

《サモン・リアクター・A I》 効果モンスター アニメ効果

5 闇属性 機械族 攻2000/守1400

このカードが自分フィールド上に存在する限り、相手フィールド上にモンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時、相手ライフに800ポイントダメージを与える。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

この効果を使用したターンのバトルフェイズ時、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。

「《ニユートロン》じゃどれも破壊できないね。カードを3枚伏せてターンエンド。そしてエンド宣言時に《ニユートロン》の効果で機械族チューナーを1枚手札に加えられる。《D・スコープン》を加えるよ！」

龍亞 LP4000 H2

モンスター2

《サイバー・ドラゴン》

《ジェネクス・ニュートロン》

魔法・罫4

伏せ3

《サイバー・ローアー》

「私のターン、ドロー！手札から《マジック・リアクター・AID》を攻撃表示で召喚」

《マジック・リアクター・AID》 効果モンスター

3 闇属性 機械族 攻1200/守900

相手が魔法カードを発動した時に発動する事ができる。

その魔法カードを破壊し、相手ライフに800ポイントダメージを与える。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「更に《トラップ・リアクター》を攻撃表示に変更しバトル！《マジック・リアクター》で《ジェネクス・ニュートロン》を攻撃！」

攻撃力の低いモンスターで攻撃、機械族ってことはあのカードか！

「ダメージ計算時に手札から《リミッター解除》を発動！私のフィールド上に存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする！」

《サモン・リアクター・AI》 攻2000 4000

《トラップ・リアクター・RR》 攻800 1600

《マジック・リアクター・AID》 攻1200 2400

「くっ！」

「ボマー選手一気に仕掛けてきたあ！龍可選手はこれをどう凌ぐのかー！！」

「《サモン・リアクター》で《サイバー・ドラゴン》を攻撃！」

「リバーオープン！《安全地帯》を《サイバー・ドラゴン》を対象に発動！これにより《サイバー・ドラゴン》は相手のカード効果の対象にならず、戦闘と効果でも破壊されない！」

《安全地帯》 永続罠

フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは相手の効果の対象にならず、戦闘及び相手の効果では破壊されない。

また、選択したモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事はできない。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

「あまい！罠が発動した時、《トラップ・リアクター》の効果が発動する。1ターンに一度、罠カードを破壊し800ポイントのダメージを与える。」

「っ！！更にチェーン！《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジ》！相手の攻撃宣言時に《サイバー・ドラゴン》を墓地に送って攻撃モンスター1体を破壊できる。《サモン・リアクター》を破壊！」

《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジー》 永続罫  
相手モンスターへの攻撃宣言時に、自分フィールド上に表側表示で存在する「サイバー・ドラゴン」及び「サイバー・ドラゴン」を融合素材とする融合モンスター1体を墓地に送る事で、相手の攻撃モンスター1体を破壊する。

「中々やるが、更にチェーン《デルタ・リアクター》を発動！《デルタ・リアクター》は《サモン・リアクター》《トラップ・リアクター》《マジック・リアクター》1体ずつを墓地に送る事で発動し、《ジャイアント・ボマー・エアレイド》1体を特殊召喚する！」

《デルタ・リアクター》 通常罫 未OCG

自分フィールド上に存在する「サモン・リアクター・A I」「トラップ・リアクター・R R」「マジック・リアクター・A I D」を墓地へ送って発動する。

自分の手札、デッキ、墓地から「ジャイアント・ボマー・エアレイド」1体を特殊召喚する。

《ジャイアント・ボマー・エアレイド》 アニメ版

8 風属性 機械族 攻3000/守2500

「デルタ・リアクター」の効果によってのみ特殊召喚する事が出来る。

相手がカードを発動した時、相手プレイヤーに800ポイントのダメージを与える。（この効果は、1ターンに1度のみ使用する事が出来る）

また、手札を1枚墓地へ送る事で相手フィールド上のカード1枚を破壊する事が出来る。

躲された上に攻撃力3000以上のモンスター！？

「~~~~つ、《リビングデッドの呼び声》で《サイバー・ドラゴン》を特殊召喚！」

《リビングデッドの呼び声》 永続罫

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

龍亞 LP3400 2600

『度重なるチエーンの応酬！その結果、攻撃力3000の《ジャイアント・ボマー・エアレイド》が現れてしまったぞお！それに対し龍可選手の間には《リビングデッド》で蘇生した攻撃力2100の《サイバー・ドラゴン》と攻撃反応型の永続罫のみ！龍可選手絶体絶命かあ！！』

「《ジャイアント・ボマー・エアレイド》のモンスター効果発動。手札を1枚捨て相手フィールド上のカードを1枚破壊する。《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジー》を破壊する！」  
「デストロイ！」

《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジー》が《エアレイド》から落とされた巨大な爆弾により吹き飛ばされる。

「くっ！」

「私はこれでターンエンドだ」

ボマー LP4000 HO

モンスター1

《ジャイアント・ボマー・エアレイド》

魔法・罠0

「ワタシのターン、ドロー！」

さてどうするかな、あの飛行機の化け物みたいなモンスターの効果が破壊効果だけなのか、リアクターと同じようにバーン効果もあるのかも問題だけど、手札にどうにか出来そうなのがいなしなあ。《サイバー・ラーバ》は効果で破壊されたらそこまでだし、ドローに賭けるしかないか。《フォートレス》がOCGと同じなら《サイバー・ドラゴン》で対処できたんだけど。

「とりあえず《壺の中の魔術書》を発動！互いにデッキからカードを3枚ドローする！」

《壺の中の魔術書》 通常魔法 未OCG

互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「この時《ジャイアント・ボマー・エアレイド》の効果を発動。1ターンに一度、相手がカードを発動した時800ポイントのダメージを与える！」

龍亞 LP2600 1800

「っ！やっぱりバーン効果は持ってたか。ワタシは更に《魔術師の書庫》でデッキから魔法カードを1枚選び手札に加えてそのまま発動！《パーツ補充》の効果で手札の機械族1体を墓地に送りデッキから4の機械族を手札に加える！」

《魔術師の書庫》 通常魔法 未OCG  
デッキから魔法カード1枚を手札に加える。  
その後、デッキをシャッフルする。

《パーツ補充》 通常魔法 未OCG  
手札の機械族モンスター1体を墓地に送り、デッキからレベル4の機械族モンスターを手札に加える。

「良い眼だ。この状況でも諦めないか」

「この状況？手札もライフも十分にあるし何一つとして問題は無いよ。それよりもおじさんの方が大丈夫？」

「何？」

「ライフが4000ぽつちなのに攻撃力3000ごときのモンスターを攻撃表示で立たしておいて。そんなんじゃあスグにライフが0になっちゃうよ」

「ふつ、君の方は残りライフ1800、モンスターも攻撃力は2100だ。それでその様な事を言えるとは大したものだな」

「ふふつ、スグに分かるよ。《マジック・プランター》を発動！《リビングデッド》を墓地に送り2枚ドロ―！」

《マジック・プランター》 通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する永続罫カード1枚を墓地へ送って発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドロ―する。

「《D・スコープン》を通常召喚して《二重召喚》を発動！《シンクロ・フュージョニスト》召喚！」

《D・スコープン》 チューナー（効果モンスター）

3 光属性 機械族 攻800/守1400

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：1ターンに1度、手札からレベル4の「D」と名のついたモンスター1体を特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

守備表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードのレベルは4になる。

《二重召喚》 通常魔法

このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

《シンクロ・フュージョニスト》 効果モンスター

2 闇属性 魔法使い族 攻800/守600

このカードがシンクロ召喚の素材として墓地へ送られた場合、自分のデッキから「フュージョン」または「融合」と名のついた魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

「2の《シンクロ・フュージョニスト》に3の《D・スコープン》をチューニング！」

2 + 3 = 5

「シンクロ召喚《A・O・Jカタストル》！」

《A・O・Jカタストル》 シンクロ・効果モンスター

5 闇属性 機械族 攻2200/守1200

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが闇属性以外のモンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する。

「《シンクロ・フュージョニスト》の効果！このカードがシンクロ召喚の素材となった時、デッキから《フュージョン》又は《融合》と名の付くカードを手札に加えることができる。ワタシは《オーバードロード・フュージョン》を手札に加える！」

「なるほど、そのシンクロ召喚はその魔法カードを手札に加えるためのものか」

「まだまだ！《未来融合 フューチャー・フュージョン》を発動！《キメラテック・オーバー・ドラゴン》を指定してデッキから《サイバー・ドラゴン》を含む全ての機械族モンスターを墓地に送る！」

《未来融合 フューチャー・フュージョン》 永続魔法

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体をお互いに確認し、決められた融合素材モンスターを自分のデッキから墓地へ送る。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時に、確認した融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

『とうとう龍可選手が勝負に出たー！一気にデッキからモンスター

を墓地に送り融合の準備を整えたが《フューチャー・フュージョン》からの融合には発動してから2回目の自分のスタンバイフェイズまで待たないといけない！その2ターンをどうやって稼ぐのかあ！」

「全ての準備は整った！おじさん、見せてあげるよ。このデッキの最大のモンスターを！《オーバーロード・フュージョン》を発動！墓地の《サイバー・ドラゴン》を含むフィールド・墓地の機械族モンスターを全て除外し《キメラテック・オーバー・ドラゴン》を融合・召・喚！！」

《オーバーロード・フュージョン》 通常魔法

自分フィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、闇属性・機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

《キメラテック・オーバー・ドラゴン》 融合・効果モンスター

9 闇属性 機械族 攻？/守？

「サイバー・ドラゴン」+機械族モンスター1体以上

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの融合召喚に成功した時、このカード以外の自分フィールド上のカードを全て墓地へ送る。

このカードの元々の攻撃力と守備力は、融合素材にしたモンスターの数×800ポイントの数値になる。

このカードは融合素材にしたモンスターの数だけ相手モンスターを攻撃する事ができる。

「除外した機械族の数は23体！よって攻守は18400！！」

《キメラテック・オーバー・ドラゴン》 攻守0 18400

召喚された《キメラテック・オーバー・ドラゴン》からは23もの首が生え、その全ての首から咆哮が会場に轟き、観客のほとんどがその威圧感に圧倒された。

『な、なな何とおおおお！攻撃力18400の怪物が、今！ここに現れたあ！！その圧倒的な存在感は最早只のモンスターとは思えないぞお！』

「こ、これは…」

「バトル！《キメラテック・オーバー・ドラゴン》で《ジャイアント・ボマー・エアレイド》を攻撃！そしてこの攻撃宣言時に《ハーフ・シャット》を発動！《ジャイアント・ボマー・エアレイド》の攻撃力は半分となり戦闘では破壊されない！！」

《ハーフ・シャット》 速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターはこのターン戦闘では破壊されず、攻撃力はこのターンのエンドフェイズ時まで半分になる。

《ジャイアント・ボマー・エアレイド》 攻撃力3000 1500

「『エヴォリユーション・レザルト・バースト』！！ニジュウサンレンダア！！！！」

「うおおおおおー！！」

ボマー LP4000 0

『き、決まったああああ！2回戦進出はルーカー！見事な逆転劇だったぞぉー！』

……うん、流石にやり過ぎた。《ハーフ・シャット》は明らかに要らんかったし、ライフ4000ではオーバーキルにも程があるね。出せるのを確信した辺りから夢中になってやっちゃったけど。

## さーていん（後書き）

話の予定的に、ボマーが邪魔だったので早速退場して頂きました。

この話を書いてて気づきましたが、サイバー流だと完璧にボマーをメタって最悪2ターンでデュエルが終わってしまうんですね。

そのため機械族最大のメタカード《キメラテック・フォートレス・ドラゴン》はアニメ仕様とさせて貰いましたが、それだとボマーの《エアレイド》や《D・D・B》の相手が難しくなり何回か書き直した結果こうなりました。許して下さい。

また、アンケートで出した残りのデッキは別のデュエルで使用します。

じゅじゆんわ(前書き)

今回はデュエルなしの短めな話です。

## じゅじゅんわ

「龍可ちゃん、大丈夫？」

「……………うん…あの変な感じが無くなったから……………平気……………」

「それにしても龍亞のヤツ、サイバーなんて持ってたのか」

「そういえばそうね。私とのデュエルの時はディフォーマー使ってたのに」

「……………龍亞は趣味で使ってるディフォーマーの他にも……………無駄にデッキを作ってるから……………特に……………さっき使ってたデッキと後二つのデッキは龍亞にとって特別なデッキ……………」

「特別って？」

「……………普段は使わない様にしてるデッキ……………それぞれに『心』『体』『技』に当てはめたとか言ってた……………」

「……………まあ何かのスポーツ番組が何かに影響されただろうな」  
「龍可ちゃん、さっきのサイバーデッキはその三つのうちどれ？」

「……………確か『体』だった……………とにかく攻撃力重視なだけのデッキだけ……………」

「なだけって、攻撃力10000超えてたし十分でしょ。龍可ちゃんにとつては力モかもしれないけど」

(……………それだけじゃないんだけどね……………)

いやはや、さっきの一回戦はやり過ぎたわ。遊星からは小言を言われたし、やっぱ一撃でいいのに《ハーフ・シャット》で連続攻撃するのは自重した方がいいね、やりたくなるけど。

アキって姉ちゃんがダイモンエリアに出没する魔女で対戦相手をボコったり、遊星の対戦相手がムクロっておっさんに入れ替わってるとかもあったけど遊星も勝ったし、特に問題なく大会は進んでいく当初に感じた嫌な予感是一只の杞憂だったのか何なのか、まあ何も無いに越した事はないしいけどね。大会の1日目の試合も全て終わったし、さっさと皆と合流して着替えをしたい。

「急いでる所を申し訳ありませんが、少々お待ちを」

「ん？」

早足で待ち合わせ場所に向かっていて俺を引き留める声があったので振り返って見ると、俺とあんまし背が変わらないピエロみたいなのが黒服を2名ばかり引き連れて立っていた。明らかに面倒事です。

「……………何ですか？ワタシは人を待たせているんですが」

「いえお時間はとらせませんよ。ただ、今回のデュエルでの事について今大会の運営を任されている者として貴方に警告をしにきたのですよ」

運営を任されているってことはこのピエロもどき、治安維持局の関係者か。

「今回のデュエル？ワタシがイカサマでもしたと言いたいんですか」

「ヒツヒツヒツヒ、いえいえそんな事ではありません。只、招待デュエリスト以外の者が許可も無く入れ替わりデュエルをする事は許容しかねるのですよ」

！！？？

「……………何の事かわかりませんが……………」

「調べはきちんと付いているのですよ。貴方は今回招待された龍可選手の双子の兄、龍亞さんと言う事はね」

「……………」

「とは言え、本来ならそれなりのペナルティを科す所ですが先程の試合でも入れ替わりを許したのに貴方だけ許さないのも筋が通らない話、ですから明日の試合にはきちんと龍可選手を出場させるのなら今回の事は水に流し無かった事にいたしましょう」

「……………もし龍可ちゃんが出られなかったなら？」

「ヒーツヒツヒツヒ！それは貴方もお判りのハズ。勿論、貴方共々

ペナルティを受けて貰う事になります。そうでなければ貴方とデュエルした対戦相手の方も納得しないでしょうしね」

「.....」

「では、明日はお願いしますよ」

言う事を言っただけのまま変な笑い声を響かせて帰って行ったけど、コレ治安維持局から直接クギを刺されたって事だよな。

.....ふう、明日もこれは龍可ちゃんの代わりにデュエルするのは無理だね。それこそ無視したら今度こそ無事には済まないだろうし、相手側の譲歩に乗っかるしかないね。

「ああ、龍可ちゃんに何と言って納得させるかなあ。棄権もさせてくれそうには無かったし、何かあった時の準備を出来る限りしとくしかないか」

## じゅじゅんわ(後書き)

遅くなつたわりに話は進んで無いわ、デュエルは無いわと本当に申し訳ありません。次回にはきちんとデュエルを行えるハズですので勘弁してください。

じゅじゅのよる(前書き)

もう色々と疲れた。

龍可ちゃんじゃなくて龍亞もどき「ジュエル」をせねばよかった・・・

## じゅんじゅんのよる

「と言う訳で、俺は明日の2回戦以降の試合に出ることは出来なくなりました」

「……………そう……………」

うん？龍可ちゃん、思ったより怒ってないみたいだね。無表情なのは変わらないけど。

「それにしても龍亞の一寸の間もない完璧な女装が見破られるとは、凄いな治安維持局」

「そうね、どこをどう見ても龍可ちゃん似の美少女なのにね」

「その二人は黙ってる。龍可ちゃん、明日は組み合わせ的に遊星とのデュエルになるけど大丈夫？」

「……………大丈夫……………問題ない……………」

あれ？何か龍可ちゃんに何かのフラグが立った気がするけど……………  
まあ大丈夫かな

「そう、頑張ってるね龍可ちゃん」

「……………うん……………」

「じゃあ、カワモテ系の勝利祝いと龍可ちゃんの必勝祈願でカラオケにでも行きませんか」

「必勝祈願でカラオケって……」

「まあ龍可ちゃんが楽しければいいけどね。それとカワモテ系って言うんじゃないよ」

「……………」

「いよいよ大会二日目え！！泣いても笑っても今日のデュエルでキングへの挑戦者が決定するう！準決勝第一試合はサテライトの流れ星不動遊星VS舞い降りたデュエルの天使龍可！！」

遊星への罵声と龍可ちゃんへの声援が会場を二分する形で各所から響き渡る。別にサテライト出身やらメーカーやらはそれほど気にする事じゃ無いとおもっただけだね。

「龍可か、いいデュエルをしよう」

「……………」 (じくん)

『さあ両者とも！準備はいいかあ！！デュエルディスクを構えてくれー！』

「デュエル!!」

「……………ドロー……………《おろかな埋葬》でデッキからモンスター1体を墓地に送って……………《エーリアン・ウォリアー》を召喚……………カードを2枚伏せてターンエンド……………」

《おろかな埋葬》 通常魔法（制限カード）  
自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

《エーリアン・ウォリアー》 効果モンスター

4 地属性 爬虫類族 攻1800/守1000

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、このカードを破壊したモンスターにAカウンターを2つ置く。

Aカウンターが乗ったモンスターは、「エーリアン」と名のついたモンスターと戦闘する場合、Aカウンター1つにつき攻撃力と守備力が300ポイントダウンする。

龍可 LP4000 H2

モンスター1

《エーリアン・ウォリアー》（攻）

魔法・罫2

伏せ2

「俺のターン、ドロー。手札から《スピード・ウォリアー》を召喚。そして《スピード・ウォリアー》をリリースし《ターレット・ウォリアー》を手札から特殊召喚する」

《スピード・ウォリアー》 効果モンスター  
効果モンスター

2 風属性 戦士族 攻900/守400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

《ターゲット・ウォリアー》 効果モンスター

5 地属性 戦士族 攻1200/守2000

このカードは自分フィールド上に存在する戦士族モンスター1体をリリースし、手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚したこのカードの攻撃力は、リリースしたモンスターの元々の攻撃力分アップする。

「《ターゲット・ウォリアー》は自身が特殊召喚する時にリリースした戦士族モンスターの元々の攻撃力分攻撃力が上昇する」

《ターゲット・ウォリアー》 ATK1200 2100

「《ターゲット・ウォリアー》で《エアリアン・ウォリアー》に攻撃『リボルビング・ショット』！」

《ターゲット・ウォリアー》 ATK2100 VS 《エアリアン・ウォリアー》 ATK1800

龍可 LP4000 3700

「……………《エアリアン・ウォリアー》が破壊された時……………このカードを破壊したモンスターにAカウンターを2つ乗せる……………」

……」

「俺はカードを2枚セットしてターンエンド」

遊星 LP4000 H2

モンスター1

《ターレット・ウォリアー》（攻）【Aカウンター2】

魔法・罠2

伏せ2

「……………ドロー……………《エーリアンモナイト》を召喚  
……………」

《エーリアンモナイト》 チューナー（効果モンスター）

1 光属性 爬虫類族 攻500/守200

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4以下の「エーリアン」と名のついたモンスター1体を特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「……………《エーリアンモナイト》の効果で《エーリアン・ウォリアー》を墓地から特殊召喚……………そして4の《エーリアン・ウォリアー》に1の《エーリアンモナイト》チューニング……………」

4 + 1 = 5

「……………シンクロ召喚……………侵略の要《宇宙砦ゴルガー》……………」

《宇宙砦ゴルガー》 シンクロ・効果モンスター

5 光属性 爬虫類族 攻2600/守1800

「エーリアンモナイト」+チューナー以外の「エーリアン」と名のついたモンスター1体以上

1ターンに1度、フィールド上に表側表示で存在する魔法・罠カードを任意の枚数持ち主の手札に戻し、その枚数分だけAカウンターをフィールド上に存在するモンスターに置く事ができる。

1ターンに1度、フィールド上に存在するAカウンターを2つ取り除く事で、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

「これは巨大ながらもグロテクスなシンクロモンスター！ いったいどんなモンスターなんだあ！！」

「……………リバーズ発動《洗脳光線》《デモンズ・チェイン》……………チェイン処理により《デモンズ・チェイン》で《ターレット・ウォリアー》の攻撃を封じて……………《洗脳光線》の効果でAカウンターが乗った《ターレット・ウォリアー》のコントロールを貰う……………」

《洗脳光線》 永続罠

Aカウンターの乗っている相手フィールド上モンスター1体を選択してコントロールを得る。

自分のエンドフェイズ毎に、コントロールを得たモンスターのAカウンターを1つ取り除く。

コントロールを得たモンスターのAカウンターが全て取り除かれるかそのモンスターが破壊された場合、このカードを破壊する。

《デモンズ・チェイン》 永続罠 アニメ効果

フィールド上に表側表示で存在する

効果モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは攻撃する事ができず、効果は無効化される。  
選択したモンスターが破壊された時、このカードを破壊する。  
自身のライフが1000ポイント以下になった時、このカードを破壊する。

「何!？」

「……………《ゴルガー》の効果で《デモンズ・チェーン》を手札に戻し《ゴルガー》にAカウンターを乗せる……………そして《ゴルガー》のもう一つの効果……………Aカウンターを2つ取り除いてカードを1枚破壊する……………《ゴルガー》と《ターゲット・ウォリアー》から一つずつ取り除いて……………右側の伏せカードを破壊する……………」

《ゴルガー》から発せられた光線に遊星の伏せカードが吹き飛ばされる。

「くっ!」

「……………《ターゲット・ウォリアー》と《ゴルガー》でダイレクタアタック……………」

遊星 LP4000 1900

「リバーズカードオープン《くず鉄のかかし》!《ゴルガー》の攻撃を無効にして再びセットする!」

《くず鉄のかかし》 通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。  
相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

発動後このカードは墓地に送らず、そのままセットする。

「……………《神秘の中華なべ》で……………《ターレット・ウォリアー》をリリースしてその攻撃力分ライフを回復……………」

龍可 LP3700 5800

《神秘の中華なべ》 速攻魔法

自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げる。

生け贄に捧げたモンスターの攻撃力が守備力を選択し、その数値だけ自分のライフポイントを回復する。

「……………カードを2枚伏せてターンエンド……………」

龍可 LP5800 H0

モンスター1

《宇宙砦ゴルガー》（攻）

魔法・罫3

伏せ2

《洗脳光線》

「くっ、俺のターン、ドロ！手札から《調律》を発動！このカードはデッキからチューナーモンスターを手札に加えそのレベル分デッキからカードを墓地に送る。俺は《ジャンク・シンクロン》を手札に加える！」

《調律》 通常魔法 アニメ効果

自分のデッキからチューナー1体を手札に加える。

その後、手札に加えたモンスターのレベルの数だけ自分のデッキの上からカードを墓地へ送る。

「《ジャンク・シンクロン》を召喚し効果発動！このカードは召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を効果を無効にして特殊召喚する事ができる。《スピード・ウォリアー》を特殊召喚！そして墓地に存在する《ボルト・ヘッジホッグ》はチューナーモンスターが自身の場に存在する時特殊召喚できる！」

《ジャンク・シンクロン》 チューナー（効果モンスター）

3 闇属性 戦士族 攻1300/守500

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

《ボルト・ヘッジホッグ》 効果モンスター

2 地属性 機械族 攻800/守800

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

「2の《スピード・ウォリアー》と《ボルト・ヘッジホッグ》に

3の《ジャンク・シンクロン》をチューニング！」

2+2+3=7

「集いし誇りが全てを切り裂く剣となる。光差す道となれ！シンクロ召喚！立ち向かえ《セブン・ソード・ウォリアー》！」

シンクロ・効果モンスター

7 地属性 戦士族 攻2300/守1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、このカードに装備カードが装備された時、相手ライフに800ポイントダメージを与える。

また、1ターンに1度、このカードに装備された装備カード1枚を墓地へ送る事ができる。

このカードに装備された装備カードが墓地へ送られた時、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して破壊する事ができる。

「《セブン・ソード・ウォリアー》に《セメタリー・ブレイド》を装備！」

《セメタリー・ブレイド》 装備魔法 未OCG

装備モンスターの攻撃力は800ポイントアップする。

墓地にあるこのカードを除外する事で墓地のカード1枚を手札に加えることができる。

《セブン・ソード・ウォリアー》 ATK2300 3100

「装備カードが《セブン・ソード・ウォリアー》に装備された時、相手プレイヤーに800ポイントのダメージを与える！」イクイップ・ショット『！』

「……………リバーズ発動《デモンズ・チェーン》を《セブン・ソード・ウォリアー》に……………」

「この時を待っていた！手札から速攻魔法《ダブル・サイクロン》を発動！《セメタリーブレイド》と《デモンズ・チェーン》を破壊する！」

《ダブル・サイクロン》 速攻魔法

自分フィールド上に存在する魔法・罨カード1枚と、相手フィールド上に存在する魔法・罨カード1枚を選択して発動する。

《セブン・ソード・ウォリアー》を封じようと迫った鎖が《セメタリー・ブレイド》諸共、竜巻に巻き込まれ吹き飛ばされる。

「更に《セブン・ソード・ウォリアー》の効果！このカードに装備された装備カードが墓地に送られた時、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して破壊する事ができる。《ゴルガー》を破壊する！」

龍可 LP5800 5000

「……………《ゴルガー》が……………」

「《セブン・ソード・ウォリアー》でダイレクトアタック！『セブン・ソード・スラッシュ』！」

龍可 LP5000 2700

「……………」

「俺はこれでターンエンド」

「……………その前にリバース発動《リミット・リバース》……………《ユベル》を蘇生……………」

《リミット・リバーズ》 永続罫

自分の墓地に存在する攻撃力1000以下のモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

そのモンスターが守備表示になった時、そのモンスターとこのカードを破壊する。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

《ユベル》 効果モンスター

10 闇属性 悪魔族 攻0/守0

このカードは戦闘によっては破壊されない。

表側攻撃表示で存在するこのカードが相手モンスターに攻撃された場合、攻撃モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

このカードは自分のエンドフェイズ時に自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げなければ破壊される。

このカードの効果以外の方法で破壊された時、自分の手札・デッキ・墓地から「ユベル - Das Abscheulich Ritte」1体を特殊召喚できる。

遊星 LP1900 HO

モンスター1

《セブン・ソード・ウォリアー》（攻）

魔法・罫1

伏せ1

「……………ドロー……………」《ユベル》を守備表示に変更し《リミット・

リバーズ』共に破壊される……………」

『おおっと！龍可選手、折角蘇生させたモンスターを自ら破壊！これにはどんな意味があるんだあ！？』

「……………」《ユベル》が自身の効果以外で破壊された時……………」  
デッキ・手札・墓地から《ユベル - Das Abscheulich Ritter》を特殊召喚できる……………」痛みを糧に進化して《ユベル Das Abscheulich Ritter》……………」

《ユベル Das Abscheulich Ritter》が特殊召喚されると同時に会場中に纏わり付く様な禍々しい気配が放たれる。

「……何だ、このモンスターは……………」

「……………」《ユベル》は戦闘では破壊されず……………」攻撃してきたモンスターの攻撃力分のダメージを与える効果もある……………」  
……………」《壺の中の魔術書》を発動……………」互いにデッキからカードを3枚ドロウする……………」

《壺の中の魔術書》 通常魔法 未OCG

互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドロウする。

「……………」手札を1枚捨てて《スネーク・レイン》を発動……………」  
デッキから爬虫類族モンスター4体を墓地に送る……………」《毒蛇王ヴェノミノン》2体と《エアリアン・ウォリアー》《エアリアン・テレパス》を墓地に……………」

《スネーク・レイン》 通常魔法

手札を1枚捨てる。

自分のデッキから爬虫類族モンスター4体を選択し墓地に送る。

「……………このままターンエンド……………そして私のターンのエンドフ  
エイズに《ユベル》の効果が発動……………このカード以外のモンス  
ターを全て破壊する……………『フェロー・サクリファイス』……………」

「何!?!」

《ユベル Das Abscheulich Ritter》が天  
に向かって咆哮を上げ、その咆哮と共に発せられた波動に耐え切れ  
ず《セブン・ソード・ウォリアー》は破壊された。

龍可 LP2700 H1

モンスター1

《ユベル Das Abscheulich Ritter》(攻)

魔法・罠1

《洗脳光線》

「ターン毎に場を取り合うかのようなまさに互いに死力を尽くすデュ  
エル!ここで強力な効果を持つモンスターを召喚した龍可が一歩リ  
ード!!さあ不動遊星、ここからどう巻き返すのかあ!!」

「俺のターン!手札からカードを1枚墓地に送り《ワン・フォー・  
ワン》を発動しデッキから《チューニング・サポーター》を特殊召  
喚!そして手札から《デブリ・ドラゴン》を召喚して効果発動!こ  
のカードが召喚に成功した時、墓地から攻撃力500以下のモンス  
ターを効果が無効にして特殊召喚できる!俺は《レベル・ウォリア  
ー》を特殊召喚する!」

《ワン・フォー・ワン》 通常魔法（制限カード）  
手札からモンスター1体を墓地へ送って発動する。  
手札またはデッキからレベル1モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

《チューニング・サポーター》 効果モンスター

1 光属性 機械族 攻1000/守3000

このカードをシンクロ召喚に使用する場合、このカードはレベル2モンスターとして扱う事ができる。

このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分はデッキからカードを1枚ドローする。

《デブリ・ドラゴン》 チューナー（効果モンスター）（制限カード）

4 風属性 ドラゴン族 攻1000/守2000

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する攻撃力500以下のモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

このカードをシンクロ素材とする場合、ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

また、他のシンクロ素材モンスターはレベル4以外のモンスターでなければならない。

《レベル・ウォリアー》 効果モンスター

3 光属性 戦士族 攻3000/守6000

フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはレベル2モンスターとして手札から召喚する事ができる。

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはレベル4モンスターとして

手札から特殊召喚することができる。

「 1の《チューニング・サポーター》と 3の《レベル・ウォーリアー》に 4の《デブリ・ドラゴン》をチューニング！」

1 + 3 + 4 = 8

「集いし願いが新たに輝く星となる。光差す道となれ！シンクロ召喚！飛翔せよ《スターダスト・ドラゴン》！」

《スターダスト・ドラゴン》 シンクロ・効果モンスター

8 風属性 ドラゴン族 攻2500/守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚することができる。

「……………キレイ……………」

「《チューニング・サポーター》の効果で1枚ドロワー！カードを1枚セットしてターンエンド！」

遊星 LP1900 H1

モンスター1

《スターダスト・ドラゴン》（攻）

魔法・罠2

伏せ2

「……………ドロー……………墓地の《墮天使マリー》の効果で200  
ポイント回復…《洗脳光線》を墓地に送って《マジック・プランタ  
ー》を発動……………デッキからカードを2枚ドロー……………」

龍可 LP2700 2900

《墮天使マリー》 効果モンスター

5 闇属性 悪魔族 攻1700/守1200

このカードが墓地に存在する場合、自分のスタンバイフェイズ時に  
1度だけ、自分は200ライフポイント回復する。

《マジック・プランター》 通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する永續罫カード1枚を墓地へ  
送って発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「……………3枚伏せてターンエンド……………そして《ユベル  
》の効果が発動するけど……………」

「《スターダスト》は自身をリリースしてカードを破壊する効果を  
無効にし破壊する！『ヴィクテム・サンクチュアリ』！」

《ユベル》が放つ波動が《スターダスト・ドラゴン》に押し返され  
自身の波動に飲み込まれ破壊される。

「……………」

「《スターダスト》は効果を発動したエンドフェイズにフィールド  
に戻る」

龍可 LP2900 H0

魔法・罨3

伏せ3

「俺のターン、ドロー！《スターダスト》で龍可にダイレクトアタックだ！」

「……………リバーズ発動《メタル・リフレクト・スライム》……………」

《メタル・リフレクト・スライム》 永続罨

このカードは発動後モンスターカード（水族・水・星10・攻0/守3000）となり、自分のモンスターカードゾーンに守備表示で特殊召喚する。

このカードは攻撃する事ができない。（このカードは罨カードとしても扱う）

「くっ、ターンエンドだ」

遊星 LP1900 H1

モンスター1

《スターダスト・ドラゴン》（攻）

魔法・罨2

伏せ2

「……………ドロー……………《墮天使マリー》の効果で2000ポイント回復……………」

龍可 LP2900 3100

「……………《ヴォルカニック・エッジ》を召喚……………効果を発動…  
…」

《ヴォルカニック・エッジ》 効果モンスター

4 炎属性 炎族 攻1800/守1200

相手ライフに500ポイントダメージを与える事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。

遊星 LP1900 1400

「くっ！」

「……………ターンエンド……………」

龍可 LP3100 HO

モンスター2

《メタル・リフレクト・スライム》 (守)

《ヴォルカニック・エッジ》 (守)

魔法・罠3

伏せ2

《メタル・リフレクト・スライム》

「ドロー！」

「……………《ヴォルカニック・エッジ》を対象に《安全地帯》を発動……………」

《安全地帯》 永続罠

フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは相手の効果の対象にならず、戦闘及び相手の効果では破壊されない。

また、選択したモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事はできない。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

「カードをセットしてターンエンドだ」

遊星 LP1900 H1

モンスター1

《スターダスト・ドラゴン》（攻）

魔法・罫3

伏せ3

「……………ドロー……………」

龍可 LP3100 3300

「……………《ヴォルカニック・エッジ》の効果と《波動キャノン》を発動……………」

《波動キャノン》 永続魔法

自分のメインフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、このカードの発動後に経過した自分のスタンバイフェイズの数×1000ポイントダメージを相手ライフに与える。

遊星 LP1400 900

「不動遊星の残りライフは僅か900のこの状況で《波動キャノン》が発動されてしまった！次の龍可のターンに《波動キャノン》の効果を使われたら1000ポイントのダメージで勝敗は決してしまう！だが守備力3000の《メタル・リフレクト・スライム》と破壊する事のできない《ヴォルカニック・エッジ》がまさに強大な壁として立ちふさがっている！このデュエル最大の危機！これをどう対処するのかあ！！」

「……………これで私はターンエンド……………」

龍可 LP3300

モンスター2

《メタル・リフレクト・スライム》（守）

《ヴォルカニック・エッジ》（守）

魔法・罫3

伏せ2

《メタル・リフレクト・スライム》

この遊星の危機に対して龍可への声援と遊星への罵声が更にヒートアップし、会場中に響く。その中で遊星はこのドロローに全ての神経を集中するかのように目を閉じカードを引く体制でいた。

「……………俺のターン、ドロロー！！俺は墓地にある《セメタリー・ブレイド》の効果を発動！墓地に存在するこのカードを除外することで墓地に存在するカードを1枚手札に加える事ができる。俺は《調律》を手札に戻し発動！《クイック・シンクロン》を選択する！このカードは手札を1枚捨てる事で特殊召喚できる。《クイ

ツク・シンクロン』を特殊召喚し、そのレベルを下げ《レベル・ステイラー》を墓地から特殊召喚する！」

《クイック・シンクロン》 チューナー（効果モンスター）

5 風属性 機械族 攻700/守1400

このカードは手札のモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「シンクロン」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とする事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「シンクロン」と名のついたチューナーをシンクロ素材とするモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

《レベル・ステイラー》 効果モンスター

1 闇属性 昆虫族 攻600/守0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

「《アンサイクラ》を通常召喚し、1の《レベル・ステイラー》と1の《アンサイクラ》に4になった《クイック・シンクロン》をチューニング！」

1 + 1 + 4 = 6

「集いし力が大地を貫く槍となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！碎け《ドリル・ウォリアー》！」

《アンサイクラー》通常モンスター

1 地属性 機械族 攻1000/守1000

トライクラー、ヴィークラーを兄に持つ三男坊のアンサイクラー。

《ドリル・ウォリアー》シンクロ・効果モンスター

6 地属性 戦士族 攻2400/守2000

「ドリル・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上1ターンに1度、自分のメインフェイズ時にこのカードの攻撃力を半分にし、このターンこのカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

また、自分のメインフェイズ時に1度だけ、手札を1枚捨ててこのカードをゲームから除外する事ができる。

次の自分のスタンバイフェイズ時、このカードの効果で除外したこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

その後、自分の墓地に存在するモンスター1体を手札に加える。

「《ドリル・ウォリアー》は自身の攻撃力を半分にする事により相手プレイヤーにダイレクトアタックができる！」

《ドリル・ウォリアー》 ATK2400 1200

「バトルだ！《ドリル・ウォリアー》で龍可にダイレクトアタック！」

「……………私のライフは3300……………1200じゃ削りきることはできない……………」

「リバーズカードオープン《シンクロ・ストライク》！このカードはシンクロモンスターの攻撃力をエンドフェイズまで素材モンスター1体に付き500ポイントアップする！」

《シンクロ・ストライク》 通常罾  
シンクロ召喚したモンスター1体の攻撃力はエンドフェイズ時まで、シンクロ素材にしたモンスターの数×500ポイントアップする。

「……………でもまだ足りない……………」

「まだまだ！更に墓地より《スキル・サクセサー》を発動！この罾を墓地から除外しモンスター1体の攻撃力を800ポイントアップさせる！」

《スキル・サクセサー》 通常罾

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

このターンのエンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は400ポイントアップする。

また、墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力はこのターンのエンドフェイズ時まで800ポイントアップする。

この効果はこのカードが墓地へ送られたターンには発動する事ができず、自分のターンのみ発動する事ができる。

「…墓地から罾！？……………それに《ドリル・ウォリアー》の攻撃力が私のライフを超えた……………」

《ドリル・ウォリアー》 ATK1200 2000 3500

「いけ《ドリル・ウォリアー》！『ドリル・シュート』！」

「っ……………っ……………」

龍可 LP3300

「決まったあああ！！あの状況からの見事な逆転劇！波乱万丈であつたこのデュエルを制したのは不動遊星！！決勝戦に進出だあ！！」

## じゅじゅによる（後書き）

結構遅くなりましたがいつも通りに低クリオテイな内容でした。

それにしても蟹も龍可ちゃんも本当に書き難いです。パソコンも調子が悪くて途中で強制的にシャットダウン状態になって記録して無い分が消えるわと途中で何回か投げ出しかけましたが一応形にはなりました。

多分、この小説でもう蟹とのデュエルは無いと思います。書き難いから。

まあそんなことはさて置いて、次の話がフォーチュンカップ編最後のデュエルとなります。もしかしたら飛ばすかもしれないですが、多分きちんと書きます。

こんな小説ですがこれからよろしくお願いします。

じゅじゅくわ(前書き)

9000文字に突入しそうな所でブレイカーが落ちやがった  
o

r  
z

## じゅじろくわ

「惜しかったね、龍可ちゃん。後1ターンもてば勝てたのにな」

「まさかあの壁を無視してダイレクトアタックの一撃で3000以上のライフを削りきるとは、凄かったわね」

「……………」

「どうしたよ、龍亞。龍可ちゃんみたいに3点リーダーを並べて」

「いや、よくまああんなに上級モンスターをポンポン出せるなど。

殆ど1ターンに一回は上級モンスターを出してたいし、龍可ちゃんあのカオスなデッキで良く事故らずにあんな事できるね」

あのデッキのカオス具合は本当にヤバイしな。龍可ちゃんの考えることが分からなくなるよ。

「だけど実際に回ってるし、龍可ちゃんが事故ってるのなんて見たこと無いわ」

「……………兄心としてはもう少しデッキにまとまりが欲しいところなんだけどなあ」

注意するためにも一回負かした方がいいのかな、Dじゃ勝てないだらうけどアレ等なら大丈夫だろうし。

色々あつて準決勝第二回戦終了

『さあ！これで決勝に進む二人のデュエリストが出揃つたあ！！優勝しキングとデュエルをする栄誉を手にするのはどっちなのか気になるところだが！まずは今大会第三位を決める三位決定戦だあ！！……ん？えっ？』

相変わらずのハイテンションMCが大会のスタッフらしき黒子から何かを耳打ちされメモを渡された。

『あ〜と、先程デュエルを行った来宮選手はデュエルできる状態ではないため、三位決定戦は龍可選手の不戦勝！だがあ！代わりにラウンドに選ばれるデュエリストによるスペシャルマッチ行われる事に決定したあ！！』

三位決定戦が不戦勝となり観客は軽い溜息をついたが、スペシャルマッチが行われると聴き歓声が会場中から上がる。

『さあ！これがスペシャルマッチの組み合わせだ〜！！』

【龍可】VS【フランク】

『強力なモンスターを手足の様に操り相手を圧倒した龍可選手と冷静沈着なデュエルに定評のあるプロフェッサー・フランクのデュエルだあ！！』

「あつ、龍可ちゃんが選ばれたね」

「元々三位決定戦でデュエルするハズだったから相手が変わっただけね」

龍可ちゃんか、昨日の事もあるし何か作為的なモノを感じるねえ。

『試合は10分後に行われる！選ばれたデュエリストは準備をしてくれえ！！』

『さあそろそろ始まるぞお！！スペシャルマッチスタート！！』

「デュエル」

「……………デュエル……………」

「……………ドロロー……………《クリッター》を守備表示で召喚  
……………2枚伏せてターンエンド……………」

《クリッター》 効果モンスター

3 闇属性 悪魔族 攻1000/守600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

龍可 LP4000 H3

モンスター1

《クリッター》（守）

魔法・畏2

伏せ2

「ワタシのターンです、ドロー。ワタシは《L Rロールシャッターシンメトリー》を召喚します」

《L Rロールシャッターシンメトリー》 効果モンスター 未OCG

不明 属性不明 種族不明 攻1200/守備力不明

このモンスターが相手モンスターを破壊した時、相手のデッキの一番上のカードを表向きにすることが出来る。

「ロールシャッターテストというのはご存知ですね。この如何様にも見えるモンスターを、どの様に感じるかによってあなたの抱える不安、心配、問題などを解き明かすための手掛かりを得る心理テストです。さあ龍可ちゃん、あなたにはこのモンスター、何に見えますかね」

「……………」

「さあ答えて、何に見えます」

フランクの言葉に従った訳では無いが、《L Rロールシャッター》を見つめるとその姿に浮かび上がってくるモノがあった。

「……………妖精……………？」

「『スパイラル・マインド』」

「……………!!」

《クリッター》が《L Rロールシャッター》によって放たれた波動によって破壊される。

「ふふふ、このテストはあなたが意識の底で恐れているモノを露わにするモノだったのです。あなたは妖精や精霊を恐れている。違いますか」

「……………」

「大丈夫ですよ。このデュエルであなたが抱えていた悩みを解き明かし解放してあげましょう。そのためにも勇気を持ってあなたの深層意識に潜むもう一つの世界、DMの精霊世界へと旅立って行くのです」

「……………DMの……………精霊世界……………?」

「知っていますよ。あなたは精霊の言葉を感じる事ができる。だったらDMの精霊の世界が有ったって不思議じゃないでしょう?」

「……………!」

「《L Rロールシャッター》の効果発動。相手モンスターを破壊した時、相手のデッキの一番上のカードを表向きにする事ができる。『ピーピング・マインド』」

「……………《クリッター》の効果チェイン……………デッキから攻撃力1500以下の《墮天使ナース・レフィキュル》を加える……………」

「ではデッキの一番上のカードを表向きにして下さい」

龍可が捲ったカードは《ユベル》のカードだった。

「これはまた変わったモンスターですね。そのカードの声も聞こえているのでは？」

「……………」

「カードを3枚伏せてターンエンドです」

「……………リバースカード発動…《終焉の焰》……………」

《終焉の焰》 速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

自分フィールド上に「黒焰トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは闇属性モンスター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

フランク LP4000 H2

モンスター1

《L Rロールシャッター》（守）

魔法・罫3

伏せ3

「……………ドロー……………」

「スタンバイフェイズにリバースカード発動、《DNA移植手術》。

このカードは属性を一つ宣言し、このカードがある限り場のすべてのモンスターは宣言した属性となります。私は光属性を宣言」

《DNA移植手術》 永続罨

発動時に1種類の属性を宣言する。

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上の全ての表側表示モンスターは自分が宣言した属性になる。

「……………黒焰トークンをリリースして……………《魔族召喚師》をアドバンス召喚……………」

《魔族召喚師》 デュアルモンスター

6 闇属性 魔法使い族 攻2400/守2000

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

手札または墓地に存在する悪魔族モンスター1体を特殊召喚する。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

このカードがフィールド上から離れた時、この効果によって特殊召喚された悪魔族モンスターを破壊する。

「この瞬間リバーカード発動、《深層へと導く光》。相手プレイヤーはデッキからカードを5枚墓地に送り6枚目のカードを互いに確認して手札に加えます。このターン、そのカードをプレイしなかった場合2000ポイントのダメージをくらいます」

「……………チェインで《魔宮の賄賂》……………魔法か罨の効果は無効にする代わりに……………相手は1ドローできる……………」

「なっ!？」

《深層へと導く光》 通常罫 未OCG

相手が光属性モンスターを召喚・特殊召喚した時に発動する。

相手のデッキの上からカードを5枚墓地へ送り、6枚目のカードをお互いに確認して手札に加える。

加えたカードをこのターンに発動しなかった場合、相手ライフに2000ポイントのダメージを与える。

《魔宮の賄賂》 カウンター罫

相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

相手はデッキからカードを1枚ドローする。

「……………《闇の誘惑》を発動……………2枚ドローして闇属性の《レフィキュル》を除外……………」

《闇の誘惑》 通常魔法

自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後手札の闇属性モンスター1体を選択してゲームから除外する。

手札に闇属性モンスターがない場合、手札を全て墓地へ送る。

「……………《壺の中の魔術書》を発動……………互いに3枚ドロー……………」

《壺の中の魔術書》 通常魔法 未OCG

互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「……………手札を1枚捨てて《スネーク・レイン》を発動……………《エーリアン・ウォリアー》2体に《エーリアン・ソルジャー》《毒蛇王

ヴェノミノン》を墓地に……そして《スーペルヴィス》を《魔族召喚師》に装備……」

《スーペルヴィス》 装備魔法

デュアルモンスターにのみ装備可能。

装備モンスターは再度召喚した状態になる。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが墓地へ送られた時、自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して特殊召喚する。

「……………《魔族召喚師》の効果……………墓地の《ユベル》を特殊召喚……………」

《ユベル》 効果モンスター

10 闇属性 悪魔族 攻0/守0

このカードは戦闘によっては破壊されない。

表側攻撃表示で存在するこのカードが相手モンスターに攻撃された場合、攻撃モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

このカードは自分のエンドフェイズ時に自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げなければ破壊される。

このカードの効果以外の方法で破壊された時、自分の手札・デッキ・墓地から「ユベル - Das Abscheulich Ritte」1体を特殊召喚できる。

「……………《魔族召喚師》で《Rロールシャッター》に攻撃……………」

「くっ、そうはさせません。永続罠《ゲシユタルト・トラップ》を発動。このカードは相手モンスターの装備魔法となり《魔族召喚師

《》に装備。装備モンスターはモンスター効果が無効となり攻撃力・守備力共に0となります」

《ゲシュタルト・トラップ》 永続罠 未OCG

このカードは発動後、装備カードとなり相手モンスター1体に装備する。

このカードを装備したモンスターのモンスター効果は無効となり、攻撃力・守備力を0にする。

《魔族召喚師》 ATK0VS《L Rロールシャッター》 ATK1  
200

龍可 LP4000 2800

「《L Rロールシャッター》の効果発動、『ピーピング・マイン  
ド』」

「……………その前に《スーペルヴィス》と《ユベル》の効果……  
……………《悪魔召喚師》と《ユベル - Das Abscheulich  
Ritter》を特殊召喚……………」

《ユベル - Das Abscheulich Ritter》 効  
果モンスター

11 闇属性 悪魔族 攻0/守0

このカードは通常召喚できない。

「ユベル」の効果でのみ特殊召喚できる。

このカードは戦闘によっては破壊されない。

表側攻撃表示で存在するこのカードが相手モンスターに攻撃された場合、攻撃モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーへの戦闘

ダメージは0になる。

自分のエンドフェイズ時にこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

このカードがフィールド上から離れた時、自分の手札・デッキ・墓地から「ユベル - Das Extremere Traurige Drachen」1体を特殊召喚できる。

「……………そして一番上のカードは……………《カオス・ネクロマンサー》…1枚伏せてターンエンド……………《ユベル》の効果で《ユベル》以外のモンスターを破壊……………」

「くっ」

龍可 LP2800 H2

モンスター1

《ユベル - Das Abscheulich Ritter》（攻）

魔法・罠1

伏せ1

「私のターン。くう、《キラー・トマト》を守備表示で召喚しカードを2枚伏せてターンエンドです」

《キラー・トマト》 効果モンスター

4 閻属性 植物族 攻1400/守1100

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下の閻属性モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。

フランク LP4000 H3

モンスター1

《キララー・トマト》

魔法・罨3

伏せ2

《DNA移植手術》【光】

「……………ドロー……………リバーズカード《メタル・リフレクト・スライム》……………これをリリースして《アドバンスドロー》……………」

《メタル・リフレクト・スライム》 永続罨

このカードは発動後モンスターカード（水族・水・星10・攻0ノ守3000）となり、自分のモンスターカードゾーンに守備表示で特殊召喚する。

このカードは攻撃する事ができない。（このカードは罨カードとしても扱う）

《アドバンスドロー》 通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル8以上のモンスター1体をリリースして発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「……………《デビルズ・サンクチュアリ》を発動し……………《ネフティスの導き手》を召喚……………トークンと一緒にリリースして……………効果発動……………」

《ネフティスの導き手》が《メタルデビルズ・トークン》と共に黄金に輝く炎に飲まれ、その炎が龍可にフィールドを埋め尽くすかの様に広がり、一つの形に集約される。

「……………2柱目の神《ネフティスの鳳凰神》を特殊召喚……………」

輝く炎を身に纏い、その威光を知らしめるかの様な金色の神が光臨した。

《デビルズ・サンクチュアリ》 通常魔法

「メタルデビル・トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）を自分のフィールド上に1体特殊召喚する。

このトークンは攻撃をする事ができない。

「メタルデビル・トークン」の戦闘によるコントローラーへの超過ダメージは、かわりに相手プレイヤーが受ける。

自分のスタンバイフェイズ毎に1000ライフポイントを払う。

払わなければ、「メタルデビル・トークン」を破壊する。

《ネフティスの導き手》 効果モンスター

2 風属性 魔法使い族 攻600/守600

このカードと自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースして発動する。

自分の手札またはデッキから「ネフティスの鳳凰神」1体を特殊召喚する。

「こ、このモンスターは……」

フランクは治安維持局から刺客として送り込まれる程の経験と知識を持ったデュエリストである。その彼には勿論、今龍可が特殊召喚したモンスターについての知識もあり、この場に居るモンスターから導き出されるコンボもすぐに理解が出来た。

「……………これでターンエンド……………そして《ユベル》以外のモンスターを破壊……………」

龍可 LP2800 H2

モンスター - 1

《ユベル - Das Abscheulich Ritter》（攻）

「う、ああ…………ド、ドロ……………」

最初の余裕が消え失せ、顔色を失いつつも何とか踏みとどまってプレイを続けようとする。

「わ、私は《闇の誘惑》を発動し、デッキから2枚ドロし手札から闇属性モンスターを1枚除外。うう、手札を1枚捨て《コストダウン》を発動。召喚コストが減った《超魔神イド》を召喚します」

《コストダウン》 通常魔法

手札を1枚捨てる。

自分の手札にある全てのモンスターカードのレベルを、発動ターンのエンドフェイズまで2つ下げる。

《超魔神イド》 効果モンスター アニメ版

6 闇属性 悪魔族 攻2200/守800

このカードが自分フィールド上に存在する限り、それ以外の自分フィールド上のモンスターは全て破壊される。

このカードは破壊されたターンのエンドフェイズに自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分はモンスターを通常召喚・反転召喚・特殊召喚する事ができない。

「超魔神イド」は自分フィールド上に1枚しか表側表示で存在できない。

「そして《黒いペンダント》を《イド》に装備。これでターン、エンドです」

《超魔神イド》 ATK2200 2700

《黒いペンダント》 装備魔法

装備モンスターの攻撃力は500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、相手ライフに500ポイントダメージを与える。

フランク LP4000 H1

モンスター1

《超魔神イド》 (守)

魔法・罫4

伏せ2

《DNA移植手術》 【光】

《黒いペンダント》 【超魔神イド】

「……………ドロー……………スタンバイフェイズに《ネフティスの鳳凰神》の効果……………自分の場に特殊召喚し……………魔法、罫を全て破壊する……………」

龍可のデュエルディスクから金色の炎が飛出し、《ネフティスの鳳凰神》となるのと同時にフィールド中に《ネフティスの鳳凰神》が放つ炎が降り注ぎ蹂躞する。

《ネフティスの鳳凰神》 効果モンスター

8 炎属性 鳥獣族 攻2400/守1600

このカードがカードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、次の自分のスタンバイフェイズ時にこのカードを墓地から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚に成功した時、フィールド上に存在する魔法・

罨カードを全て破壊する。

「だが、破壊された《黒いペンダント》の効果！相手プレイヤーに500ポイントのダメージを与える」

龍可 LP2800 2300

「……………《エアリアン・ソルジャー》を召喚……………」

《エアリアン・ソルジャー》 通常モンスター

4 地属性 爬虫類族 攻1900/守800  
謎の生命体、エアリアンの上級戦士。

比較的高い攻撃力を持つが、反面特殊な能力は身につけていない。

「……………バトル…《ネフティス》で《イド》に攻撃……………」

《ネフティスの鳳凰神》 ATK2400 VS 《超魔神イド》 DEF  
800

「くっ」

「……………《エアリアン・ソルジャー》で追撃……………」

「ぐわあああ！」

フランク LP4000 2100

「……………カードを1枚伏せてターンエンド……………」 モンスター効果

処理は省略

龍可 LP2300 H2

モンスター1

《ユベル-Das Abscheulich Ritter》(攻)

魔法・罾1

伏せ1

「ぬぐぐう、ドロー。……………ターンエンド……………」

フランク LP2100 H2

モンスター1

《超魔神イド》(攻)

「……………ドロー…《ネフティス》が特殊召喚され効果が発動……………  
更に破壊された時《荒野の大竜巻》の効果が発動……………《イド》を破壊……………」

「なっ！」

《荒野の大竜巻》 通常罾

魔法&罾カードゾーンに表側表示で存在するカード1枚を選択して破壊する。

破壊されたカードのコントローラーは、手札から魔法または罾カード1枚をセットする事ができる。

また、セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を選択して破壊する。

「……………バトル……………《ネフティス》でダイレクトアタック……………」

「ぎゃあああああー！！！」

フ  
ラ  
ン  
ク  
  
L  
P  
2  
1  
0  
0  
  
0

## じゅじろくわ（後書き）

9月ももう半分しか残っていませんが皆さん、元気でしょうか。

私は死にそうです。

だって、あと少しで完成の所で停電 デュエルの初めからやり直しますよ。

最初はアニメの様に精霊世界に精神が飛ばされたりもしましたが、書き直したとそうで無いのはやる気の問題と作者が変態に八つ当たりした結果です。

まあそういうのは置いておき、次回からやっと話が進みます。

出来る事なら10月までにはダグナー共も出したかったので頑張ります。

## じゅうななわ（前書き）

遅くなってすみません。

自練や大学の準備、ポラリスAを4回倒したりするのに忙しくてなかなか時間が作れませんでした。

## じゅうななわ

アニメと殆ど変わらないからカットされた語られ無い部分のあらすじ！！

龍可ちゃんが変態カウンセラーに勝利した後、蟹とアキによるSMデュエルで相棒の星屑と共に見事なMつぷりを見せた蟹が勝利し優勝！その後キングとの因縁のデュエルを行い、色々あって蟹がキングに長年の恨みを晴らしクラッシュさせキングは転倒王者として新たな一步を踏み出す切っ掛けを作った。

観客としては憑神とAIDAの戦いの様にフィルムのコマが急に飛んだかの様で納得のいかない決着ではありはしたモノの取りあえず蟹がニューキングとなった！その後色々あってなんやかんやとあってSMデュエルの総本山であるアルカディアムーブメントに話し合いという名の殴り込みに行くが、逆に卑劣な罠にかかりつか仲間バラバラに捕まってしまった。そして龍亞は龍可ちゃんを人質に取られ、変な髪形のおっさんにSMデュエルを強要されていた！！

くそ、隠し持ってた護身用具が全部盗られてる上に、左足首を鎖で地面と結び付けられてやがる。俺には遊星の様な趣味は無いつてのに。

「何度も言うけど俺には精霊とイチャラブしたり、カードを実体化させるようなビックリドッキリ能力もないんですよ」

まあカードの精霊を見る能力はサンダーの例もある様に後天的に備わる事もあるみたいだけどね。言ったら面倒になりそうだから言わないけど。

「ふふふつ、それは分からないさ。龍可ちゃんには精霊と話す事のできる能力がある。双子の君にも何か能力が眠っているかもしれない。それをおじさんが今からテストしてあげるのさ」

「いやいや、龍可ちゃんはシグナーだし主人公組のレギュラーだからこそだと思っし、そういう能力は欲しいけど、モブの俺には多分無いよ。」

「そんなに不思議っ子が欲しんなら、件のダークシグナーでも捕まえるなりスカウトするなりしてくればいいんじゃないですかねえ。無理に俺の様な小学生を苛めなくても」

「残念ながらダークシグナーとか言うのには興味が無くてね。それに君には拒否権はないのさ」

と、俺の斜め上の方向に指を指し、そこを見ると龍可ちゃんがアキとか言う姉ちゃんと一緒に居るのが分かった。何か言っているみたいだけど声は届かないし、何か仕掛けでもしてない限りアツチ側にもコツチの声は伝わらないだろう。

「……んん、成程。龍可ちゃんがそっち側に捕まってる限り確かに拒否権は無いね」

「物分りが早くて助かるよ。オジサンのテストは荒っぽいからね、本気でかかってきなさい」

……しょうがないか。

「ふうん、なら昔龍可ちゃんにトラウマを植え付けたコレを使い、本気で殺ってあげるよ」

「「デュエル!!」」

「デュエルが始まってわね。ディバインは力をコントロールするの  
がうまいから大怪我を負う事は無いと思うけど、怖かったら見なく  
てもいいのよ」

「……大丈夫……龍亞は負けないから……」

「確かに、フォーチュンカップ一回戦でのデュエルは中々だったけどアレぐらいではディバインは倒せないわ」

「……問題ない……龍亞の本気はあんなモノじゃないもの……」

「フォーチュンカップでのデュエルは本気じゃなかったと言う事？」

「……………」

「ワタシのターン、《クレボンス》を召喚」

《クレボンス》 チューナー（効果モンスター）

2 闇属性 サイキツク族 攻1200/守400

このカードが攻撃対象に選択された時、800ライフポイントを払う事でそのモンスターの攻撃を無効にする。

「手札を2枚伏せてターンエンド。さあ、君の番だ」

デイバおじさん LP4000 H3

モンスター1

《クレボンス》（攻）

魔法・罫2

伏せ2

「俺のターン！《スクラップ・エリア》を発動し《スクラップ・ソルジャー》を手札に。そして《手札断殺》を発動、互いに手札を2枚墓地へ送り2枚ドローする」

《スクラップ・エリア》 通常魔法

自分のデッキから「スクラップ」と名のついたチューナー1体を手札に加える。

《手札断殺》 速攻魔法

お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロウする。

「《カードガンナー》を召喚、デッキトップからカードを3枚墓地に送りし効果発動。エンドフェイズまでこのカードの攻撃力を1500アップさせる」

《カードガンナー》 効果モンスター

3 地属性 機械族 攻400/守400

1ターンに1度、自分のデッキの上からカードを3枚まで墓地へ送って発動する。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、墓地へ送ったカードの枚数×500ポイントアップする。

また、自分フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからカードを1枚ドロウする。

《カードガンナー》 ATK400 1900

「バトル、《カードガンナー》で《クレボンス》を攻撃」

「《クレボンス》のモンスター効果発動。ライフを800ポイント払モンスターの攻撃を無効にする」

デイバおじさん LP4000 3200

「カードを2枚伏せてターンエンド」

《カードガンナー》 ATK1900 400

龍亞 LP4000 H2

モンスター1

《カードガンナー》（攻）

魔法・罨2

伏せ2

「ワタシのターン、さて少々本気で行かせて貰うよ。《サイキックブレイク》を発動。このカードはサイキック族モンスターを召喚した時、ライフを500ポイント払う事により を1つ上げ、攻撃力を300ポイントアップさせる。《サイコ・ワールド》を召喚し《サイキックブレイク》の効果を発動」

《サイキックブレイク》 永続魔法

サイキック族モンスターが召喚に成功した時、500ライフポイント払う事でそのモンスター1体のレベルを1つ上げ、攻撃力を300ポイントアップする。

《サイコ・ワールド》 効果モンスター

4 地属性 サイキック族 攻1900/守1200  
800ライフポイントを払って発動する。

自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスター1体は、1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

デイバおじさん LP3200 2700

《サイコ・ワールド》 4 5 ATK1900 2200

「《クレボンス》で《カードガンナー》に攻撃！」

《クレボンス》 ATK1200 vs 《カードガンナー》 ATK400

龍亞 LP4000 3200

「ぐっ！、800ポイントでこの衝撃なのか……」

「くっくっく、更に《サイコ・ワールド》でダイレクトアタック、  
『スネイル・サンダー』！」

「リバーズカード発動—《リビングデッドの呼び声》！墓地から《スクラップ・ゴーレム》を蘇生」

《リビングデッドの呼び声》 永続罠

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。  
このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

《スクラップ・ゴーレム》 効果モンスター

5 地属性 岩石族 攻2300/守1400

1ターンに1度、自分の墓地に存在するレベル4以下の「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択し、自分または相手フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「ほう、あの時に墓地に送っていたのか。《サイコ・ワールド》の攻撃は中止。5になった《サイコ・ワールド》に2の《クレボンス》をチューニング！」

「黒き憎しみの炎よ、怒りを糧に燃え上がれ！シンクロ召喚！現れる《サイコ・ヘルストランサー》！」

《サイコ・ヘルストランサー》 シンクロ・効果モンスター

7 地属性 サイキック族 攻2400/守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の墓地に存在するサイキック族モンスター1体をゲームから除外して発動する。

自分は1200ライフポイント回復する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「《ヘルストランサー》の効果発動、墓地の《サイコ・ウォールド》を除外しライフを1200ポイント回復する」

デイバおじさん LP2700 3900

「これでターンエンドだ」

デイバおじさん LP3900 H2

モンスター1

《サイコ・ヘルストランサー》（攻）

魔法・罫3

伏せ2

《サイキックブレイク》

「俺のターン、ドロー！《スクラップ・キマイラ》を召喚し効果が発動、墓地の『スクラップ』と名の付くチューナーを1体特殊召喚する。《スクラップ・ソルジャー》を特殊召喚」

《スクラップ・キマイラ》 効果モンスター

4 地属性 獣族 攻1700/守500

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたチューナー1体を選択して特殊召喚する事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「スクラップ」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できず、他のシンクロ素材モンスターは全て「スクラップ」と名のついたモンスターでなければならぬ。

《スクラップ・ソルジャー》 チューナー（効果モンスター）

5 地属性 戦士族 攻2100/守700

フィールド上に表側守備表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された場合、バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついたカードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、「スクラップ・ソルジャー」以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「スクラップ」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「4の《スクラップ・キマイラ》に 5の《スクラップ・ソルジャー》をチューニング！」

4 + 5 = 9

「未練と怨嗟の淵より生まれし魔龍よ、その咆哮で全てを薙ぎ払え！シンクロ召喚！《スクラップ・ツイン・ドラゴン》！」

《スクラップ・ツイン・ドラゴン》 シンクロ・効果モンスター

9 地属性 ドラゴン族 攻3000/守2200

「スクラップ」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分フィールド上に存在するカード1枚と相手フィールド上に存在するカード2枚を選択して発動することができる。選択した自分のカードを破壊し、選択した相手のカードを手札に戻す。

このカードが相手によって破壊され墓地へ送られた時、シンクロモンスター以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して特殊召喚する。

「くっ、リバーズカードオープン《ブローニング・パワー》！《サイコ・ヘルストランサー》をリリースし、そのモンスターの召喚を無効にする！」

《ブローニング・パワー》 カウンター罠

自分フィールド上に存在するサイキック族モンスター1体をリリースして発動する。

魔法・罠カードの発動、モンスターの召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

スクラップが寄せ集まって出来た歪な双頭龍がカードから発射された光線によりそのまま粉碎された。

「ハハハハハハッ！！スクラップは滅びぬ。何度でも甦るさ！破壊された《スクラップ・ツイン・ドラゴン》のモンスター効果！墓地からシンクロモンスター以外の『スクラップ』を1体特殊召喚する事が出来る！甦れ《スクラップ・ソルジャー》！！」

破壊された《スクラップ・ツイン・ドラゴン》の瓦礫から幾つかの

スクラップが集まり、新たなモンスターになった。

「《スクラップ・ゴーレム》のモンスター効果も発動！墓地から4以下の『スクラップ』を特殊召喚する！《スクラップ・キマイラ》を特殊召喚！」

「ちっ、厄介なモンスター共め。リバーカードオープン《激流葬》！全てのモンスターを破壊する！」

《激流葬》 通常罫

モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「《安全地帯》をチェーンで発動！対象は《スクラップ・ゴーレム》……！」

《安全地帯》 永続罫

フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは相手の効果の対象にならず、戦闘及び相手の効果では破壊されない。

また、選択したモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事はできない。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

《スクラップ・ゴーレム》を以外のモンスターゾーンを濁流が押し流していく。

「カードを伏せてターンエンド」

龍亞 LP3200 H3

モンスター1

《スクラップ・ゴーレム》（攻）

魔法・罫3

伏せ2

《安全地帯》【スクラップ・ゴーレム】

「くそつ、ワタシのターン！《ディストラクター》を召喚し、《サイキックブレイク》の効果！ライフを500払いレベルと攻撃力を上げる！」

《ディストラクター》 効果モンスター

4 地属性 サイキック族 攻1600/守400

1000ライフポイントを払って発動する。

相手フィールド上にセットされた魔法または罫カード1枚を破壊する。

自分フィールド上にこのカード以外のサイキック族モンスターが存在しない場合、エンドフェイズ時にこのカードを破壊する。

デイバおじさん LP3900 3400

《ディストラクター》 4 5 ATK1600 2100

「そして速攻魔法《緊急テレポート》を発動！デッキから 3《サイコ・コマンダー》を特殊召喚！ 5になった《ディストラクター》に 3の《サイコ・コマンダー》をチューニング！」

「逆巻け、我が復讐の黒炎！シンクロ召喚！来い《メンタルスフィア・デーモン》！」

《緊急テレポト》 速攻魔法（制限カード）

自分の手札またはデッキからレベル3以下のサイキック族モンスター1体を特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時にゲームから除外される。

《ディストラクター》 効果モンスター

4 地属性 サイキック族 攻1600/守400

1000ライフポイントを払って発動する。

相手フィールド上にセットされた魔法または罫カード1枚を破壊する。

自分フィールド上にこのカード以外のサイキック族モンスターが存在しない場合、エンドフェイズ時にこのカードを破壊する。

《メンタルスフィア・デーモン》 シンクロ・効果モンスター

8 闇属性 サイキック族 攻2700/守2300

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの元々の攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。

サイキック族モンスター1体を対象にする魔法または罫カードが発動された時、1000ライフポイントを払う事でその発動を無効にし破壊する。

「更に《最古式念導》を発動！《安全地帯》を破壊する！」

「ぐう…《安全地帯》の効果で効果対象の《スクラップ・ゴーレム》も破壊される」

《最古式念導》 通常魔法

自分フィールド上にサイキック族モンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

フィールド上のカード1枚を破壊し、自分は1000ポイントダメージを受ける。

デイバおじさん LP3400 2400

「《メンタルスフィア・デーモン》でダイレクトアタックだ！」

「攻撃力2700のダイレクトアタック。いい攻撃だ、感動的だな。だが、無意味だ。墓地の《ネクロ・ガードナー》を除外し効果発動、ソイツの攻撃を無効にする」

《ネクロ・ガードナー》 効果モンスター（準制限カード）

3 闇属性 戦士族 攻600/守1300

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

「何だとっ!？」

「これで《メンタルスフィア・デーモン》の攻撃は終了、残念だったね」

「くっ、これでターンエンドだ」

デイバおじさん LP2400 HO  
モンスター1

《メンタルスフィア・デーモン》（攻）

魔法・畏1

《サイキックブレイク》

「ドロー！《スクラップ・ビースト》を召喚。そしてリーバスカード発動《機動砦 ストロング・ホールド》」

《スクラップ・ビースト》 チューナー（効果モンスター）

4 地属性 獣族 攻1600/守1300

フィールド上に表側守備表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された場合、バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついたカードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、「スクラップ・ビースト」以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。

《機動砦 ストロング・ホールド》 永續畏

このカードは発動後モンスターカード（機械族・地・星4・攻0/守2000）となり、自分のモンスターカードゾーンに守備表示で特殊召喚する。

自分フィールド上に「グリーン・ガジェット」「レッド・ガジェット」「イエロー・ガジェット」が全て表側表示で存在する限り、このカードの攻撃力は3000になる。（このカードは畏カードとしても扱う。）

「4の《ストロング・ホールド》に 4の《スクラップ・ビースト》をチューニング！」

「未練に染まりし屑鉄に宿りその怒りを晴らせ！シンクロ召喚！吼えよ《スクラップ・ドラゴン》！」

《スクラップ・ドラゴン》 シンクロ・効果モンスター

8 地属性 ドラゴン族 攻2800/守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分及び相手フィールド上に存在するカードを1枚ずつ選択して発動する事ができる。

選択したカードを破壊する。

このカードが相手によって破壊され墓地へ送られた時、シンクロモンスター以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して特殊召喚する。

「くそっ」

「《スクラップ・ドラゴン》の効果、俺の伏せカードとオツサンの《メンタルスフィア・デーモン》を対象にし発動、両方のカードを破壊。さらに《荒野の大竜巻》の効果も発動、《サイキックブレイク》も破壊するよ」

《荒野の大竜巻》 通常罫

魔法&罫カードゾーンに表側表示で存在するカード1枚を選択して破壊する。

破壊されたカードのコントローラーは、手札から魔法または罫カード1枚をセットする事ができる。

また、セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を選択して破壊する。

「さて、残りのライフ2400、手札も伏せも無いし墓地にもその様子じゃあ良いカードは無いみたいだし、これで詰みな訳だけど、止めを刺す前に聞きたい事があるんだよね」

「……………何だ」

「ここが噂通りにヤバイ事してるのは分かったんだけどね、どうやって治安維持局を黙らせてるのかわかってね。フォーチュンカップの様子では治安維持局の子飼って訳じゃあ無さそうだし、かといって噂で流れる位だし誤魔化し切れてる訳でもない。特に必要な情報でもないけど気になるでしょ？」

「…ふん、それはお前が聞いてもしょうがない事だ」

オッサンが片手を上げると同時に龍可ちゃんが見ている部屋のガラスにシャッターが下りて完全に見えなくなる。そしてデュエル中にも関わらず、ソリッドビジョンが消えディスクが待機状態に勝手に変更された。

「中々の腕だったけど、ワタシが欲しいモノでは無かった。しばらく眠ってるがいい」

「何っ……………」

オッサンが何かのカードをディスクに読み込ませると同時に睡魔が押し寄せ、そのまま意識が無くなってしまった。

## じゅうななわ（後書き）

前書きでも書きましたが遅くなってすみませんでした。

それにこれから大学が始まり本格的に卒論や就職などを考えていかなければならないのでレポートやテスト期間でもない限り投稿速度がかなり減速すると思います。

ですがきちんと投稿は続けて以降と思うのでこれからもよろしくお願ひします。

じとぞんじとげんじとほはさじつ(前書き)

休み最後の投稿ですが、デュエルの無いかなり短いお話です。  
暇つぶしにとつぞ。

TF6最初のプレイで最初の声が龍可ちゃんだった俺は勝ち組

## じんぞうにたんげんじゅうはせいじつ

目が覚めたら見覚えの無い質素な空間……………つまりは知らない部屋のベッドで寝ていた。

「……………知らない天井だ……………てか」

確か、オッサンとのデュエルしてなぶり殺しながら特に要らん情報について問い質してたら、デュエルを強制終了されて……………

あゝ、多分《催眠術》当たりのカードが使われたのか。デュエル中だから油断してたね。

だが、それにしても……………

「起きる度に窒息しかけずに起きれるのは素晴らしい」

毎回、濡れた布を顔に被せられてたからなあ。こんな些細な事でも素晴らしく思えるわ。

「ふん、今度はデッキも全部取り上げられてる、と。で、内側からは鍵の明け閉めが出来ない部屋か」

殺風景で窓すら無いけど、其処らの安ホテルよかは良い部屋。多分龍可ちゃんへの人質としての価値でこの待遇なんだろうね。捕まえられた時も傷を付けない様にされてたっばいし。

取り敢えず、小さいテーブルに置かれてた水差しからコップに水を入れて飲み、一息入れた。

「さて、此処にいるサイコ・デュエリスト共がアキの姉ちゃんやあのオッサンクラスの出力があったら色々面倒だな。デュエルで誤魔化すことも出来んし、食事を持ってくるのも最低でも二人位は居るだろうし、無理かな」

手詰まりどころじゃ無いね。どうするかな、龍可ちゃんをアイツ等のトコに置いてると悪影響を受けまくりそうなんだが。

具体的にはあのデッキにサイキック投入とか。明らかに事故る。

「それ以前に教育に宜しく無さそうだし、とっとと龍可ちゃん回収して逃げたいね」

雲丹のおじさん達は、まあ自力でどうにかするだろ。とすれば、先ずは脱出何だが、こんな時にクリボンのぬいぐるみに入ってる道具の数々が恋しくなるな。

「うーん、どう考えとも寝る以外はやることが無いな」

果報は寝て待て。取り敢えずはアチラ側のリアクション待ちかな。

ズドゥウウウウン！！！！

「うゝえあ！？」

寝ていた何の前触れも無く、いきなり激しい振動と衝撃音がしベツドから叩き落とされた。

「つてゝな。地震？」

部屋に置かれていた家具も転倒し、あの開かずの扉もあの振動の為にずれて無理矢理押し開けられそうになっているので、どれだけ強い地震だったかが分かる。

「脱出云々の前に、本震なり何なりが来る前に逃げ道を作るのを考えんとな」

丁度折れたテーブルの脚もあるし、今の俺の力でも何とかなるだろ。

部屋から出たのはいいものの、今にも崩れそうな感じで何か建物全体が予想異常にヤバイ。まあそのおかげで俺に構ってる余裕も無い様で、悠々とはいかないが問題なく動いている。

「龍可ちゃんはキッチンと避難出来るかな。あのオッサンなりその部下なりが避難させてくれていたらいいけど」

龍可ちゃんの居場所どころか今の現在地すら分からないし、適当にアルカディアムーブメントの連中を捕まえて聞き出した方がいいんだろうけど、残念な事にカードや損傷を少なく済ませるための道具もないし余り気が進まないなあ。手や服が汚れるし。まあ贅沢言ってる暇は無いんだけど、丁度この地震で他人にかまってる暇が無い奴らが単独でいるみたいだし。

「じゃあ、適当に避難しようとしてるのでも捕まえて聞き出すと・・・ってうお!!」

初めの地震何かとは比べものにならない位の振動が起き、思わず転んでしまったのと同時に上から降ってきた大きな瓦礫と地震とが相まって床を破壊し、足場を失った俺も巻き込まれ一気に下に転落する。

体が宙に浮いて減速なしで急速落下し、俺の目に更に降ってくる大小の瓦礫が映る。

この時、何故か冷静に死ぬ事を理解し前の世界や今の世界の思い出が脳裏で次々に蘇っていき、走馬燈は一人の人物の思い出に収束された。

「.....真美.....」

ズ  
シ  
ャ

## じんぞんじけんじゅうはぢいじつ(後書き)

今回でアルカディアムーブメント編は終了、次にやっとなぐナー共を出せます。ここまで本当に長かった。

この小説はパソコンで書いているため、次回からの更新は基本的に土曜日の夜から日曜日にかけての執筆となり、早くて2週間、遅くて1ヶ月と予想されますが、どうかこれからもよろしく願います。

それとここからはリアルであった事の愚痴になっていますので、興味の無い方はバック推奨。

土曜日に親戚の子を預かったのですが、ソイツがまた生意気な奴で中途半端な【カオス・ロード】のデッキを見せびらかし自慢しては《開闢の使者》が入ってなければデッキじゃ無いと俺のデッキをデイスったんですよ。

故にデュエルをして、《スクラップ・ツイン》でバウンスしたり《マシンナーズ・フォートレス》で破壊したり《サイバー・ツイン》で蹴散らしたりし、《裁き》や《開闢》を《奈落》したり《警告》したりしてたら7戦目にとつと泣き出して、兄や姉に怒られてしまいました。

俺も正直やり過ぎたと反省してますが、やはり自分のデッキに興味も無く難癖つけられるのはいい気持ちにはなりません。皆さんも知らず知らずにそうしない様に気をつけましょう。

じゅじぎゅう(前書き)

デュエルが無い部分はケータイでも書ける

話の都合上しばらくデュエルが無い

俺のケータイのバッテリーの寿命がマツハ

じゅじぎゅじゅ

【未練ニマミレタ魂ヨ。我ヲ求メヨ】

……………何だ、この声は？

【コノママ死ヲ受け入れ消滅スルカ、我ヲ求メ新タナ器トナルカ】

……………誰だ、何を言っている？

【消滅力応ジ未練ヲ晴ラスカ、遣サレシ道ハフタツノミ】

……………

【答エヨ、求メルカ否カ】

……………俺は約束を果すまでは死ねない。良いだろう、来い。そして俺に、もう一度チャンスを寄越せ！

【契約はなった。貴様は今より我の新たな器だ】

その声が聞こえると同時に、巨大な何か俺の中に入ってきたのが分かった。そして闇が収束していき……………

「……………」

気が付くと、辺りは一面瓦礫の山だった。

「いったい、何が？俺は確か……………監禁部屋から出て、アルカディ  
アムーブメントの奴を捕まえて…龍可ちゃんの居場所とデッキの在  
りかを聞き出そうとして……………」

降ってきた瓦礫によって足場を壊され、落下した。

「……………何で生きてんだ？」

しかも服も変わっているし腕には変な刺青みたいな痣と見覚えの無  
いデュエルディスク。

「貴方は生きていたのでは無く死んだのよ」

突如後ろから話し掛けられ、驚き振り返る。

「正確には死んで生まれ変わったと言うべきね。我等の神によって  
其処にいたのはテレビや映画等で良く見る人物と全く知らない人物  
だった。

「……………死んだとか生まれ変わったとか、意味が良く分からないね。  
我等の神とか言うのも俺には心当たりすら無いし」

本当は目の前にいる人物の言う事が大体の真実を言い当てている確信はあった。遊戯王には良くあることだし、俺は実際に一度、前の俺から龍亞になつたし、あの夢に出てきた『声の主』について考えれば答は出る。

だけど、認めたく無かった。形は違えどこんな風な痣をもつた人達を知っていたし、この痣がその人達のとほ真逆なモノとも感じていたから。

「そのままの意味よ。貴方は一度死に我等の神に選ばれ生まれ変わった」

五月蠅い、黙れ。その先は聞きたくない、知りたくないんだ！

「そう、ダークシグナーとなり神の器となつたのよ」

「……………ダークシグナー、ね。だとしたら、アンタ等もそうなんですかね？ミステイさん」

「ええ、そうよ。本当は別の用で来たのだけど、貴方に逢えたのは運が良かったわ」

そう言つて俺に手を伸ばす。

「まだ、色々と受け入れ難いのもあるでしょうがこれは現実。だけど、私達は同じ使命を持った仲間。貴方の力になる事が出来るわ」  
言っている事に説得力を持っている様に思え、人を無性に惹き付ける魅力を持つ声。

成る程、これが俗に言う『カリスマ』か。これがそうなら完全に瀟洒なメイドがおせうに心酔するのも分かる。

何にしても情報が足りない。このまま龍可ちゃんが無事だとしても居場所が分からないし、合流出来たとしても、コイツ等や治安維持局が黙ってるとは思えんしな。

「……………やっぱりコッチには選択肢が無いね。最近はそのなのばっかだ」

俺はミスティさんの手を取った。

まずはこのふざけた茶番の裏側を知る必要がある。その為ならコイツ等の処に行くのが手っ取り早い。

アイツとの約束の為ならどんな事でもやってやるぞ。

## じゅっきゆう（後書き）

遊戯王で主人公のエースの攻撃力は2500、そしてライバルのエースの攻撃力は3000。

これを鑑みてGXを見返すと、主人公である十代のエース《E・HERO ネオス》攻撃力2500で条件はクリアしている。

ライバルは基本的に初めは敵対、でなくとも仲が良いとは言えない状態で始まり途中からは普通に仲間している。

エースの攻撃力3000で上記の条件に当てはまるキャラ、そう！つまりは《古代の機械巨人》を使い、最終的には三体融合《古代の機械究極巨人》を出したクロノス教諭がGXのライバルキャラだったんだよ！！

にじゅうわ(前書き)

デュエルが無い話は長く書き難いから基本短め

スクラップはマイナーじゃないやい

## にじゅうわ

俺がダグナーとなって数日、他のダグナー共は個性が強いと言うか、キャラが濃いため余り一緒にいたくないので一人で居る事が多いこの頃。

まあ話し相手には困ってはいないし、特に困ってはいないけどね。

「で鯨クンよ、その冥府の神とか言うのを復活だか降臨だかさせて、具体的にその後はどうすんのさ。世界は滅びんだろ？」

【……………宿主よ、何度も言うが我は《地縛神 Chacu Chailhua》。その様に呼ばれる筋合いは無い】

「別にいいじゃん、鯨の地上絵の地縛神なんだから。しかも宿主の俺を支配下に置く所か心理的な影響すら与えられて無いし、神様って言われてもなあ」

【ぐぬう、だがそれは……………】

「他のダグナー共の地縛神に比べるとぶっちゃけ弱いよね。何と云うか、《パワー・ツール》にも言える事だけど効果もいまいちパツとしないし。サイバー系の様な圧倒的パワーなりスクラップの様な優秀な除去や後続に続けられる蘇生・回収の効果とかがあればもっと役に立つのにねえ」

【……………】

「まあ、今更こんな事言ってもしょうが無いけどね。取り敢えず、

お前でも活躍できる様なデッキに調整しないとイケないなあ。この地縛神特製お試しデッキじゃあ満足のいくデュエルはできんし」

最早鯨からのテレパシーみたいなのが途絶え、完全に一人言みたいになっているけど、考えを纏めるのには実際に声に出す方がやり易い。

「まずは、やっぱ家に帰ってあのデッキを回収してそれをベースに他のパーツで補完していくのが一番かな。『D』と『スクラップ』はあのビル崩壊に巻き込まれて無事じゃないだろうし」

うん、そうと決まったらルドガーから許可を貰ってネオ・ドミノシティに戻るとするか。

「ふん、別に構わん。奴等との決戦迄に戻ってくるのならな」

との有難いお言葉を頂いたので、早速行く事にしたけど他に変なフラグを立てる様な事も言いやがった。

「龍亞よ、最近シグナー共の他に我々の事を探っている奴等がいる。特にコチラ側から動く必要は無いが、見つけたら潰しておけ」

おいおい、止めるよ。メチャクチャ厄介事じゃねえか。見付けても基本はスルーするよ。

「世の中変わった連中もいるもんだね。どしどしまらまらどしどし」

にじゅうわ(後書き)

誰かダグナー龍可ちゃんの絵を描いてくれないかなあ

(21) (前書き)

連続短文投稿。

お喋りフェイズ。

「ふん、この様子だと龍可ちゃんは家に一度も帰って来てないみたいだね」

今居られても困るけど、安否の確認が出来ないのは困るね。

「しょうがないし、とっとと取るもん取って他のカード集めに移るかな」

と自室に置いてある、あのデッキを回収に行く。

【……随分と多くのカードを所持しているのだな】

「ん？ やつと機嫌を直したのか鯨。まあねえ、親もレアカードを余分に手に入れたらコッチに送ってくるし、俺や龍可ちゃんですれ入れたのもあるからね」

【龍可、宿主の妹でありシグナーでもある娘か】

「……………俺は龍可ちゃんの事を喋った事無かったのに何で知ってただよ。名前が似てるから妹と分かったてのを抜かしてもよお」

【我は契約が成された時には宿主と同化しているのに近い状態だ。宿主の記憶から情報を得るなど、今の我でも容易いこと】

「俺の軀に干渉は出来なくても内側から色々出来るってわけか。」

【本来なら宿主の様な狂人でも無い限りは器が我等の支配から逃れ

る事は出来無いハズなのだ。それが記憶の読み取りぐらいしか出来ん。どれ程宿主が異常かが分かると言うモノだろう】

「人を狂人呼ばわりしてんじゃねえよ」

【自身も認識せず、他者から見ても悟らせぬ狂人程質の悪いモノは珍しいからうな。

宿主は否定するが、人間共の常識では、まだ自我の薄い幼子を使い、その者の本来の生き方をねじ曲げ既に死人である者の人格を再現しようとするのは狂人の域であろう。しかも考えるだけで無く、方向性を与える事で宿主が居なくとも時間は掛かるにせよ完成する程に仕込んだとなれば宿主を狂人と断ずるのに否定する者は居らぬだろう】

「ハッ、つまり地縛神はその程度の狂人に押さえ付けられる様な存在って事を言いたいのか」

【何、先程述べたのは分かりやすく宿主が狂人であると示す行為だ。コレなど宿主が内包している狂気の上澄みの表面でしかない。内側に渦巻いている狂気は冥府の怨念に近いモノ。

我には宿主が今迄に何の問題なく人間共と共生出来た事が驚きだ。宿主の狂気は確実に他者に影響し、短期間で毒素の様にその者を蝕み、存在の整合性を失わせるであろうからな。

だが、宿主の記憶を見る限りその様な事は起きていない。あたかも宿主自身がコントロールして押さええている様にすら思える】

「チツ、好き勝手言いやがって。俺は細菌兵器か何かか。今更どうでもいいだろ。今必要なのは足りない分のカードの回収だ」

【そうか、してどうやって回収するつもりだ？】

「決まってるだろ、持っている奴を潰して手に入れればいい。いつもなら龍可ちゃんがかモを見付けてもくれるんだけど」

【宿主は狂人で無くとも世間一般的にクズと呼ばれる人種であるな】

「黙ってる、反論できないから」

(21) (後書き)

そろそろデュエルをさせたい。

てか、話を進めたい。

## にいいい（前書き）

プレゼントにクッキーを作ってる横から要らんと言ってるのに、「レズン入れたら」とか「ナッツを入れたら」とかしつこく言ってる五ヶ月蠅い上にそれ等を横に置いて作業を邪魔したりする、そんな人間にはならない様にしましょう。

にうにう

「思ったより時間が掛かったけど、決戦には間に合ったみたいだね」

旧モーメントの付近にシグナーとダグナーの気配がある。シグナー側の気配がちゃんと四つ揃っているのには安心した。

【宿主よ、本気でやるつもりか】

「聞かなくても分かるだろ、その為の準備だったんだ。それに最終的にはダグナーの使命とやらとも合致するしね」

【やはり宿主は狂人だな】

「今更どうでもいいよ。俺は龍可ちゃんの為に舞台を整えてご招待するだけさ」

さて、ダグナーの奴等は各々自分の目当てに夢中だろうし、コチラも好きにやらせて貰うとするか。

「龍可ちゃんの気配が途絶えて、精霊世界から戻ってくるまでが勝負だね」

【宿主、あの預言者等とほざく娘の言うことを信用する気か？】

「あのハゲが精霊世界にちょっかいかけてんのは本当だし、あながち的外れとは言えないからね。参考程度にはするさ」

余裕を持って確実に、ね。

「……………龍亞か、何の用だ」

「ちょっとした野暮用だよ。時間は取らせないし、少し付き合ってくれたらいいよ」

「……………早めにしろ。シグナー共を抹殺し冥府の扉を開くのが我等の使命なのだ。無駄な時間なぞ、一秒すら無いのだからな」

「時間を無駄にしたくないのは同感だよ。俺の用はコレさ」

その瞬間、辺りに炎の壁が辺りを囲み、鯨の地上絵が描かれた。

「何のつもりだ？」

「決まってるだろ、闇のデュエルだよ。ちょっとした実験も兼ねて、お前の命と龍可ちゃんの竜のカードを貰うためのね」

「クッククック、笑止！！やはり所詮は子供。下らん情なぞに流されよって、俺が粛正してくれるわ！！」

「デュエル！」  
「デュエルだ!!!」

「俺の先攻、ドロー！《手札断殺》を発動！互いに手札を二枚墓地に送りデッキから二枚ドローする！」

《手札断殺》 速効魔法

お互いのプレイヤーは手札をカードを2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドローする

「モンスターをセットしてカードを四枚伏せてターンエンド！」

龍亞 LP4000 HO

モンスター1

伏せ1

魔法・罠4

伏せ4

「ふん、アレだけの大口を叩いて起きながらコレとは。私のターン、ドロー！」

「このドローフェイズにリバースカード《真実の眼》《シモツチによる副作用》を発動。さあ、手札を公開して貰うよ」

《真実の眼》 永続罠

このカードがフィールド上に存在する限り、相手は手札を公開し続ける。

相手のスタンバイフェイズ時に相手の手札に魔法カードが存在する場合、相手は1000ライフポイント回復する。

《シモツチによる副作用》 永続罠

このカードがフィールド上に存在する限り、相手ライフを回復する効果は、相手ライフにダメージを与える効果になる。

「くっ…」

デイマク 手札

《マジシャンズ・エイプ》 効果モンスター

3 闇属性 獣族 攻800/守1200

このカードは特殊召喚できない。

このカードがフィールド上に表側攻撃表示で存在する場合、1ターンに1度、手札のモンスター1体を墓地へ送り、相手フィールド上に表側守備表示で存在するモンスター1体を選択して発動する事ができる。

このターンのエンドフェイズ時まで、選択したモンスターのコントロールを得る。

この効果でコントロールを得たモンスターは、このターン表示形式を変更する事はできない。

《悪夢の鉄檻》 通常魔法

全てのモンスターは（相手ターンで数えて）2ターンの間攻撃できない。

2ターン後このカードを破壊する。

《DTダーク・エイプ》 ダークチューナー（効果モンスター）  
未OCG

2 闇属性 獣族 攻0/守0

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

このカードがダークシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地に送られた場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

《ダーク・マター》 通常罫 未OCG

フィールド上に存在するダークシンクロモンスターが戦闘またはカードの効果によって破壊された場合に発動する事ができる。

自分フィールド上に「ダーク・マター・トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を表側守備表示で特殊召喚する。

このトークンは戦闘では破壊されず、次のターンのエンドフェイズ時に破壊される。

《クロウザー・フォレスト》 フィールド魔法

自分の墓地に存在するモンスター1体につき、自分フィールド上に表側表示で存在する獣族モンスターの攻撃力は100ポイントアップする。

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド魔法カードを発動する事はできない。

このカードが破壊されたターン、フィールド魔法カードを発動する事はできない。

《キング・オブ・ビースト》 効果モンスター

7 地属性 獣族 攻2500/守800

自分フィールド上に表側表示で存在する「モジャ」1体をリリースして発動する。

このカードを手札または墓地から特殊召喚する。

「キング・オブ・ビースト」はフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

「あゝ、やっぱ其所等の雑魚とは違って、緑一色とか上級オンリーとかではないね。スタンバイフェイズに《ダスト・シユート》で《マジシャンズ・エイプ》をデッキに戻すよ」

《ダスト・シユート》 通常罠

相手の手札が4枚以上の場合に発動する事ができる。

相手の手札を確認してモンスターカード1枚を選択し、そのカードを持ち主のデッキに戻す。

デイマク LP4000 3000

「……私は《DTダーク・エイプ》を守備表示で召喚し《悪夢の鉄檻》を発動。フィールド魔法をセットしてターンエンドだ」

デイマク LP3000 H3

モンスター1

《DTダーク・エイプ》(守)

魔法・罠1

《悪夢の鉄檻》【 】【

F伏せ

「ドロー！……ダグナー相手にこれぐらいの効果があれば十分か。《クリッター》を召喚して《メタモルポット》を反転召喚。互いに手札を捨てデッキから五枚ドローする」

《クリッター》 効果モンスター

3 闇属性 悪魔族 攻1000/守600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

《メタモルポット》 効果モンスター

2 地属性 岩石族 攻700/守600

リバース：お互いの手札を全て捨てる。

その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

デイマク 手札

《聖なるバリア・ミラーフォース》 通常罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

《テラ・フォーミング》 通常魔法

自分のデッキからフィールド魔法カードを1枚手札に加える。

《森の番人グリーン・バブーン》 効果モンスター

7 地属性 獣族 攻2600/守1800

自分フィールド上に存在する獣族モンスターが破壊され墓地へ送られた時、1000ライフポイントを払って発動する事ができる。

このカードを手札または墓地から特殊召喚する。

《呪縛牢》 永續罫

自分のエクストラデッキからシンクロモンスター1体を自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは効果を発動する事はできず、

効果は無効化される。

また、表示形式を変更する事はできない。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールドから離れた時、このカードを破壊する。

《キャトルミューティレーション》 通常罫

自分フィールド上に表側表示で存在する獣族モンスター1体を手札に戻し、手札から戻したモンスターと同じレベルの獣族モンスター1体を特殊召喚する。

「おやおやおや、今回の手札も余り良い手札とは言えないね」

「ぐつ、だが貴様ごときには十分だ！」

「そう？なら《異次元の指名者》を発動。俺は《ミラーフォース》を宣言！さあさあ、手札にあるなら除外して貰おうか」

《異次元の指名者》 通常魔法

カード名を1つ宣言する。

相手の手札を確認し、宣言したカードが相手の手札に存在する場合、そのカード1枚をゲームから除外する。

宣言したカードが相手の手札に存在しなかった場合、自分の手札をランダムに1枚ゲームから除外する。

「っ！」

「《クリッター》をリリースしてリバーズカード《闇霊術 - 欲》を発動、俺は二枚ドロウ出来るけど相手が魔法カードを見せれば無効に出来る。まあ後半の今は関係ないけどね。墓地に行ったク

リッターの効果で《ネクロ・ガードナー》を手札に加え、デッキから二枚ドロー！」

《闇霊術 - 「欲」》 通常罫

自分フィールド上に存在する闇属性モンスター1体を生け贄に捧げて発動する。

相手は手札から魔法カード1枚を見せる事でこの効果を無効にする事ができる。

見せなかった場合、自分はデッキからカードを2枚ドローする。

「《月の書》で《メタモルポット》を裏守備に変更。そしてカードを三枚伏せてターンエンド！」

《月の書》 速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、裏側守備表示にする。

龍亞 LP4000 H3

モンスター1

伏せ1

魔法・罫5

伏せ3

《真実の眼》

《シモッチによる副作用》

「私のターン、ドローだ！」

ディマク ドローカード

《野生解放》 通常魔法

フィールド上に表側表示で存在する獣族・獣戦士族モンスター1体

の攻撃力は、そのモンスターの守備力の数値分だけアップする。  
エンドフェイズ時そのモンスターを破壊する。

「《マインド・クラッシュ》を発動、《グリーン・バブーン》を宣言するよ。」

デイマク LP3000 2000

「くっ、カードを三枚伏せ《テラ・フォーミング》を発動！《クロザー・フォレスト》をデッキから手札に加え伏せていた《クロザー・フォレスト》を発動する！」

《DTダーク・エイプ》 ATK0 100

「《ダーク・エイプ》で《メタモルポット》を攻撃する！」

「うん。勿体ないけど、リバーズカード《魔法の筒》を発動！攻撃を無効にして攻撃モンスターの攻撃力分を相手のライフに与える！」

《魔法の筒》 通常罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

デイマク LP2000 1900

「ぬう、ターンエンドだ！」

「その前にリバーズカード《終焉の焰》を発動。《黒焰トークン》

を二体を特殊召喚する！」

《終焉の焰》 速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

自分フィールド上に「黒焰トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは闇属性モンスター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

ディマク LP1900 H1

モンスター1

《DTダーク・エイプ》（攻）

魔法・罫4

伏せ3

《悪夢の鉄檻》【 】

F《クローザー・フォレスト》

「ドロー！おつ、これは《メタモルポット》は必要ないね。丁度フィールド魔法も出して貰ってるし、ディマク、覚悟はいいかな？」

龍亞が何を引いたのかを悟ったディマクの顔が青ざめる。

「なっ、まさか！」

「《黒焰トークン》二体をリリース。我が半身よ、弱者の魂を糧とし地の底から降臨せよ！《地縛神 Chacu Chalhua》  
《！…！》



あああああああ！！！！！」

ディマク LP1900 0

「うん、ダグナーにもコレだけ効果があればシグナーにも十分効果が期待できそうだね」

【宿主の異常な狂気に何故か安定した精神の成せる技か。今回のデユエルを見る限り、コレだけでの完封は未だ無理そうだが】

「つい最近使えるようになったばっかだしね。まあ熟練度が足らんから赤き龍と強力な精霊に護られてる龍可ちゃんには余り効果はないかもだけど」

「ぬおおおお……………」

呻く声の方を見ると、体が崩れていくがまだ息はあるディマクがいる。

「あの攻撃を受けてまだ意識があるのか、さすがはダグナーと言いたいけど……………」

正直、見苦しいわ

ダンッー！

ザアアアアア……………

デイマクが跡形も無く消え、一枚のシンクロモンスターのカードが残った。

「ふーん、これが《エンシエント・フェアリー・ドラゴン》か。確かに結構な力はあるっぽいし、地縛神メタな効果も持つてるね」

【デイマクが消えた事で《C u s i l l u》の束縛も消え、精霊世界のヤツも自由になった事だろう。宿主、最早後戻りは出来ぬぞ】

「後戻りする必要性が無いね。やる事をするだけだ」

シグナーの気配が近距離で一つ増える。それに前は分からなかった精霊の気配も同時に幾体も感じられる。

「さて、鯨。俺の思惑とお前の使命、どちらが叶うかな」

【それこそ今更な事。宿主かシグナーの娘か、ただ強い者が生き残る。それだけだろう】

シグナーやダークシグナーとは関係なく、懐かしくも愛しい気配がスグ近くを感じる。

「くっくっく、違くないね」

「……………龍亞……………」

耳心地の良い、聞きなれた懐かしい声。

龍可ちゃん、君は俺の望み……………あの遠い日のあの約束を叶えさせてくれるのかな？

「久しぶりだね、龍可ちゃん。ちょっと、世界の命運を賭けて遊ぼうか？」

## にゃにゃい（後書き）

ピーピングは相手にされるとひたすらにウザイけど、やって回ると癖になります。

今回のデュエルで《闇霊術 - 「欲」》を何故無効に出来ないかというところ、

Q：《真実の眼》が存在する時、相手は手札のモンスターを公開することはできますか？

A：できません。（10/07/14）

という裁定のためです。これは遊戯王WIKIで《野望のゴーフア―》のページで確認できます。

ちなみにこの状態だと《ゴーフア―》の効果を防がれなくなる代わりに、破壊効果が常に確定になるため《スターダスト》で無効にされ破壊されます。

そして最後に皆さんにお聞きしますが、龍亞VS龍可のデュエルにて漫画・アニメ・ゲーム等に登場しない、作者が考えたオリカを使ってもいいか。

ある程度まで待ち、総計して23話を執筆したいと思いますのでご意見を願います。

## 質問

本編の続きで無くてすみません。

今回は皆さんに一つお訊きしたい事があります。

この前友人に、

『この小説の題名の機械竜が《パワー・ツール》の事なら題名詐欺じゃね？Dも活躍してねえし、出しにくいなら別のに替えて小説を修正するなり題名変えるなりすれば？』  
と言われたので皆さんの意見をお訊きしたいです。

？無視してこのまま続行

？一部内容の修正

？題名の変更

どれが良いと思いますか？

他にも何か意見があればお願いします。

## 1) 報告

質問でお訊きしたい意見を元に答を出したのでご報告させて頂きたいと思います。

その前に質問に答えて下さった鴉様、サティス何たら様、亀7様、未来組様、鉄様、巴様、神風大将様、本当にありがとうございます。個別での返答は後日、時間を作りパソコンでまとめてやらせて頂きます。

本題ですが、？のこのまま続行で行きたいと思います。《パワー・ツール》には頑張つて貰いたい話が頭に幾つかあり、節目にもやはり重要な役割があるためです。

ですが、友人の指摘も尤もなため一つの縛りをこの場で発表したいと思います。

【龍亞もどきのデツキに『竜みたいな機械』又は『機械みたいな竜』を必ず入れる】

というものです。Dなら《パワー・ツール・ドラゴン》

サイバーなら《カメラテック・オーバー・ドラゴン》や《サイバー・ツイン・ドラゴン》

スクラップなら《スクラップ・ドラゴン》に《スクラップ・ツイン・ドラゴン》

勿論、ダグナー龍亞もどきにも如何なる方法を用いても使わせません。

例外としては、『他人のデッキ』『アカデミアの授業での種族縛りデッキ』となります。

このような小説ですが、どうか生暖かく見守ってください。

これからもよろしくお願いいたします。

## それいけ龍可ちゃん（前書き）

この龍可ちゃんの話を考えてたらふと、アキさんの話を思いついて龍可ちゃんの方が書きやすいネタと言っのに気づいた。

どうしよう………

## それいけ龍可ちゃん

龍可です。今は精霊世界にいます。

何でこんな所にいるかというと、アルカディアムーブメントのビルを破壊し、龍亞を捲き込んだダークシグナー殲滅の為に、サテライトにある旧モーメント付近でダークシグナー狩りを遊星達、シグナーの仲間達と向かってたら突然変なところに飛ばされてしまいました。ユベル達の話聞く限りここはDMの精霊世界らしいけど、何か思ってたのと違いました。

「……………変なサルしかいない……………」

【サル共はこの変な杖みたいので武装していて、町は空っぽ。ここはすでにサル共の制圧下で住民は逃げたか捕まったか、殺されたか……。どれにしようところには用はないし、ヴェノミナーガと合流して別の場所にいつてみるしか無いね】

「……………うん……………それにしても邪魔……………」

辺りにはユベルに吹き飛ばされたサルの残骸や毒にやられ溶解したサル、叩き折られた杖しかありません。ゴミばかりで景観が損なってますね。

【ん、来たようだね。それに何か見つけた様だ】

【主にユベル、先程から物影から妾達を見ていた者だ。他のサル共とは違う容姿ゆえ連れ帰ってみた】

右蛇で簀巻きにしていたのをほどこき地面に落としたのは、魔法使い族の子供みいだった。姿は《ミラクル・フリッパー》のカードイラストに似てる。

「痛タタタ。何をするんじや！突然大蛇に巻き付かれコレからどうなってしまうかと思っていたら急に落とすおつて！もう少し労らんかいっ！」

「……………ナニコレ？」

【この町の生き残りか、逃げ遅れたノロマだろうね。どっちにしろこれで詳しく話を聞き出せる訳だ。ヴェノミナーガのお手柄だね】

【妾はこの様な者とは会話しよう無い故、後は主とユベルに任せる】

【わかった、ヴェノミナーガは終るまで辺りを警戒しておいてよ。さて、おい小僧、少し聞きたい事がある】

「ワシは小僧では無い！今ではこんなナリだが元はっ……………！」

【そんな事は聞いていないよ。ヴェノミナーガが言ってた通り、ボク等を見ていたならわかるよね。キミ程度なら今すぐにでも殺せる。それを弁えて物事を考えるといいよ】

ユベルがあの子の頭を被り物毎ワシ掴みにして脅迫もとい、質問の協力を取り次ぎ、あの子も必死になって同意の意を示しているけど、



じゃあ、その話に出てきたレグルスって奴の所に案内しなよ。ボク達もいつまでもここに居られるワケじゃないしね【】

「うむ！お主達の力を借りる事が出来ればサル共も怖くは無いの！少し遠いがコツチじゃ！」

【ふむ、終わった様じゃの。して、これからどうするのじゃ】

【一先ず、アレに協力して目的の竜かを確認してみて、違えばその時に考えるそうだよ】

【そうか、主がそう決めたのなら妾はソレに従うまでじゃ】

「……………今度は森だから……………またネフティスはお留守番ね……………」

【で、レグルスとやらはご乱心にも程があるぐらいにコツチの言う事を全く聞かないんだけど、どういう事かな】

「う、うむ。多分、あの『カード・ニードル』でコチラの言うてる事の意味が反対になって聞こえているのではないか……………」

話を通じないのには変わらない。只でさえイラついているのに、人の神経を逆なでしてくれるね。

「……………ユベル……………ナーガ……………あの白いのを方法を問わないから……………早く黙らせて……………」

【……………龍可がお怒りの様だ。ヴェノミナーガ、早々にアレの動きを止めるよ】

【うむ、今は主の片割れが居らぬからな。主を宥める事が出来る者が居らぬのは大変じゃ】

ユベルがエネルギー弾を放ち、ヴェノミナーガはその猛毒を辺りに放ちレグルスの足場を奪いその動きを抑制する。

「貴様らゼーマンの手先なんぞに後れを取るワタシでは無いわ!!」

【いつその事、殺れたらスグなんだけど、そう言う訳にもいかないのが大変だ】

【妾達は手を抜くのが得意では無いからの。だが、早くせねば主の殺気が臨界点に達してしまう】

【頑張るしかないね。ヤレヤレ、変わった主人を持つのはやっぱり大変だね】

「シグナーの方とは知らず、無礼をお許してください」

【ソレよりも、龍可を精霊世界に呼んだのはキミなら戻すことも勿論、できるんだよね】

「ええ、ですが今は更にゼーマンのマイナスエネルギーが強く、ワタシの力だけでは難しいのです。奴を倒し、エンシャント・フェアリー様のお力を借りれば元の場所に送り替えす事ができます」

【ふん、結局はソコに行き付くのか。まあ主のシグナーとしての竜なわけじゃし、助けてやつても損は無いかの】

「……………必要ではあるけど……………そう時間は掛けられない……………早々に倒すよ……………」

「流石は龍可ちゃん！そこなくては！！」

「ではゼーマンの城に案内いたします。私の背にお乗りください」

「……………だが断る……………」

「なっ！？」

「ル、龍可ちゃん！？何を言っているのじゃ！」

「……………陸路より空路の方が早いのは……………確定的に明らか……………」





それいけ龍可ちゃん（後書き）

本編次話についてのご報告。

皆さんのご意見を見て考えた結果、オリカ等はこれからも極力出さずに行こうと思います。

これからもこの小説をよろしく願います。

にいさん(前書き)

DSのWCS2011をやったら《強欲の壺》に《天使の施し》、  
《マキユラ》や《現世と冥界の逆転》を三積みしてるっぽい人と当  
たったんですが、禁止・制限を無視して勝って楽しいんですかね？

にいさん

偉そうな変な猿をユベル達に細切れにさせ、何とか元の世界に戻って来たら、ソコにとても懐かしく、愛しく思うヒトがいた。だけど

.....

「.....龍亞.....?」

訊くまでも無い、意味の無い呼び掛け。私が龍亞を見間違っ事なんてあり得ない。だけど、何か引つ掛かる違和感、それが胸に広がり言い表し様の無い不安が全身を駆け巡る。

そんな不安に戸惑っていると龍亞がこちらに振り向いた。ソコには、あの時に見たダークシグナー共と同じ様な黒い眼にマーカミみたいな刺青をした、龍亞がいた。

間違い無く、確かに龍亞だった。

いつもと変わらない笑みで私を見てくれてる龍亞。精霊達の声も耳に入らない位にみとれ、私の何かを激しく警鐘を鳴らしているのを感じていた。

「久しぶりだね、龍可ちゃん」

龍亞の声。ずっと聴きたいと願ってた優しい声。

本当に、最後に合った時と変わらない.....

なのに何で？

そんな冷たい眼で私を見るの？

「ちょっと、世界の命運を賭けて遊ぼうか？」

そう龍亞が言った瞬間、あの不気味な炎の壁が周りを囲む様に燃え立つ。

【龍可！しっかりしろ！！アイツは敵だ！！】

違う、そんな事認めない。

【龍可！！】

龍亞はいつも、いつでも私の味方だった。

これからも、ずっと私の……

戸惑っている私の姿を見た龍亞が苦笑めいた表情で軽く首を傾げ、眼差しもいつもの龍亞のモノになる。

「ん、ちょっと急過ぎたかな？龍可ちゃん達にとっては余り時間は無いだろうけど、軽く何か話してからにしようか」

ちよいちよいと龍亞が手招きするのに意識せずとも条件反射に龍亞の下に駆け寄り、再びユベルの叱責の声が上がるが無視した。

「龍可ちゃんこんな風に話すのは久しぶりだね。これまでの間、龍可ちゃんがどんな事してきたのか聞いてもいい？」

「……………うん……………」

アルカディアムーブメントで別れてからの事を思い出しながら、出来る限りゆっくり話した。龍亞も急かす事無く軽く相槌を打ちながら静かに聞き、時たま褒めて頭を撫でたりしてくれた。

「色々頑張っただね、龍可ちゃん。じゃあシグナーとして何をすればいいのかも分かるよね？」

「……………」

「今の俺は地縛神に使われる人形みたいなモノ、地縛神の意図に反しない範囲では自由に出来るけどソレを侵したら俺は完全に意識を奪われる。そんなのにはもう耐えられないんだよ」

そう言つて龍亞は私の頭をゆっくりと撫でる。

「龍可ちゃんに酷い事を頼んでいるのは分ってる。だけど俺は他の誰でもない、龍可ちゃんに倒して欲しいんだよ。」

「……………龍亞……………」

「お願い出来るかな？」

正直に嫌だと言えたらどんなに楽だろう。だけど、龍亞の疲れた表情を見たらそんな事は言っではいけないと分かる。

私が、龍亞に頼らずにやらないといけない事だ。

「……………分かった。私が、龍亞を、倒してあげる」

「……………ありがとう、龍可ちゃん。せめてコレを渡しておくよ」

「……！」

「《エンシエント・フェアリー・ドラゴン》、龍可ちゃんの竜で合ってるよね？」

精霊世界で助けたウナギっぽいドラゴンのイラストが描かれたシンクロのカード。確かにシグナーとしての私を護ってくれるらしい竜だった。

「何で？これは……」

「俺の地縛神は真正面からシグナーを撃ち破るのを望んでいるからね。……………コレぐらいしか今の俺に出来ることは無いけど、頑張ってるね」

龍亞が軽く私を撫で、私から幾らか距離を取りディスクを構える。

私も《エンシエント・フェアリー・ドラゴン》をEXデッキに入れディスクを構える。

「いくよ、龍可ちゃん」

どちらが勝手もコレで最後になるだろっデュエル。

「デュエル!!」

責めて心残りが出来ない位のデュエルを……

にいさん(後書き)

自由時間が五時間、いや三時間でいいから欲しい…

## とある龍可ちゃんの日（前書き）

パソコンが使えない上に龍亞もどきのデッキが面倒で書きにくく、遅々として進まないから繋ぎとして前に罰ゲームとして即興で書かれた番外編を再録しました。

前に書かされたモノをそのまま載せたから《クリポン》が《クリボン》だったり龍可ちゃんが本編とかと違っても気にしないで下さい。

## とある龍可ちゃんの日

龍可です。朝7時、いつも通りに目覚まし時計の音で1日が始まります。

バジヤマから服に着替えた後、目覚まし時計を床に叩き付けて睡眠を続けている龍可を起こす準備の為に、ハンカチを持ち洗面台に向かいます。

準備を終えたら未だに寝ている龍可に広げたハンカチを顔に被せて暫く放置します。始めの数秒は反応は無いけど、徐々に龍可がもがく様にリアクションを取り始めたらもうすぐ起きるので携帯酸素が直ぐ使える様に用意します。

「むぐはっ!!」

龍可が奇声を発しながら水に濡れて顔にくっついていたハンカチを剥がしたらさつと携帯酸素を渡してあげます。

「……………おはよう……………」

渡した後はきちんとおはようと言いましょ。親しい相手ほどこういう礼儀は大切です。

「あ、ああ、うん。おはよう龍可ちゃん。お願いだからもっと普通に起こしてくれたら、お兄ちゃん嬉しいんだけどね?」

呼吸を整えた龍可もちゃんと返してくれます。やはり同じ生活空間で過ごすからこそ挨拶などはちゃんとしないと。それと後半部分は

流します。アレが一番龍亞を早く起こせる方法ですから。

「……………髪……………」  
「ん、じゃ後ろを向いてね」

朝の挨拶の後は、龍亞に櫛を渡して髪をといて貰います。自分でもできますが前からの習慣もあって龍亞にして貰います。

髪をといて貰った後は2人で朝食を用意します。龍亞は頑として朝は和食と譲らない為いつも朝御飯は和食になります。今日の朝御飯はご飯に味噌汁、鮭の切身焼でした。

洗い物を終えたらそれぞれ役割分担された家事を朝の内に済ませて昼はゆっくり過ごします。

暇な時、龍亞は外に出かける事が多いですが今日は家でゆっくり過ごすみたいです。そういう時の龍亞はデッキを調整したり新しいデッキを量産したりしています。

龍亞は使わないデッキを無駄に作る変わった趣味を持っていますが、別に変人というわけではありません。世間一般からズレているだけです。

私の場合いつもは、暇な時には本を読んだり音楽を聴いたり精霊達と話したり龍亞に着せる服をカタログを見て選んだり等をして過ごしていますが、今回は龍亞がいるのでマクラにしてお昼寝をします。その際には龍亞は動けなくなります。ガマンして貰い、もしイタズラなどされても精霊達が見張っているのですぐ分かります。

そんなこんなで夕方、そろそろ晩御飯の準備を始める頃ですが、龍

亞は何かぶるぶるしてソファーに座ったままなので足をつついて叱咤します。

「~~~~~っ!!」

そうすると悶えながらもゆっくりとですが動き出します。数分もするとちゃんと歩ける様になるので、その間に食材と器具の用意をします。

夕御飯は朝御飯とは違い洋食が多くなります。今回はチーズをたっぷり使ったドリアンにデザートは苺のシャーベットです。

食後は交互にお風呂に入りテレビを見て過ごしますが、龍亞はライディングデュエルの番組になると

「何でわざわざバイクに乗ってデュエルするのさ。しかも普通の魔法が使えないし。きちんとサポートカードが使えなくなるデュエリストの事を考えてルールや効果を作ったの?」

などと愚痴る時がありますが、流してあげます。龍亞が作るデッキはテーマデッキが殆どで専用の魔法カードをスピードスペルで代用できず《スピードワールド》の効果で大半が使い物にならなくなるのを私は知っていますから。

そして時計が12時になる前にパジャマに着替えてベッドに入ります。クリボンのぬいぐるみを抱きながらまた明日は、龍亞に被せるハンカチを二枚にしてみるかな等を考えている内に眠りにつきます。

そして本格的に睡魔が来る前に隣向かって呟きます

「 ..... お休み、  
龍亞 ..... 」

とある龍可ちゃんの日（後書き）

素直に【チャルアイター】とかにさせとけばよかった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7233u/>

---

遊戯王5 D's もどき ~ 機械竜を従えし少年 ~

2011年10月30日06時11分発行